

第七編 雜

◎國有財產法(大正十年四月八日
法律第四十三號)

第一條 本法ニ於テ國有財產ト稱スルハ國有ノ不動產並勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動產及權利ヲ謂フ

第二條 國有財產ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 公共用財產 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
- 二 公用財產 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
- 三 營林財產 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
- 四 雜種財產 前各號ニ屬セサルモノ

第三條 國有財產ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財產ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ

第四條 國有財產ハ雜種財產ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲナサシムルハ此ノ

限ニ在ラス

第五條 雜種財產ハ左ニ掲クル場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得

- 一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲必要アルトキ
- 二 公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ
- 三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財產ヲ其ノ合併シタル神社寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財產ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限り之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財產ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限り帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキ

ハ金錢ヲ以テ補足スヘシ

第八條 用途及期間ヲ指定シテ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲナスコトヲ得

第十條 國有財産ニ付境界査定ヲ施行セムトスル時ハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

隣接地所有者者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナル時ハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト

第十七條 國有財産ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サムトスル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財産ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合

看做ス

第十三條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴訟シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス
一 植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年
二 前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年
貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ事業者其ノ事業ニ著手セザルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條 第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲナサシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間内ニ事業成功セザルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財産ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國有財産ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ

臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 政府ハ每會計年度間ニ於ケル國有財產増減總計算書及毎五年三月三十一日現在ノ國有財產現在額總計算書ヲ調製シ會計検査院ノ検査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財產増減總計算書ニハ各省ノ國有財產増減報告書ヲ、國有財產現在額總計算書ニハ各省ノ國有財產現在額報告書ヲ添附スヘシ

附 則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年三月勅令第六一號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公共用財產ニ付之ヲ適用セス

第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル國有財產増減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財產現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九

テ之ヲ定ム

第二條 各省大臣公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ大藏大臣ニ之ヲ通知シ特ニ大藏大臣ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財產タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財產ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然記念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、通信事業特別會計、簡易生命保險特別會計、大學資金又ハ學校及圖書館資金ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三條 各省大臣國有財產ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

- 一 公用財產タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ
- 二 公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ
- 三 雜種財產ヲ公用財產又ハ營林財產ト爲サムトスルト

條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ増減異動報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十二條 從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 本法ヲ朝鮮臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

◎國有財產法施行令（大正十一年一月二十八日勅令第十五號）

第一章 總 則

第一條 左ニ掲クル動產及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財產法第一條ノ國有財產トス

- 一 船舶、浮標、浮棧橋及浮船渠
- 二 不動產又ハ前號ニ掲クル動產ノ從物
- 三 事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具
- 四 地上權、地役權、礦業權、砂礦權其ノ他之ニ準スヘキ權利
- 五 株式及出資ニ因ル權利

前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シ

キ

第五條 各省大臣公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 前二條ノ規定ハ國有財產法施行地外ニ在ル財產及帝國鐵道會計ニ屬シ又ハ屬スヘキ財產ニ付之ヲ適用セス

第七條 國有財產ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財產ヲ讓受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第二章 賣拂、讓與及交換

第八條 公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共團體ニ讓與スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財產ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ財產ノ見込價格カ

其ノ施設ニ要シタル費用ノ額ヲ超過スルトキハ超過額ニ相當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財産中寄附ニ係ルモノハ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外寄附ヲ受ケタル後二十年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 國有財産ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格ノ四分ノ一ヲ超ユルトキハ交換ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニヨリ國有財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官廳ハ其ノ用途並之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ始期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 境界査定

第十四條 國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五條 境界査定ヲ施行セムトスルトキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ書面ノ送達ハ期日ニ付豫メ隣接地所有者ノ承諾アリタル場合ヲ除クノ外期日ノ前日ヨリ起算シ少クモ七日前之ヲ爲スヘシ

第十六條 隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ申出テタルトキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條 境界査定ヲ了シタルトキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

隣接地所有者ハ當該官廳又ハ其ノ指定シタル官公署ニ就キ査定圖又ハ其ノ謄本ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除クノ外其ノ受領書

二 事業ノ目的

三 事業施行ノ方法及順序

四 成功豫定期間

五 收支豫算

六 計畫圖

事業成功ノ後公共ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條 國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲナサムトスルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ必要アリト認ムルトキハ當該官廳ハ前項ノ規定ニ依リ定メタル期間ノ半ニ相當スル期間以内ニ於テ豫定期間ノ延長ヲ承認スルコトヲ得

第二十六條 當該官廳ハ契約ノ日ヨリ二年以内ノ期間ヲ指

ヲ徵スヘシ

第十九條 國有財産法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

第四章 貸付及準貸付

第二十條 公共用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條 隨意契約ニ依リ國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ國有財産法第十五條第二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

第二十二條 前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ

一 土地又ハ水面ノ所在及面積

定シ事業者ヲシテ其ノ事業ニ著手セシムヘシ
前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第二十七條

國有財産法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ
對シ成功部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合
ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ヲ除ク
ノ外豫約ニ定メタル條項ニ準シテ其ノ契約ヲ爲スヘシ

第二十八條

國有財産法第二十四條第一項ニ規定スル雜種
財産ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務
大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二十九條

寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ
規定ニ依リ雜種財産ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ地方長
官ヲ經由シ主務大臣、其ノ財産ヲ管理スル大臣及大藏大
臣ニ願出ツヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財産ニ付
之ヲ準用ス

第五章 臺帳

第三十條

國有財産ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但
シ部局ノ長ニ於テ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル場合
ニ於テハ其部局毎ニ之ヲ備ヘ各省ニハ其總括簿ヲ備フル
モノトス

格、第五號ニ掲グルモノハ拂込金額又ハ出資金額
第三十三條 土地及立木竹ノ價格ハ國有財産現在額總計算
書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ改定スヘシ但
シ臺帳ニ登錄シタル後二年ヲ經過セサルモノニ付テハ此
ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ、立
木竹ノ價格ハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ之ヲ算定スヘシ但
シ庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ニ付テ
ハ見込價格ニ依ル
前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計及通信事業特別會計ニ屬ス
ルモノニ付之ヲ適用セス

第三十四條

作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬
スルモノノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格ニ
依ルヘシ

第六章 計算書及報告書

第三十五條

各省大臣ハ會計検査院ニ證明ノ爲國有財産ノ
増減計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送
付スヘシ

前項ノ計算書ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ
長ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十一條 國有財産ノ臺帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左
ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項
ヲ省略スルコトヲ得

- 一 種目
- 二 所在又ハ所屬
- 三 數量
- 四 價格
- 五 得喪變更ノ年月日及事由
- 六 其ノ他必要ナル事項

第三十二條

國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係
ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル
評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモ
ノハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

- 一 土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額
- 二 立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル
金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹
ハ見込價格
- 三 建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建
築費、製造費又ハ見込價格
- 四 權利ニ付テハ第一條第四號ニ掲グルモノハ見込價

大藏大臣ハ各省ノ國有財産増減報告書ニ基キ國有財産増
減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産増減報告書ト共ニ之
ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第三十六條

各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル國有財産増
減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣
ニ送付スヘシ

第三十七條

各省大臣ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル
國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之
ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ國有財産
現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産現在額報告書ト
共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七章 雜則

第三十八條

本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財産ノ臺帳
ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條

第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ様式及
送付期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條

前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計
算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條

本令ニ定ムル帳簿及書類ノ様式ニハ國防上秘

密ヲ要スル國有財產ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附 則

第四十二條 本令ハ國有財產法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(大正十一年四月一日ヨリ施行)

第四十三條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財產ノ増減異

動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治七年九月二十三日達皇城周圍内外ノ滯壘等修繕改

築ニ關スル件

明治八年第四百十六號達

明治八年第四百十八號達

明治九年第四百十六號達

明治十三年第六號達

明治十三年七月八日達皇城周圍内外ノ滯壘外岸接近ノ

官有地へ家屋等建築ニ關スル件

明治十四年第十號達

明治十六年第四十五號達

官有地特別處分規則

官有財產管理規則

官有地取扱規則

關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

◎國有財產法施行規則(大正十一年二月八日)
(大藏省令第十四號)

第一條 公用財產タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ之ニ因リ各箇ノ官廳、兵營、病院、監獄、學校、官舎、工場、倉庫、練兵場、作業場、演習場、射擊場、飛行場、牧場、農場、試驗場、演習林ノ敷地ニ異動ヲ生スヘキモノニ付テハ國有財產法施行令第四條ノ規定ニ依リ所管大臣大藏大臣ト協議スヘシ但シ其ノ異動ノ面積カ百坪ヲ超エサル場合及相接續スル兩敷地ノ區域ノ相互變更ニシテ其ノ面積カ各敷地ノ面積ノ一割ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 國有財產ノ臺帳ハ第一號様式ニ據ル但シ帝國鐵道會計又ハ通信事業特別會計ニ屬スルモノ及作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ其ノ様式ヲ定ムルコトヲ得
國有林野ニシテ別ニ臺帳ノ設備アルモノニ付テハ之ニ總括ヲ附シテ國有財產ノ臺帳ニ代用スルコトヲ得
第三條 臺帳ニハ土地、建物及國有財產法施行令第一條第四號ニ掲クル權利ニ關スル圖面ヲ附屬セシムヘシ但シ本

明治二十四年勅令第十五號

明治二十七年勅令第九十二號

明治三十六年勅令第九十六號

明治三十九年勅令第二百二十號

明治四十一年勅令第十九號

明治四十二年勅令第七十號

大正六年勅令第二百二十四號

第四十四條 本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財產ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除クノ外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條 本令施行ノ際國有財產ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除クノ外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第四十六條 各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財產現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十七條 前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ

令施行ノ際ニ於ケル雜種財產ニ付テハ其ノ重要ナルモノヲ除クノ外當分ノ内之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 國有財產ノ總括簿ヲ備フル場合ニ於テハ第一號様式中總括ニ準シテ之ヲ調製シ尙公用財產ノ分ニ付テハ前條ニ準シテ圖面ヲ附屬セシムヘシ

第五條 國有財產現在額報告書及國有財產増減報告書ハ第二號及第三號様式ニ據ル

附 則

本令ハ國有財產法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十一年四月一日ヨリ施行)
(第一號様式乃至第三號様式略ス)

◎內務省所管國有財產取扱規程

(大正十一年六月十九日)
(內務省訓令第十號)

第一條 內務省所管ノ國有財產ハ本規程ニ依リ取扱フヘシ但シ別段ノ定アルモノハ其ノ定ニ依ル

第二條 本規程ニ於テ部局長ト稱スルハ內務大臣官房會計課長、土木出張所長、土木試驗所長、衛生試驗所長、社會局長官、傷兵院長、神宮大宮司、造神宮副使、警察講習所長、武藏野學院長、榮養研究所長、國立癩療養所長、

警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ謂フ

第三條 左ニ掲クル事項ハ部局長限リ之ヲ處理スヘシ

- 一 國有財産ノ管理ニ關スル事項
- 二 公用財産ノ一時使用許可ニ關スル事項
- 三 公用財産タル土地ノ用途變更ニシテ大藏大臣ノ定メタルモノニ該當セサルモノ、其ノ異動面積百坪ヲ超エサルモノ、相接続スル兩敷地區域ノ相互變更面積カ其ノ敷地ノ一割ヲ超エサルモノノ用途ヲ變更スル事項
- 四 國有財産法施行令第一條第一項第二號ノ從物ヲ主物ヨリ分離シ公用財産タル用途ヲ廢止スル事項
- 五 公用財産ト爲ス爲土地ノ買入、收用若ハ寄附受納ヲ爲ス事項
- 六 公用財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル事項
- 七 公用財産ノ用途ヲ變更スル事項
- 八 公用財産及神社ノ用ニ供スル公用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ大藏省所管ニ引繼ヲ爲ス事項
- 九 公用財産ヲ公用財産ト爲ス爲他省所管ニ管理換ヲ爲ス事項
- 十 公用財産若ハ神社ノ用ニ供スル公用財産ヲ營林財産ト爲ス爲農林省所管ニ管理換ヲ爲ス事項

十一 削除

十二 他省所管ノ公用財産ヲ公共用財産ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項

十三 農林省所管ノ國有林野ヲ公共用財産ト爲ス爲又ハ神社上地ノ農林省所管國有林野ヲ神社ノ用ニ供スル公用財産ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項

十四 神社ノ用ニ供スル爲土地ノ寄附ヲ受納スル事項

十五 神社用地又ハ公共用財産タル土地ノ用途ヲ廢止シ之ヲ神社用地又ハ公共用財産ト爲スノ必要アル民有地ト交換スル事項

十六 公用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公共用財産ト爲ス爲又ハ公共用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公共財產ト爲ス爲大藏省所管ニ引繼ヲ爲ササル事項

十七 營林財産ヲ公共用財産ト爲ス爲及營林財産中建物及工作物ニシテ其ノ臺帳價格千圓以下ノモノノ用途ヲ廢止ヲ爲ス事項

十八 公用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ營林財産ト爲ス爲大藏省所管ニ引繼ヲ爲サザル事項

十九 大藏省所管雜種財産中臺帳價格百圓以下ノモノヲ公共用財産ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項

第五條ノ二 削除(大正十三年四月内務省訓令第六號)

第六條 部局長公用財産ト爲ス爲土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ直ニ内務大臣ニ報告スヘシ

第七條 部局長公用財産ノ用途若ハ營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ、公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ臺帳ノ抄本(圖面アルモノハ圖面共)ヲ添附シ内務大臣ニ稟請スヘシ

第八條 部局長國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案ヲ添附シ内務大臣ニ稟請スヘシ
前項ノ場合ニ於テ隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十一條ノ規定ニ依ル調書ヲ添附スヘシ

第九條 部局長國有財産ノ使用若ハ收益ヲ爲サシメムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案、隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十二條ノ規定ニ依ル調書(土地又ハ建物ニ在リテハ圖面共)ヲ添附シ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十條 削除(大正十三年四月内務省訓令第六號)

第四條ノ二 削除(大正十三年四月内務省訓令第六號)
第五條 部局長公用財産ト爲ス爲土地ノ交換ヲ爲シ又ハ不動産ノ寄附ヲ受クルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ土地又ハ建物ニ在リテハ圖面ヲ添へ内務大臣ニ稟請スヘシ
前項土地ノ交換ヲ爲サムトスルトキハ國有財産法施行令第十一條ニ依リ作成シタル調書ヲ添附スヘシ

第七編 雜

第十一條 削除(大正十三年四月内務省訓令第六號)

第十二條 部局長國有財産ニ付境界査定ヲ施行シタルトキ

ハ其ノ調書及査定圖面ヲ調製シ之ヲ保存スヘシ

第十三條 國有財産亡失又ハ毀損シタルトキハ部局長ハ遲

滯ナク其ノ事由ヲ詳具シ損害額調書ヲ添附シ内務大臣ニ

報告スヘシ但シ其ノ損害額ノ輕微ナルモノニ付テハ此ノ

限ニ在ラス

第十四條 部局長ハ國有財産ノ價格ヲ評定セシムル爲常置

又ハ臨時ノ價格評定員ヲ命スヘシ

第十五條 臺帳ニ附屬セシムヘキ圖面ハ左ノ區分ニヨリ調

製スヘシ

一 土地及國有財産法施行令第一條第四號ニ掲クル權利

ノ目的物ニ付テハ縮尺六百分ノ一ノ平面圖但シ場合ニ

依リ其ノ縮尺ヲ變更スルコトヲ得

二 建物ニ付テハ百分ノ一ノ平面圖

第十六條 國有財産法施行規則第一號様式備考二ノ但書ニ

依リ工作物及器具機械ノ種目ノ追補ヲ要スルモノアルト

キハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十七條 部局長ハ左ノ區分ニ依リ國有財産増減計算書ヲ

調製シ證據書類ヲ添ヘ直接之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

有財産ノ増減異動ニシテ大正十年度中ニ係ルモノノ報告
ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
訓 令

明治二十三年十月内務省訓令第三十七號官有地賣貸評
價委員設定ノ件

明治二十六年十一月内務省訓令第六百九十四號官有土
地水面ノ公私有區別

明治二十七年四月内務省訓令第二百三十八號官有土地
水面並土石竹木等賣買貸借交換讓與ノ際契約書省略ノ
件

明治三十三年五月内務省訓令第五百二十五號公用土地
買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタ
ル土地處分等ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十三年六月内務省訓令第二十號、明治三十八年
四月内務省訓令第十四號直轄河川改修工事ノタメ官有
地ヲ要スル場合取扱方ノ件

明治三十六年十月内務省訓令第六百二十五號耕地整理
法第十條ニ依リ國有地ヲ參加土地所有者ニ交付シ又代
地ヲ國有ニ編入ノ件
明治三十六年十月内務省訓令第六百六十二號御料地ヲ

一 北海道廳ニアリテハ二年一回(第一回自四月至九月期
間、第二回自十月至三月期間)

二 北海道廳以外ノ部局ニアリテハ一年一回(自四月至三
月期間)

計算證明規程第七十一條ニ依リ毎年度最終ノ國有財産増
減計算書ニ添付スヘキ明細書ハ第一號様式ニ依リ調製ス
ヘシ

第十八條 部局長ハ國有財産法施行規則第三號様式ニ準據

シ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書二通ヲ調製

シ翌年度五月三十一日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ

第十九條 部局長ハ國有財産法施行規則第二號様式ニ準據

シ每五年三月三十一日現在ニ依ル國有財産現在額報告書

二通ヲ調製シ其ノ年六月三十日迄ニ内務大臣ニ進達スヘ
シ

附 則

第二十條 本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第二十一條 國有財産現在額報告書ノ第一回ハ大正十一年

四月一日現在ニ依リ調製シ其ノ年七月三十一日迄ニ内務

大臣ニ進達スヘシ

第二十二條 左ニ掲ケタル訓令及通牒ハ之ヲ廢止ス但シ官

賣渡シタル場合ニ於ケル地種組替ノ件

明治三十九年五月内務省訓令第三百四十四號官有土地

水面並土石竹木等交換讓與ニシテ無條件ノモノハ受書

ヲ徴セサルモ妨ナキ件

明治四十年十二月内務省訓令第千百三十號大藏省所管

ノ固定資本ニ屬スル土地處分ノ場合地種組替ニ關スル

件

明治四十二年十二月内務省訓令第六百二十號、明治四

十三年三月内務省訓令第八十號地種目組替取扱ニ關ス

ル件

大正元年十一月内務省訓令第四號官有財産並其増減異

動報告方

大正二年一月内務省訓令第一號國有土地水面等ニ關ス

ル委任事項

大正二年四月内務省訓令第九十九號國有土地水面ニ

シテ各地ニ散在スル小畝歩ノモノ賣却ノ件

大正八年十月内務省訓令第六百八十五號官有財産ノ處分

委任ノ件

達

明治九年五月内務省達乙第五十九號地所拂下代價算出

通 牒

明治二十三年十月内務書記官通牒地甲第二十三號官有地賣貸評價委員選定方
 明治二十五年一月營甲第百十號官有地積算法ノ件
 明治二十五年十二月内務書記官通牒庶甲第二百七十九號官有財產管理規則第十三條ニ公共組合ヲモ含ムノ件
 明治二十七年十二月甲第三百九十七號風潮除又ハ風致等ノ爲メ樹木獻植ノ件
 明治三十年三月土監甲第二百二十號通牒、明治三十八年四月秘甲第十七號通牒直轄河川改修工事ノタメ御料地中潰地ヲ要スル場合取扱方ノ件
 明治三十年十月庶甲第九十五號各官廳ノ所有ニ供スル爲メ府縣郡市町村ヨリ土地ヲ寄附セントスルトキハ各其議會ノ議決書及監督行政廳ノ認可若ハ許可書ヲ添屬シテ出願セシムル件
 明治三十一年三月庶務局通牒庶甲第四十號官有地讓與ノ場合ニ於テモ評價セシムヘキ件
 明治三十一年九月庶甲第二百十二號森林法第二條ニ該當スル官有地ヲ保安林ニ編入ヲ要スル場合ニ於ケル手續

續及人民ノ獻植ヲ許可セラレタル場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十一年十二月庶甲第二十六號官有土地森林原野收入金徵收規程中改正ニ就キ產物年期賣拂代金徵收方ノ件
 明治三十三年五月庶甲第三百三十三號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地處分等ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件
 明治三十四年六月土甲第二十五號河川改修工事ノタメ買收若ハ收用シタル土地貸付方
 明治三十七年四月藏甲第十八號土地臺帳規則施行細則改正ノ結果土地所有權登記ニ關スル件
 明治三十七年七月藏甲第三十一號無番號ナル官有地登記ノ件
 明治三十七年十一月理甲第十號直接公用ヲ廢シタル官有地ヲ戰時經營ノ一事業トシ小學校紀念植林ニ充ツルノ目的ヲ以テ拂下ノ件
 明治三十八年九月青甲第四十一號市町村又ハ公立小學校ノ基本財產造成ノ爲メ官有地特別處分ノ件
 明治三十九年四月理甲第六號町村有ノ戰時紀念林ニ要スル官有地特別處分ノ件

明治三十九年四月理甲第三十八號小學校生徒樹栽地ニ供スル官有地特別處分ノ件
 明治三十九年六月藏甲第三百九號土地臺帳規則施行細則改正ニ付注意方ノ件
 明治三十九年八月藏甲第二百五十二號大藏省所管ノ官用地ヲ同省限り使用許否ノ件
 明治三十九年九月地理課通牒理甲第二十二號官有土地水面賣貸讓與交換ノ際評價書ニ掲記スヘキ事項ノ件
 明治四十年八月農甲第二十七號國有林野法第三條第一項ニ依リ組換ヲ爲ス場合ノ協議手續ニ關スル件
 明治四十年十月香甲第四十六號官有地特別處分規則第三條適用ノ件
 明治四十一年五月理甲第四號社寺佛堂合併跡地讓與ニ關スル件
 明治四十二年四月理甲第三號民有神社地及寺院敷地ノ土地許否ノ件
 明治四十二年六月理甲第九號官有地ノ賣却貸付ノ場合ニ於ケル入札又ハ契約保證金ニ關スル件
 明治四十二年七月富乙第六十五號私有地ノ土砂ヲ無願採取ノ件

明治四十二年十二月藏甲第二百三十六號民有地ノ國有トナリ又國有地ノ民有トナリタル場合所轄稅務署ヘ通知ノ件

明治四十二年十二月閣甲第五十四號地種目組替取扱ニ關スル件
 明治四十二年十二月會計課通牒會甲第二百號、量水標ハ官有財產トシテ取扱ハサル件
 大正元年十二月理第三百號國有地ヲ民有地ト爲ス場合ノ取扱方ニ關スル件
 大正二年一月元理第三百二十三號ノ内國有土地水面及木竹土石砂利其他產物ニ關スル委任事項改正ニ關スル件
 大正二年二月理第六十二號鐵道院ニ於ケル土地取扱官吏
 大正三年二月發理第一號御大禮紀念事業經營ノ爲メ官有地拂下ノ場合ニ於テ官有地特別處分規則第一條第一號適用ニ關スル件
 大正五年七月閣理第七號鐵道用地ニ關シ官有地ノ一部管理替ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件
 大正五年八月會計課通牒發會第三百三十九號船舶取扱方

大正五年十月秋里第六號官有地貸付料徴收ニ關スル件
大正六年十二月理第三百四十七號未登記國有地公共團
體ニ拂下箇所登記ニ關スル件

大正七年九月阪理第十一號官有地特別處分規則第一條
第二號ノ適用ニ關スル件

大正八年十二月岡理第五號鐵道用地管理替ノ件
(第一號様式略ス)

◎都市計畫法(大正八年四月五日
法律第三十六號)

第一條 本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衛生、保安、
經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ増進
スル爲ノ重要施設ノ計畫ニシテ市若ハ主務大臣ノ指定ス
ル町村ノ區域内ニ於テ又ハ其ノ區域外ニ互リ施行スヘキ
モノヲ謂フ

第二條 都市計畫區域ハ市又ハ前條ノ町村ノ區域ニ依リ主
務大臣之ヲ決定ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ關係市町村及都市計畫委員
會ノ意見ヲ聞キ前項ノ區域ニ拘ラズ都市計畫區域ヲ決定
スルコトヲ得

第三條 都市計畫、都市計畫事業及毎年度執行スヘキ都市

第八條 公共團體ハ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツル爲左
ノ特別稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ府縣費ヲ市ニ分賦スル
場合ニ於テ市カ營業稅、雜種稅又ハ家屋稅ヲ賦課スルト
キハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ其ノ稅率ヲ定ムヘシ

一 地租割地租百分ノ九以内
二 營業收益稅制 營業收益稅百分ノ二十二以内(十二
年三月法律第二十七號、十五年三月第三十八號改正)

三 營業稅、雜種稅又ハ家屋稅 各府縣稅十分ノ四以内
四 特別地稅賃賃價格千分ノ三・四
五 其ノ他勅令ヲ以テ定ムルモノ

營業收益稅制ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二項
ノ規定ニ依ル資本利子稅額ノ控除ヲ爲ササルモノヲ以テ
營業收益稅額ト看做ス(大正十五年三月法律第三十八號
追加)

特別地稅ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定メタル田畑
ニ對スル地租割ノ賦課率ヲ以テ算定シタル地租割額ノ當
該田畑ノ賃賃價格ニ對スル比率ヲ超ユルコトヲ得ス(同
上)

公共團體ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ公共團體ノ他ノ收入ヲ
以テ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツルコトヲ得

計畫事業ハ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ決定
シ内閣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 都市計畫委員會ノ組織、權限及費用ニ關スル規定
ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 都市計畫事業ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政廳之ヲ
執行ス

主務大臣特別ノ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所
ニ依リ行政廳ニ非サル者ヲシテ其ノ出願ニ依リ都市計畫
事業ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第六條 都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ
執行スル場合ニ在リテハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳
之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政廳ニ非
サル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都市
計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル
利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシ
ムルコトヲ得

第七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ公
共團體ノ負擔スヘキ毎年度ノ金額ノ最低限度ヲ定ムルコ
トヲ得

第九條 都市計畫區域内ニ存スル國有河岸地ニシテ公共ノ
用ニ供セサルモノハ第六條ノ費用ヲ負擔スル公共團體ニ
之ヲ下付スルコトヲ得

第十條 都市計畫區域内ニ於テ市街地建築物法ニ依ル地域
又ハ地區ノ指定、變更又ハ廢止ヲ爲ストキハ都市計畫ノ
施設トシテ之ヲ爲スヘシ

都市計畫區域内ニ於テハ市街地建築物法ニ依ル地域及地
區ノ外土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ風致又ハ風
紀ノ維持ノ爲特ニ地區ヲ指定スルコトヲ得

第十一條 第十六條第一項ノ土地ノ境域内又ハ前條第二項
ノ規定ニ依リ指定スル地區内ニ於ケル建築物、土地ニ關
スル工事又ハ權利ニ關スル制限ニシテ都市計畫上必要ナ
ルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 都市計畫區域内ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地
トシテノ利用ヲ増進スル爲土地區劃整理ヲ施行スルコト
ヲ得

前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合
ヲ除クノ外耕地整理法ヲ準用ス

第十三條 都市計畫トシテ内閣ノ認可ヲ受ケタル土地區劃
整理ハ認可後一年内ニ其ノ施行ニ著手スル者ナキ場合ニ

於テハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム但シ災害其ノ他特別ノ事情ニ因リ特ニ急施ヲ要スル場合ニ於テハ認可後一年内ト雖モ之ヲ施行セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付耕地整理法ヲ準用シ難キ事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十四條 地方長官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃貸價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ定ム

第十五條ノ二 土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第四十三條ノ規定ニ拘ラス建物アル宅地ヲ土地區劃整理施行地區ニ編入スルコトヲ得

第十六條 道路、廣場、河川、港灣、公園其ノ他勅令ヲ以テ指定スル施設ニ關スル都市計畫事業ニシテ内閣ノ認可ヲ受ケタルモノニ必要ナル土地ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項土地附近ノ土地ニシテ都市計畫事業トシテノ建築敷地造成ニ必要ナルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ收用

シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 都市計畫事業ニ依リ生シタル營造物ノ管理ニ付特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ管理者ヲ定ム

第二十三條 行政執行法第五條及第六條ノ規定並之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ行政廳カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ義務ニ屬スル負擔金其ノ他ノ費用ハ行政廳國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位並其ノ追徵還付及時效ニ付テハ行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

又ハ使用スルコトヲ得

第十七條 土地區劃整理ノ爲又ハ衛生上若ハ保安上ノ必要ニ依ル建築物ノ整理ノ爲必要アルトキハ建築物其ノ他ノ工作物ヲ收用スルコトヲ得

第十八條 前二條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外土地收用法ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依ル土地收用法ノ適用ニ付テハ前條ノ工作物ハ之ヲ土地ト看做ス

第十九條 第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ付テハ第三條ノ規定ニ依ル都市計畫ノ認可ヲ以テ土地收用法ニ依ル事業ノ認定ト看做ス

第二十條 土地收用法第二十二條第一項ノ協議調ハサル場合又ハ其ノ協議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ事業執行者ハ主務大臣ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ損失ノ補償ノ協議ニ關シテハ之ヲ適用セス

第二十一條 第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地及第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ノ處分及管理

第二十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年勅令第四百八十一號ヲ以テ同九年一月一日ヨリ施行)

第二十八條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則及大正七年法律第三十六號並之ニ基キテ發シタル命令ハ之ヲ廢止ス

第二十九條 東京市區改正條例及東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ヲ受クル市ハ第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

第三十條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號ニ依リ内閣ノ認可ヲ受ケタル設計又ハ議定シタル事業ハ各本法ニ依リ内閣ノ認可ヲ受ケタル都市計畫又ハ都市計畫事業ト看做ス

第三十一條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則若ハ大正七年法律第三十六號又ハ之ニ基キテ發シタル命令ニ依リ爲シタル處分ハ本法又ハ本法ニ基キテ發

スル命令ニ牴觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分ト看做ス

第三十二條 東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ニ依リ行政廳ノ爲シタル處分ニ關シテハ同規則第一條第二項乃至第四項ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第三十三條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號大正七年勅令第八十四號ニ依リ下付ヲ受ケタル官有ノ河岸地ハ其ノ下付ヲ受ケタル市ノ所有ニ屬スル間地租ヲ免除ス但シ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ河岸地ヨリ收入スル金額ハ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終ル迄之ヲ他ニ支出スルコトヲ得ス
第一項ノ河岸地ノ下付ヲ受ケタル市ハ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ都市計畫委員會ノ議決ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附 則 (大正十五年三月法律第三十八號)

本法ハ大正十五年分ヨリ之ヲ適用ス但シ營業收益稅割ニ關スル改正規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス
營業稅法廢止法律ニ依リテ免除セララル營業稅額ハ大正十

五年度分國稅營業稅割ノ賦課ニ付テハ免除セラレサルモノト看做ス

附 則 (昭和六年法律第三十號)

本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第八條ノ改正規定ハ昭和六年度分ヨリ之ヲ適用ス
昭和六年度分ニ付テハ第八條ノ改正規定中百分ノ九トアルハ百分ノ八、千分ノ三・四トアルハ千分ノ三・二トス
昭和六年度分ニ限り勅令ノ定ムル所ニ依リ従前ノ地租ヲ標準トシ従前ノ規定ニ依リ地租割ヲ賦課スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ特別地稅ヲ賦課スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ従前ノ地價ヲ標準トシ従前ノ規定ニ依リ之ヲ賦課スベシ

國立公園法 (昭和六年四月一日法律第三十六號)

第一條 國立公園ハ國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ區域ヲ定メ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 本法ニ於テ國立公園計畫ト稱スルハ國立公園ノ保護又ハ利用ニ關スル統制及施設ノ計畫ヲ謂ヒ國立公園事業ト稱スルハ國立公園計畫ニ基キ執行スベキ事業ニシテ道路、廣場、苑地、運動場、野營場、宿舍其ノ他命令ヲ以テ指定スル施設ニ關スルモノヲ謂フ

第三條 國立公園計畫及國立公園事業ハ國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ主務大臣之ヲ決定ス

第四條 國立公園事業ハ行政官廳之ヲ執行ス
主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ公共團體ヲシテ國立公園事業ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得
行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ特許ヲ受ケ國立公園事業ノ一部ヲ執行スルコトヲ得

第五條 國立公園事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國庫、公共團體ヲシテ之ヲ執行セシムル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

行政官廳國立公園事業ヲ執行スル場合ニ於テ主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ其ノ執行ニ要スル費用ノ一部ヲ公共團體ヲシテ負擔セシムルコトヲ得
行政官廳ニ非ザル者國立公園事業ヲ執行スル場合ニ於テ國庫ハ其ノ費用ノ一部ヲ補助スルコトヲ得
第六條 國立公園事業ノ執行ニ依リ生ジタル施設ハ其ノ事業ヲ執行シタル者之ヲ管理ス

主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ公共團體ヲ指定シテ行政官廳ノ執行スル國立公園事業ニ依リ生ジタル施設ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ管理者ヲ定メタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項及第二項ノ規定ニ依ル管理ノ費用ハ行政官廳之ヲ管理スル場合ニ在リテハ國庫、公共團體之ヲ管理スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者之ヲ管理スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

第七條 行政官廳又ハ公共團體ノ管理スル國立公園ノ施設ニ付占用又ハ使用ヲ許可スルトキハ其ノ管理現者ハ占用料又ハ使用料ヲ徵收スルコトヲ得但シ前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ヲ除ク
前項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ徵收金ハ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次ゲモノトス

第八條 主務大臣ハ國立公園ノ風致維持ノ爲國立公園計畫ニ基キ其ノ區域内ニ特別地域ヲ指定スルコトヲ得
特別地域内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許

可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 工作物ノ新築、改築又ハ増築
 - 二 水面ノ埋立又ハ干拓
 - 三 鑛物ノ試掘若ハ採掘、砂鑛ノ採取又ハ土石ノ採掘
 - 四 木竹ノ伐採
 - 五 廣告物、看板其ノ他之ニ關スル物件ノ設置
- 特別地域内ノ山林ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地租其ノ他ノ公課ヲ免除スルコトヲ得

第九條 主務大臣ハ國立公園ノ保護又ハ利用ノ爲必要アリト認ムルトキハ其ノ區域内ニ於テ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限シ又ハ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止セラレ又ハ措置ヲ命ゼラレタルガ爲損害ヲ被リタル私人ニ對シテハ通常生ズベキ損害ニ限り國庫之ヲ補償ス

勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫ハ第一項ノ規定ニ依リ一定ノ行爲ヲ著シク制限セラレタル爲損害ヲ被リタル私人ニ對シ其ノ損害ヲ補償スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル補償金額ハ主務大臣之ヲ決定ス其ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ

第十二條 國立公園委員會ノ組織及權限ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ズ

第十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタルトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 第八條第二項ノ規定、同條同項ノ許可ニ附シタル條件又ハ第九條第一項ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十六條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和六年九月勅令第二百四十一號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

◎史蹟名勝天然紀念物保存法

（大正八年四月十日法律第四十四號）

ハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ズ

第十條 主務大臣ハ第八條第二項ノ規定、同條同項ノ許可ニ附シタル條件又ハ前條第一項ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 國立公園ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障礙物ヲ除却スルコトヲ得但シ行政官廳ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者及占有者ニ通知スベシ

第一項ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ同項但書ノ場合ヲ除クノ外其ノ行爲ヲ爲シタル者之ヲ補償スベシ

前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ許可ヲ爲シタル地方長官之ヲ決定ス其ノ裁定ニ對シテ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ズ

第一項但書ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ國庫之ヲ補償ス

第九條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一條 本法ヲ適用スヘキ史蹟名勝天然紀念物ハ內務大臣之ヲ指定ス

前項ノ指定以前ニ於テ必要アルトキハ地方長官ハ假ニ之ヲ指定スルコトヲ得

第二條 史蹟名勝天然紀念物ノ調査ニ關シ必要アルトキハ指定ノ前後ヲ問ハズ當該吏員ハ其ノ土地又ハ隣接地ニ立入り土地ノ發掘障害物ノ撤去其ノ他調査ニ必要ナル行爲ヲ爲スコトヲ得

第三條 史蹟名勝天然紀念物ニ關シ其ノ現状ヲ變更シ又ハ其ノ保存ニ影響ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 內務大臣ハ史蹟名勝天然紀念物ノ保存ニ關シ地域ヲ定メテ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限シ又ハ必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令若ハ處分又ハ第二條ノ規定ニ依ル行爲ノ爲損害ヲ被リタル私人ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

第五條 內務大臣ハ地方公共團體ヲ指定シテ史蹟名勝天然紀念物ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ管理ニ要スル費用ハ當該公共團體ノ負擔トス

國庫ハ前項ノ費用ニ對シ其ノ一部ヲ補助スルコトヲ得

第六條 第三條ノ規定ニ違反シ又ハ第四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ六月以下ノ禁錮若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

附 則

本法施行ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年五月勅令第二百六十一號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

古社寺保存法第十九條ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（註） 本法中內務大臣トアルハ官制ノ改正（昭和三年勅令第二百六十五號及同年勅令第二百六十九號）ニ

ヨリ文部大臣トナル

市街地建築物法 （大正八年四月五日法律第三十七號）

第一條 主務大臣ハ本法ヲ適用スル區域内ニ住居地域、商業地域又ハ工業地域ヲ指定スルコトヲ得

第二條 建築物ニシテ住居ノ安寧ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ住居地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

第三條 建築物ニシテ商業ノ利便ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ商業地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

得ズ但シ建築物ノ地盤面下ニ在ル部分ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 行政官廳ハ市街ノ計畫上必要ト認ムルトキハ建築線ニ面シテ建築スル建築物ノ壁面ノ位置ヲ指定スルコトヲ得

第十一條 建築物ヲ建築スル場合ニ於ケル其ノ高又ハ其ノ敷地内ニ存セシムヘキ空地ニ關シテハ地方ノ狀況、地域及地區ノ種別、土地ノ情態、建築物ノ構造、前面道路ノ幅員等ヲ參酌シ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ衛生上又ハ保安上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ火災豫防上必要ト認ムルトキハ防火地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル防火設備又ハ建築物ノ防火構造ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

防火地區内ニ於テハ建物ノ部分ヲ爲ス防火壁ハ土地ノ疆界線ニ接シ之ヲ設クルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ學校、集會場、劇場、旅館、工場、倉庫、病院、市場、屠場、火葬場其ノ他命令ヲ以テ指定スル特殊建築物ノ位置、構造、設備又ハ敷地ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第四條 工場、倉庫其ノ他之ニ準スヘキ建築物ニシテ規模大ナルモノ又ハ衛生上有害若ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノハ工業地域内ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ建築物ニシテ著シク衛生上有害又ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノニ付テハ工業地域内ニ於テ其ノ建築ニ付特別地區ヲ指定スルコトヲ得

第五條 前三條ニ規定スル建築物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 前四條ノ規定ノ適用ニ付テハ新ニ建築物ノ用途ヲ定メ又ハ建築物ヲ他ノ用途ニ供スルルトキハ其ノ用途ニ供スル建築物ヲ建築スルモノト看做ス

第七條 道路幅ノ境界線ヲ以テ建築線トス但シ特別ノ事由アルトキハ行政官廳ハ別ニ建築線ヲ指定スルコトヲ得

第八條 建築物ハ其ノ敷地ガ命令ノ定ムル所ニ依リ道路敷地ニ接スルニ非ザレバ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 建築物ハ建築線ヨリ突出シテ之ヲ建築スルコトヲ得

第十五條 主務大臣ハ美觀地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ美觀上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條 主務大臣ハ建築物ノ工事執行ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十七條 行政官廳ハ建築物左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ除却、改築、修繕、使用禁止、使用停止其ノ他ノ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

一 保安上危險ト認ムルトキ
二 衛生上有害ト認ムルトキ
三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ建築物ヲ建築シタルトキ

第十八條 本法適用區域ノ設定若ハ變更、地域若ハ地區ノ指定若ハ變更其ノ他ノ場合ニ於テ從來存在スル建築物カ其ノ後新ニ建築セラレタリトセハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スヘキモノナルトキハ行政官廳ハ相當ノ期間ヲ指定シ其ノ建築物ニ付前條ニ掲クル必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル措置ヲ命スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ建築物所在地ノ公共團體ヲシテ損失ヲ補償セシム

前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者補償金額ニ付不服アルトキハ其ノ金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第十九條 建築主、建築工事請負人、建築工事管理者又ハ建築物ノ所有者若ハ占有者若ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 前條ノ規定ハ前條ニ掲クル者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者其ノ營業ニ關シ前條ニ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前條ニ掲クル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ營業ニ關シ前條ニ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

前條ニ掲クル者法人ナルトキハ明治三十三年法律第五十二號ヲ準用ス

第二十一條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタ

依リ其ノ計畫ノ道路ハ之ヲ道路ト看做ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正九年十一月勅令第五百三十九號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行）

附 則（昭和九年法律第四十六號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和九年十二月勅令第三百三十九號ヲ以テ同年二月一日ヨリ施行）
從前ノ第二十三條ノ規定ニ基キ指定セラレタル區域ハ同條ノ改正規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

◎土地收用法（明治三十三年三月七日法律第二十九號）

- 第一章 總 則
- 第二章 事業ノ準備
- 第三章 事業ノ認定
- 第四章 收用ノ手續
- 第五章 收用審査會
- 第六章 損失ノ補償
- 第七章 收用ノ效果
- 第八章 費用ノ負擔
- 第九章 監督、強制及罰則
- 第十章 訴願及訴訟

ル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第二十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十三條 本法適用ノ區域ハ主務大臣ノ指定スル市街地トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ前項ノ市街地ノ外ニ互リ本法適用ノ區域ヲ指定スルコトヲ得

第二十四條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ建築工事中ノ建築物、建築工事ニ著手セサルモ設計アル建築物又ハ建築物ニ非サル工作物ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第二十五條 本法ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要トセサル建築物ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ幅員九尺以上ノモノヲ謂フ

道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ

附 則

第一章 總 則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス
第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

- 一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業
- 二 皇室陵墓ノ營建又ハ神社若ハ官公署ノ建設ニ關スル事業
- 三 社會事業又ハ教育若ハ學藝ニ關スル事業
- 四 鐵道、軌道、索道、專用自動車道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、國立公園、市場、電氣裝置、瓦斯裝置又ハ火葬場ニ關スル事業
- 五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國道府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業

第二條ノ二 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業

ノ用ニ供スル土地ハ特別ハ必要アル場合ニ非ザレバ之ヲ
收用又ハ使用スルコトヲ得ズ

第三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル
起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第四條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ
爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又ハ關
係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用ス
ヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地又
ハ其ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ
第十九條 地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地又ハ其
ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人
ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在
ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル
期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令
ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ
關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之

ヲ準用ス

第七條ノ二 本法ハ第二條ニ規定スル事業ノ用ニ供スベキ
土地ニ定著スル物件又ハ之ニ關スル權利ヲ其ノ事業ノ用
ニ供スル爲ニ收用又ハ使用スル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス
場合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種
類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ
土地ニ立入リ測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合
ニ於テ宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主
務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルキハ起業
者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之
ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條 地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ
準備ノ爲其ノ土地ニ立入リ測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於
テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五
日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知スヘシ市町村長

ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ
邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通
知スヘシ

日出前日没後ハ起業者ハ占有者ノ承諾アルニ非ザレバ邸
内ニ立入ルコトヲ得ズ

第十一條 第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アル
トキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除却スルコ
トヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業
者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内務
大臣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 起業者ガ前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ事業
計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ申請
スベシ但シ起業者ガ宮内省又ハ國ナルトキハ宮内大臣又
ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ請求ス
ベシ

第十四條 内務大臣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業
ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ

第十五條 天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使
用スルトキハ市町村長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ事業ガ宮内省、國又ハ道府縣ノ起業ニ係ルトキハ
宮内大臣、主務大臣又ハ道廳長官府縣知事ハ事業ノ種類、
使用スベキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ市町村長ニ通知ス
ベシ

前二項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス
軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ
主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ市町村長ニ通知スヘ
シ

第十六條 起業者カ市町村長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ
事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ
市町村長ニ申請スヘシ

第十七條 市町村長カ認定ヲ爲シタルトキ又ハ第十五條第
二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用
スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ
通知スヘシ

市長村長カ第十五條第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用
スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ

第四章 收用ノ手續

第十九條

内務大臣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ
地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ
之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又
ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所
有者及關係人ニ通知スヘシ

第十九條ノ二

前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ土地
所有者及關係人ハ事業ニ支障ヲ及ボス虞ナキ場合ヲ除ク
ノ外行政廳ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ收用又ハ使用スベキ
土地ノ形質ヲ變更シ又ハ第七條ノ二ノ物件ヲ損壞若ハ收
去スルコトヲ得ズ

第二十條

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業
者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ
其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ
日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入
ルコトヲ得ス

第二十一條

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業

者ハ土地所有者及關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調査ヲ
作ルベシ

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人ガ調査ヲ作ルコ
トヲ拒ミタルトキ其ノ他之ト共ニ調査ヲ作ルコト能ハザ
ルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルベシ市
町村長ガ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二
項ニ掲ゲタル關係ヲ有スルトキハ起業者ノ申請ニ依リ地
方長官立會人ヲ指定スベシ

第二十二條

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業
者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關
係人ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルト
キハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條

收用審査會ノ裁決ヲ求ムルトキハ起業
者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差
出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫及圖面
ヲ添フルコトヲ要セス

一 事業計畫及圖面

二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類

收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目

收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物
件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場合
ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯

收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

三 第二十一條ノ規定ニ依ル土地物件ニ關スル調査又ハ
其ノ寫

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地
所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條

地方長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ市
町村長ニ送付スベシ但シ同條第一項第三號ノ書類ハ此ノ
限ニ在ラズ

市町村長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク公告ヲ爲
シ公告ノ日ヨリ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スベシ

第二十五條

土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨ
リ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條

地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審

査會ヲ開クヘシ

第二十七條

收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ
爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ
延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條

收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササル
トキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ
内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキ
コトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官
ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方
長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條

收用審査會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルト
キハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲
スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條

收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書
ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條

前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決
ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土
地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條

軍機ニ關スル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル

事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 市町村長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第二項若ハ第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年內ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

- 一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域
 - 二 損失ノ補償
 - 三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間
- 起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組

サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ牴觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

- 一 道府縣名譽職參事會員
- 二 道府縣名譽職參事會員ノ補充員
- 三 道府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ビ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ニ掲グル者以外ノ者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長ニ署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ押捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及道府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命シ道府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監查役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受タル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見續リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全

部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超

ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、塙柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用力三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空閒ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此限ニ在ラス

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政

廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七章 收用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得
一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコトヲ能ハサルトキ

二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ

三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ

四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄

ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス

一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ

二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ

所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年內ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第一項ノ期間內ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關ス

ル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

第六十七條 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコトハ能ハサルトキハ少クトモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ行履スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ

第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得

ス

第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス

府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス

第九章 監督、強制及罰則

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條

前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第七十五條

前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス第九條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ行政廳ノ許可ヲ得ズシテ土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十六條

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知アリタルコトヲ知リタル者第十九條ノ二ノ規定ニ違反シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ要ス

第七十七條

鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第七十八條

故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ百圓以下ノ過料ニ處ス

第七十九條

鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク出頭セザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

第八十條

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十章 訴願及訴訟

第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第八十二條

收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第八十三條

本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

附 則

第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定

ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

明治八年太政官達第三百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 第十五條乃至第十七條及第三十三條ノ規定ニ依リ町村長ノ爲スベキ職務ハ北海道ニ於テハ支廳長之ヲ行フ

本法ニ依リ町村長ノ爲スベキ職務ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ町村長ニ準ズベキ者之ヲ行フ

第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二

十三年法律第五十四號土地收用協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

附 則 (昭和二年四月法律第三十九號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年八月勅令第二百七十二號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行)

大正十五年法律第七十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前收用審査會ノ裁決ヲ求メタル收用又ハ使用ニ付テハ第四十三條ノ規定ヲ除クノ外仍從前ノ例ニ依ル但シ第三十五條第二項ノ規定ニ依リ却下ノ裁決アリタルモノニ付テハ其ノ裁決ニ對シ訴願訴訟ヲ爲ス場合ヲ除クノ外此ノ限ニ在ラズ

本法施行前從前ノ第七十八條又ハ第八十條ノ規定ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未ダ其ノ裁判ヲ受ケザル者ハ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ同條ノ罰金ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

附 則 (昭和六年法律第五十三號)

本法中專用自動車道ニ關スル規定ハ自動車交通事業法施行(昭和八年十月一日ヨリ施行)ノ日ヨリ、國立公園ニ關スル規定ハ國立公園法施行(昭和六年十月一日ヨリ施行)ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎土地收用法施行令(明治三十三年三月三十一日勅令第九十九號)

第一條 土地收用法第十一條第一項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長之ヲ行フ

第二條 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第三條 起業者ガ内務大臣ノ認定ヲ受ケントスル場合ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ゲタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調書及圖面ヲ申請書ニ添附スベシ

- 一 御料地及皇族所有地
- 二 國有地
- 三 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ用ニ供スル土地
- 四 寺院境内地
- 五 名所、舊蹟及古墳墓

前項ニ規定スル調書ニハ其ノ土地ヲ起業地ニ編入スルニ付土地管理者ノ意見ヲ記載スベシ

第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ官報ヲ以

テ之ヲ爲スヘシ

第五條 内務大臣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告スヘシ

第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依ル調書ハ土地調書及物件調書トス

土地調書ニハ收用又ハ使用セントスル土地ニ付左ノ事項ヲ記載シ實測平面圖ヲ添附スヘシ

- 一 土地所在ノ郡、市、區、町村及字、土地ノ番號、地目及面積竝ニ土地所有者ノ名及住所
- 二 收用又ハ使用セントスル土地ノ面積
- 三 土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ名及住所竝ニ其ノ權利ノ種類及内容
- 四 調書ヲ作りタル年月日
- 五 其ノ他必要ナル事項

物件調書ニハ收用若ハ使用又ハ移轉セントスル物件ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 物件ノ在ル土地所在ノ郡、市、區、町村及字竝ニ土地ノ番號及地目

二 物件ノ種類及數量並ニ其ノ所有者ノ名及住所
 三 物件ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ名及住所並ニ其ノ權利ノ種類及内容
 四 調書ヲ作りタル年月日
 五 其ノ他必要ナル事項
 物件ガ建物ナル場合ニ在リテハ物件調書ニハ前項ニ掲グルモノノ外建物ノ種類ニ區別シ其ノ構造及建坪ヲ記載シ實測平面圖ヲ添附スベシ
 土地收用法第七條ノ規定ニ依リ權利ヲ收用又ハ使用スル場合ニ於ケル調書ニ關シテハ第二項ノ例ニ依ル
 土地收用法第七條ノ二ノ規定ニ依リ物件ニ關スル權利ヲ收用又ハ使用スル場合ニ於ケル調書ニ關シテハ第三項及第四項ノ例ニ依ル
 調書ニハ調書ヲ作りタル起業者、土地所有者及關係人記名捺印スベシ立會人アルトキハ立會人モ亦之ニ記名捺印スベシ
第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ
第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

一 工事ノ種類
 二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目
 三 其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係
 本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス
第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
 地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
第十一條 收用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス
第十二條 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル
 高等文官ニ非サル委員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ府縣制第九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル
第十三條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ鐵道賃及船賃ハ

ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

◎倉庫業法

(昭和十年四月六日法律第四十一號)

二等以下ノ運賃ニ於テ、車馬賃(汽船ヲ通ゼザル水路ノ船賃ヲ含ム)ハ一里ニ付七十五錢以下ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル
 通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス
第十四條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日金二圓乃至十圓ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル
 鑑定ヲ爲スニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ前項ノ手當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得
第十五條 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官カ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル
第十六條 土地收用法第十九條ノ二及第五十六條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置其ノ他輕易ナル事項ニ關シテハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ委任スルコトヲ得
第十七條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
第十八條 土地收用法第七十四條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長之ヲ行ヒ其

ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官之ヲ行フ
第一條 倉庫營業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ預證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ指定シタル倉庫營業者ハ此ノ限ニ在ラズ
第二條 前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫、營業規則及保管料率表ヲ具シ主務大臣ニ之ヲ申請スベシ
第三條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者事業計畫、營業規則又ハ保管料率表ヲ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ニ届出ヲ爲スベシ
第四條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ第一條ノ許可ヲ爲スニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得
第五條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ正當ノ事由アルニ非ザレバ寄託ノ引受ヲ拒ムコトヲ得ズ
第六條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者預證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行スル場合ニ於テハ寄託者ノ爲ニ受寄物ヲ

火災保險ニ附スベシ但シ寄託者が反對ノ意思ヲ表示シタル場合又ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第八條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ業務ニ關スル報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ業務及設備ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得

第九條 主務大臣ハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ業務又ハ設備ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ事業計畫、營業規則又ハ保管料率表ノ變更ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 主務大臣ハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可ニ附シタル制限若ハ條件ニ違反シタルトキハ預證券及質入證券若ハ倉荷證券ノ發行ノ停止ヲ命ジ又ハ第一條ノ許可ノ取消ヲ爲スコトヲ得主務大臣第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行爲ガ著シク寄託者

又ハ預證券、質入證券若ハ倉荷證券ノ所持人ノ利益ヲ害シ又ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ亦同ジ

第十一條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者死亡シタル場合ニ於テ其ノ倉庫營業ヲ相續ニ因リテ承繼シタル者ハ之ヲ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第十二條 本法中主務大臣ノ職權ハ命令ヲ以テ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第十三條 第一條ノ規定ニ違反シ主務大臣ノ許可ヲ受ケズシテ又ハ第十條ノ規定ニ依ル發行停止ノ命令ニ違反シテ預證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第三條ノ規定ニ違反シ主務大臣ニ届出ヲ爲サズシテ事業計畫、營業規則又ハ保管料率表ヲ變更シタルトキ
二 第七條若ハ第八條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ第八條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタルトキ
三 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ

第十五條 倉庫營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ證券ヲ發行シタルトキハ其ノ發行ノ日ヨリ前二項ノ期間内第七條乃至第十條、第十三條、第十四條第二號及第三號、第十五條並ニ第十六條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

◎倉庫業法施行規則(昭和十年九月二十三日 商工省令第六號)

第一條 倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ許可申請書ニ事業計畫、營業規則及保管料率表ノ外左ノ書類並ニ預證券及質入證券又ハ倉荷證券ノ雛形ヲ添付シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一 許可ヲ受ケントスル者法人ナルトキハ定款及登記簿ノ謄本、財産目錄、貸借對照表並ニ業務ヲ執行スル役員ノ履歷書、其ノ他ノ者ナルトキハ履歷書及資産調書

二 倉庫營業以外ノ事業ヲ兼營スル場合ニ於テハ其ノ兼營事業ノ概要ヲ記載シタル書類

第二條 事業計畫ニハ左ノ事項ヲ定ムベシ
一 營業所及倉庫ノ位置
二 保管スベキ物品ノ種類
三 倉庫ノ構造及階數二以上ノ倉庫ニ付テハ各階床ノ許容積載荷重
四 倉庫ノ棟數

他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法若クハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ倉庫營業者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十年九月勅令第二百七十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)
本法施行ノ際現ニ倉庫營業ヲ行フ者又ハ其ノ承繼人ハ本法施行ノ日ヨリ二年ヲ限リ第一條ノ規定ニ拘ラズ預證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得
前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ第一條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ
倉庫營業者前二項ノ規定ニ依リ預證券及質入證券又ハ倉荷

五 倉庫ノ面積(各階別)

事業計畫ニハ左ノ事項ヲ記載シタル書類、倉庫及附屬設備ノ設計圖及仕様書竝ニ倉庫附近ノ見取圖ヲ添付スベシ

一 一年間ニ保管スベキ物品ノ種類別數量ノ豫定

二 倉庫營業ヲ行フニ要スル敷地ノ面積

三 倉庫及倉庫營業ヲ行フニ要スル敷地ハ申請者ノ所有ニ係ルモノナリヤ否ヤノ別及所有ニ係ラザルモノニ付テハ其ノ使用ノ權利ニ關スル事項

四 倉庫ハ既設ノモノナリヤ否ヤノ別竝ニ既設ノモノニ付テハ建設ノ時期、新設、増設、移轉、改造又ハ大修繕ヲ爲スモノニ付テハ其ノ竣成ノ豫定期日、費用及調達方法

五 保管スベキ物品ヲ火災保險ニ付スル場合ニ於ケル倉庫ノ構造級別

六 附屬設備ニ關スル事項

七 護岸及下水管渠ノ構造

八 一年間ノ收支概算

第三條 營業規則ニハ左ノ事項ヲ定ムベシ

一 業務ノ種類ニ關スル事項

二 受寄物ノ入庫ニ關スル事項

七 前各號ノ外商工大臣ニ於テ不適當ト認ムル者ナルトキ

第六條 倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケタル者事業計畫、營業規則又ハ保管料率表ヲ變更セントスルトキハ實施期日ヲ定メ二月前ニ其ノ事由ヲ具シ之ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

商工大臣已ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ前項ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第七條 商工大臣ハ倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケタル者ニ付左ノ事項ヲ告示ス告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同ジ

一 倉庫業法第一條ノ許可ヲ爲シタルトキハ其ノ氏名又ハ名稱、營業所及倉庫ノ位置、保管スベキ物品ノ種類竝ニ許可ノ年月日

二 倉庫業法第十條ノ規定ニ依リ預證券及質入證券又ハ倉荷證券ノ發行ノ停止ヲ命ジタルトキハ其ノ氏名又ハ名稱、營業所ノ位置、停止ノ期間及停止ノ年月日

三 倉庫業法第十條ノ規定ニ依リ同法第一條ノ許可ノ取消ヲ爲シタルトキハ其ノ氏名又ハ名稱、營業所ノ位置及取消ノ年月日

三 預證券、質入證券又ハ倉荷證券ニ關スル事項

四 受寄物ノ火災保險ニ關スル事項

五 受寄物ノ保管ニ關スル事項

六 保管料、荷役賃其ノ他手数料ニ關スル事項

七 受寄物ノ出庫ニ關スル事項

第四條 保管料率表ニハ保管スベキ物品ノ品目ニ依リ保管料率及保管料計算ノ方法ヲ定メ保管料率算出説明書及荷役賃率表ヲ添付スベシ

第五條 倉庫營業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ倉庫業法第一條ノ許可ヲ爲サズ

一 一年以上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ三年ヲ經過セザル者ナルトキ

二 倉庫業法第十條ノ規定ニ依リ許可ノ取消ヲ受ケ取消ノ日ヨリ三年ヲ經過セザル者ナルトキ

三 破産ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者ナルトキ

四 前三號ノ一ニ該當スル者ヲ業務ヲ執行スル役員トスル法人ナルトキ

五 信用薄弱ナル者ナルトキ

六 不完全ナル倉庫ニ依リ倉庫營業ヲ行フ者ナルトキ

第八條 倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ營業規則及保管料率表ヲ關係アル營業所及倉庫ニ公示スベシ

第九條 倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケタル者預證券、質入證券又ハ倉荷證券ノ様式ヲ變更セントスルトキハ實施期日ヲ定メ其ノ事由及雛形ヲ具シ豫メ之ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

第十條 倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ書類ヲ作成シ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一 受寄物ノ毎月入庫高及出庫高竝ニ毎月末保管殘高表(様式第一號)

二 預證券及質入證券又ハ倉荷證券ノ毎月發行高及回收高竝ニ毎月末流通高表(様式第二號)

三 受寄物ノ每期入庫高及出庫高竝ニ毎期末保管殘高表(様式第三號)

四 預證券及質入證券又ハ倉荷證券ノ每期發行高及回收高竝ニ毎期末流通高表(様式第四號)

五 每期財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類

第十一條 倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケタル者倉庫營業以外ノ事業ヲ兼營セントスルトキハ開始期日ヲ定メ二月前

ニ其ノ事由及兼營事業ノ概要ヲ具シ之ヲ商工大臣ニ届出
ヅベシ

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケタル法人ハ其ノ業
務ヲ執行スル役員ニ變更アリタルトキハ履歷書ヲ添付シ
遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

第十三條 倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ場合
ニ於テハ遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

- 一 氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキ
- 二 法人ニ在リテハ其ノ定款ヲ變更シ又ハ解散シタルト
キ
- 三 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 四 荷役賃率表ヲ制定シ又ハ變更シタルトキ
- 五 倉庫又ハ倉庫營業ヲ行フニ要スル敷地ノ權利ニ付變
更アリタルトキ
- 六 倉庫營業ニ關シ重大ナル事故發生シタルトキ
- 七 倉庫ノ改造又ハ大修繕ヲ爲シタルトキ
- 八 附屬設備ヲ新設シ若ハ増設シタルトキ又ハ既設ノモ
ノニ重要ナル變更ヲ加ヘタルトキ
- 九 護岸又ハ下水管渠ヲ新設シ若ハ増設シタルトキ又ハ

既設ノモノニ重要ナル變更ヲ加ヘタルトキ
十一 倉庫營業ノ全部若ハ一部ヲ休止シ若ハ廢止シタルト
キ又ハ休止シタル倉庫營業ノ全部若ハ一部ヲ開始シタ
ルトキ

既設ノモノニ重要ナル變更ヲ加ヘタルトキ

十二 倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケタル者又ハ同條ノ許
可ヲ受ケタル法人ノ業務ヲ執行スル役員其ノ職務又
ハ業務ニ關シ訴訟ノ當事者ト爲リタルトキ及其ノ判
決アリタルトキ

十三 倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケタル者又ハ同條ノ許
可ヲ受ケタル法人ノ業務ヲ執行スル役員犯罪ノ嫌疑
ノ爲起訴セラレタルトキ

第十四條 倉庫業法第一條ノ許可ヲ受ケタル者死亡シタル
場合ニ於テ其ノ倉庫營業ヲ相續ニ依リテ承繼シタル者ハ
之ヲ證スル書類、履歷書及資産調書ヲ添付シ遲滯ナク之
ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

第十五條 倉庫業法第八條ノ行政官廳ハ商工大臣及地方長
官トス

第十六條 倉庫業法第八條第二項ノ證票ハ様式第五號ニ依
ル

八 法人ニ在リテハ業務ヲ執行スル役員
九 倉庫營業以外ノ事業ヲ兼營スルヤ否ヤノ別及兼營ス
ル場合ニ於テハ其ノ兼營事業ノ概要
十 倉庫業法附則第二項ノ規定ニ依リ承繼人ニ在リテハ
其ノ承繼ノ事實

第十七條 倉庫業法又ハ本則ノ規定ニ依リ商工大臣ニ提出
スル書類ハ主タル營業所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ
經由シ別ニ其ノ副本ヲ關係地方長官ニ提出スベシ

附 則

本則ハ倉庫業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十年十月一
日ヨリ施行）

倉庫營業者倉庫業法附則第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ預
證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行シタルトキハ左ノ事項
ヲ記載シタル書類、營業規則、保管料率表、荷役賃率表、
倉庫及附屬設備ノ配置及面積ヲ記入シタル圖面竝ニ法人ニ
在リテハ其ノ定款ヲ添付シ遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ届出ヅ
ベシ添付シタル書類ヲ變更シタルトキ亦同ジ

- 一 營業所及倉庫ノ位置
- 二 保管スベキ物品ノ種類
- 三 倉庫ノ主要ナル構造
- 四 倉庫ノ棟數
- 五 倉庫ノ面積（各階別）
- 六 倉庫ハ自己ノ所有ニ係ルモノナリヤ否ヤノ別及所有
ニ係ラザルモノニ付テハ其ノ使用ノ權利ニ關スル事項
- 七 預證券及質入證券又ハ倉荷證券ノ様式

第七條第二號及第三號、第十條竝ニ第十三條第一號乃
至第三號、第六號、第十號、第十二號及第十三號ノ規
定ハ倉庫營業者倉庫業法附則第二項又ハ第三項ノ規定
ニ依リ預證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行シタル場
合ニ之ヲ準用ス
（様式ハ略ス）

◎漁業法（明治四十三年四月二十一日）
（法律第五十八號）

第一條 本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水産
動物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權又ハ
入漁權ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條 公共ノ用ニ供セサル水面ニハ別段ノ規定アル場合
ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セス

第三條 公共ノ用ニ供スル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ
用ニ供セサル水面ニハ本法ヲ適用ス

前項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業ニ關シ之カ利用ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得

第四條 漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區劃シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許スヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

第五條 水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスルモノハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ漁業組合カ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタル場合ノ外之ヲ與ヘス

第六條 前二條ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ受ケシムル必要アリト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 漁業權ハ物權ト看做シ土地ニ關スル規定ヲ準用ス民法第二編第九章ノ規定ハ漁業權ニ之ヲ適用セス

第八條 漁業權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ其ノ漁場ニ定著シタル工作物ハ民法第三百七十條ノ準用ニ關シテハ漁業權ニ附加シテ之ト一體ヲ爲シタルモノト看做ス

第九條 裁判所ノ土地ノ管轄カ不動産所在地ニ依リテ定マル場合ニ於テハ漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃ヲ以テ不動産所在地ト看做ス

ノ共有者ノ住所又ハ居所分明ナラサルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ裁判所ノ許可ヲ以テ其ノ者ノ同意ニ代フルコトヲ得

第十六條 漁業權ノ存續期間ハ二十年以内ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依ル但シ第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ之ヲ算入セス

前項ノ期間ハ漁業權者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條 設定行爲ニ於テ存續期間ニ付別段ノ定ナキ入漁權ハ目的タル漁業權ノ存續中存續スルモノト看做ス但シ入漁權者ハ何時ニテモ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第十八條 入漁權者カ入漁料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ漁業權者ハ其ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得

入漁權者カ引續キ二年以上入漁料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ漁業權者ハ入漁權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 入漁料ハ入漁ヲ爲ササルトキハ之ヲ支拂フコトヲ要セス

第二十條 入漁權ニ關シ前三條ノ規定ニ異リタル慣行アル

第十條 漁業權ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更スルコトヲ得ス

地先水面專用ノ漁業權ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十一條 漁業權者ノ有スル水面使用ニ關スル權利義務ハ漁業權ノ處分ニ從フ

第十二條 入漁權者ハ設定行爲又ハ舊法施行前ノ慣行ニ從ヒ他人ノ專用漁業權ニ屬スル漁場内ニ入會ヒ其ノ專用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス

第十三條 入漁權ハ物權ト看做ス

入漁權ハ相續及讓渡ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第十四條 入漁權ハ漁業權者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ハ他ノ共有者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ處分スルコトヲ得ス

第十五條ノ二 漁業權又ハ入漁權ノ各共有者カ其ノ共有ニ屬スル漁業權又ハ入漁權ヲ變更セントスル場合ニ於テ他トキハ其ノ慣行ニ從フ

第二十一條 行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與フルニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第二十二條 漁業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ一年間其ノ漁業ニ從事スル者ナキトキ又ハ引續キ二年間休業シタルトキハ行政官廳ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十三條 行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業ヲ爲ササル期間及第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ前條ノ期間ニ之ヲ算入セス

第二十四條 水産動物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊繫留、水底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アルトキ又ハ公益上害アルトキハ主務大臣ハ免許シタル漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

漁業權者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ漁業ヲ制限シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十五條 錯誤ニ依リ漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十六條 免許漁業原簿ノ登錄ハ登記ニ代ハルモノトス

登録ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 漁業免許ノ取消アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ之ヲ登録シタル抵當權者及先取特權者ニ通知スヘシ

前項ノ權利者ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ漁業權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十四條第一項又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

漁業權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及第一項ノ權利者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セサリシモノト看做ス

第二十八條 漁業權ハ登録シタル權利者ノ同意アルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更シ又ハ拋棄スルコトヲ得ス

第十五條ノ二ノ規定ハ漁業權ヲ分割シ其ノ他變更セントスル場合ニ於テ登録シタル入漁權者ノ住所又ハ居所分明ナラザル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 漁業者ハ左ニ掲グル目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ立木竹若ハ土石ノ除去ヲ制限スルコトヲ得

四 漁業者ノ數又ハ資格ニ關スル制限

五 水産動物ニ有害ナル物ノ遺棄又ハ漏泄ニ關スル制限又ハ禁止

六 水産動物ノ蕃殖保護ニ必要ナル物ノ採取又ハ除去ニ關スル制限若ハ禁止

七 水産動物ノ移植ニ關スル制限又ハ禁止

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

前二項ノ命令ニハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品、漁具及第一項第七號ノ水産動物ノ沒收竝犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ價額ノ追徴ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十五條 汽船「トロール」漁業、母船式漁業、汽船捕鯨業又ハ機船底曳網漁業ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ漁業ニ關スル制限又ハ禁止ハ主務大臣之ヲ定ム

第三十六條 爆發物ヲ使用シテ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ海獸捕獲ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 主務大臣ハ迴河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリ

一 漁場ノ標識ノ建設

二 魚見若ハ漁業ニ關スル信號又ハ之ニ必要ナル設備

三 漁業ニ必要ナル目標ノ保存又ハ建設

第三十條 漁業者ハ必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ特別ノ用途ナキ他人ノ土地ニ立入り漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 漁業ニ關スル測量、實地調査又ハ前二條ノ目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り支障木竹ヲ伐採シ又ハ障礙物ヲ除去スルコトヲ得

第三十二條 前三條ノ行爲ヲ爲ス者ハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知シ爲ニ生シタル損害ハ之ヲ賠償スヘシ

第三十三條 行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設又ハ漁具ノ標識ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第三十四條 地方長官ハ水産動物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

一 水産動物ノ採捕ニ關スル制限又ハ禁止

二 水産動物若ハ其ノ製品ノ販賣又ハ所持ニ關スル制限若ハ禁止

三 漁具又ハ漁船ニ關スル制限若ハ禁止

ト認ムルトキハ水面ノ一定區域内ニ於ケル工作物ノ設置ニ付制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

工作物ニシテ迴河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者又ハ占有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第三十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ニ付權利ヲ有スル者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

前項ノ補償金額ニ付不服アル者ハ補償金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條 公共ノ用ニ供セサル水面ニシテ公共ノ用ニ供スル水面又ハ第三條ノ水面ニ通スルモノニハ命令ヲ以テ

第三十四條、第三十六條乃至第三十八條、第五十五條及第五十九條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四十條 漁業ニ従事スル者ノ雇傭並雇人及遺族ノ扶助ニ關シテハ勅令ヲ以テ規程ヲ設クルコトヲ得

第四十一條 海軍艦艇乗組將校、警察官吏、港務官吏、税

關官吏又ハ漁業監督吏員ハ漁業ヲ監督シ必要アリト認ム
ルトキハ船舶、店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ檢
査スルコトヲ得

前項ノ臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ
搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲
スコトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準
用ス但シ同法第四條ノ規定ハ漁業監督吏員以外ノ者ニ之
ヲ準用セス

第四十二條 一定ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官
廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得

漁業組合ノ地區ハ市町村ノ區域又ハ市町村内ノ漁業者ノ
部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合
ハ此ノ限ニ在ラス町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ町
村ニ準スヘキモノヲ以テ前項ノ町村ト看做ス

北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得

第四十三條 漁業組合ハ法人トス
漁業組合ハ漁業權若ハ入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ貸付
ヲ受ケ組合員ノ漁業又ハ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル共同
ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス

漁業組合ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外自ラ

爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル漁業組合
(漁業協同組合)ノ組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムヘシ

出資一口ノ金額ノ最高限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十三條ノ四 漁業組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ其
ノ經費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第四十三條ノ五 第四十三條ノ二第一項第三號又ハ第四號
ノ事業ヲ行フ漁業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保
證責任ノ三種トス

無限責任ノ組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完

済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ連帶無限

ノ責任ヲ負擔シ有限責任ノ組合ニ在リテハ組合員ノ全員

カ經費負擔額ノ外其ノ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔シ

保證責任ノ組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完

済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ其ノ出資

額又ハ經費負擔額ノ外一定ノ金額(保證金額)ヲ限度トシ

テ責任ヲ負擔ス

第四十三條ノ六 無限責任又ハ保證責任ノ漁業組合ヨリ脫
退シタル組合員ハ脫退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脫退ヲ

漁業ヲ營ムコトヲ得ス

組合員ハ漁業組合ノ取得シ若ハ貸付ヲ受ケタル專用漁業
權又ハ入漁權ノ範圍内ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有
ス但シ組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十三條ノ二 漁業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

- 一 水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他漁場ノ利用ニ關スル施
設
- 二 船溜、船揚場、漁礁其ノ他組合員ノ漁業ニ必要ナル
設備ノ設置
- 三 組合員ノ漁獲物其ノ他ノ生産物ノ加工、保藏、運搬
又ハ販賣ニ關スル施設
- 四 組合員ノ漁業又ハ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル物又ハ
資金ノ供給ニ關スル施設
- 五 組合員ノ遭難防止又ハ遭難救恤ニ關スル施設
- 六 前各號ニ掲クルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要
ナル施設

前項ニ掲クル組合ノ施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合
ニ限り組合員タルコトヲ得サル者ヲシテ命令ノ定ムル所
ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第四十三條ノ三 前條第一項第三號又ハ第四號ノ事業ヲ行
フ漁業組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ出資ヲ

登記シタル後二年間前條第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔
ス

第四十三條ノ七 新ニ無限責任又ハ保證責任ノ漁業組合ニ
加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ
付テモ亦第四十三條ノ五第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔
ス

第四十三條ノ八 漁業協同組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行
政官廳ノ許可ヲ得テ自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得

第四十三條ノ九 漁業協同組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依
リ組合ノ地區内ニ住所ヲ有スル者ニシテ漁業者ニ非サル
モノヲ組合員ト爲スコトヲ得

第四十三條第四項ノ規定ハ漁業者ニ非サル組合員ニハ之
ヲ適用セス

第四十三條ノ十 漁業組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組
合規約ニ違反シタル組合員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ
得

第四十四條 漁業組合聯合會ハ所屬ノ漁業組合及漁業組合
聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲行政官廳ノ許可ヲ得テ之
ヲ設立スルコトヲ得

漁業組合聯合會ハ法人トス

第七編 雜

第四十五條 漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セス

第四十六條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立ハ其ノ主ナル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十七條 行政官廳ハ何時ニテモ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ法令、行政官廳ノ命令若ハ規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 決議ノ取消
- 二 役員ノ解職
- 三 解散又ハ事業ノ停止

第四十九條 本法ニ規定スルモノノ外漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立、登記、管理、構成者ノ權利義務及加入

第五十四條 水産組合及水産組合聯合會ハ法人トシ重要物産同業組合法ヲ準用ス

第五十五條 漁業ノ免許若ハ許可ノ出願又ハ期間更新ノ申請ニ對スル許否ニ不服アル者及第三條第二項、第二十二條、第二十四條、第二十五條若ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十六條 漁場ノ區域、漁業權若ハ入漁權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ之ニ關スル裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十七條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付前條ノ規定ニ依ル裁決又ハ判決ヲ待ツノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 免許ニ依ラス若ハ漁業ノ停止中第四條又ハ第六條ノ漁業ヲ爲シタル者
- 二 免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ

脱退、組織變更、分合、解散、清算其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ於テ本法中特ニ組合又ハ聯合會ニ關スル規定ニ違反シタル場合ニ於テハ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル組合又ハ聯合會ニ關スル命令ニ於テハ組合又ハ聯合會力之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

前二項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 漁業者又ハ水産動物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水産業ノ改良發達及水産動物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲水産組合ヲ設クルコトヲ得

第五十二條 水産組合成立シタルトキハ其ノ地區内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ニ加入シタルモノト看做ス但シ主務大臣ニ於テ加入ノ義務ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 水産組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲水産組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

漁業ヲ爲シタル者
三 專用漁業ノ停止中其ノ漁場ニ於テ停止シタル漁業ヲ爲シタル者

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ハ之ヲ沒收スルコトヲ得但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第五十九條 汽船「トロール」漁業又ハ母船式漁業ニ關シ第三十五條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金、汽船捕鯨業又ハ機船底曳網漁業ニ關シ同條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止又ハ第三十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス此ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ハ之ヲ沒收スルコトヲ得但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第六十條 漁業權又ハ漁業組合員ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ侵害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罰金ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十一條 漁場又ハ漁具ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十二條 第四十一條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者及臨檢搜索ノ際當該吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十三條 營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

第六十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第六十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十一年十一月勅令第四百二十八號ヲ以テ同四十四年四月一日ヨリ施行)

第六十七條 本法ハ獵虎及臘豚獸ノ漁獵ニ之ヲ適用セス

第六十八條 本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則

第六十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十一年十一月勅令第四百二十八號ヲ以テ同四十四年四月一日ヨリ施行)

第六十九條 舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス
本法施行前ニ發生シタル入漁權ニ關シ亦前項ニ同シ
第七十條 本法施行前免許漁業原簿ニ登錄シタル事項ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限り之ニ依リ登錄シタルモノト看做ス
第七十一條 舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ專用漁業免許後一年間ニ限り登錄ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得
第七十二條 本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴願又ハ行政訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル
第七十三條 舊法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本法施行後一年間ニ限り登記ナキモ其ノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

附 則

(昭和八年法律第三十三號)
第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和九年七月勅令第二百三十一號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)
第二條 本法施行前ヨリ引續キ第四十三條ノ二第一項第三

號又ハ第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合ハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ限り其ノ組織ニ關シ第四十三條ノ五ノ規定ニ依ラス仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得
第三條 本法施行前ニ設立シタル漁業組合聯合會ハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ限り其ノ構成者及組織ニ關シ第四十四條第三項及第四項ノ規定ニ依ラス仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得
前項ノ聯合會ニシテ前項ノ期間内ニ其ノ構成者及組織ニ關シ第四十四條第三項及第四項ノ規定ニ依ル聯合會ト爲ラサルモノハ其ノ期間滿了ノ日ニ於テ解散ス
第四條 印紙稅法第四條第一項第十一號中「産業組合聯合會」ノ下ニ「漁業組合、漁業組合聯合會」ヲ加フ

◎漁業法施行規則(明治四十三年十一月十二日農商務省令第二十五號)

第一章 總 則

第一條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ
一 專用漁業ニ關スルトキ
二 入漁權ニ關スルトキ

三 二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ
四 漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ニ關スルトキ
前項第三號又ハ第四號ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得農林大臣ノ處分ヲ爲シタルモノニ付亦同シ
第二條 農林大臣ニ出願、申請又ハ届出ヲ爲サムトスルトキハ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由スヘシ
第三條 漁業ニ關スル行政行爲ニ付テハ關係地方長官ハ交五ニ補助スルモノトス
第四條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ出願、申請又ハ届出ヲ爲シタル者、漁業權者、入漁權者其ノ他漁業ニ關シ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シ書類ノ提出、訂正若ハ補充又ハ物件ノ提出ヲ命スルコトヲ得
第五條 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ依リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタル

日ヨリ起算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第六條 本則ニ依リ行政官廳ノ爲スヘキ公告ハ慣行ノ公布式ニ依ルモノトス

第七條 漁業法第三條第二項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ニシテ同條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ水面又ハ敷地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ出願スヘシ
願書ニハ左ニ掲ケル書面ヲ添附スヘシ
一 許可ヲ受ケムトスル事由書
二 占有者又ハ所有者タルコトヲ證スヘキ書面
三 許可ヲ受ケムトスル區域ノ圖面
四 漁業權ノ設定アルトキハ其ノ漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意書若シ其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書

第八條 前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ地方長官ハ之ヲ公告シ若シ漁業權者其ノ他登錄シタル權利者アルトキハ之ヲ通知スヘシ

第九條 地方長官ハ漁業法第三條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可シタル區域ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

一定ノ水面ニ建設若ハ敷設スルモノ

七 錨類漁業 一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ管若ハ網ヲ建設シ又ハ竹、木、石堤等ヲ建設シテ陷穿ノ裝置若ハ魚堰ヲ設ケルモノ

第十三條 區劃漁業ノ種類左ノ如シ

一 第一種 一定ノ區域内ニ於テ瓦、石、竹、木等ヲ沈設シ又ハ篋ヲ建設シテ爲ス養殖業

二 第二種 土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業

三 第三種 前二號ノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業

第十四條 左ニ掲ケル漁業ハ行政官廳ノ免許ヲ受ケヘシ

一 第一種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

二 第二種 一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業

三 第三種 一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網、地漕網漁業

四 第四種 一定ノ曳寄場ヲ有スル船曳網漁業

五 第五種 一定ノ網場ヲ有スル囊待網漁業

六 第六種 一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業

七 第七種 一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業

八 第八種 一定ノ水面ニ漬場ヲ設ケル鰯漁業

九 第九種 一定ノ水面ニ築磯ヲ設ケル漁業

第二章 漁業ノ免許

第十條 本則ニ於テ免許漁業ト稱スルハ定置漁業、區劃漁業、專用漁業及特別漁業ヲ謂フ

第十一條 本則ニ於テ定置漁業ト稱スルハ漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、區劃漁業ト稱スルハ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、專用漁業ト稱スルハ他ノ免許漁業ニ該當セスシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、特別漁業ト稱スルハ第十四條各號ニ掲ケル漁業ヲ謂フ

第十二條 定置漁業ノ種類左ノ如シ

一 臺網類漁業 敷網及垣網又ハ敷網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

二 落網類漁業 落網、上網及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

三 柵網類漁業 側網及垣網ヲ碇、土俵若ハ支柱等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

四 建網類漁業 曲網及垣網又ハ刺網ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

五 出網類漁業 垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

六 張網類漁業 囊網又ハ立廻網ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ

第十五條 前三條ニ該當スル免許漁業ノ名稱ハ農林大臣別ニ之ヲ告示ス

第十六條 左ノ區域ヲ以テ免許漁業ノ漁場トス

一 定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域

二 區劃漁業ニ在リテハ養殖ヲ爲ス區域

三 專用漁業ニ在リテハ專用スル區域

四 特別漁業中第一種ニ在リテハ網場又ハ捕獲場ノ區域、第二種ニ在リテハ追込場ノ區域、第三種及第四種ニ在リテハ網ノ使用區域、第五種及第六種ニ在リテハ網場ノ區域、第七種ニ在リテハ飼付ヲ爲ス區域、

第八種ニ在リテハ漬場ノ區域、第九種ニ在リテハ築磯ノ區域

第十七條 水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ又ハ漁業ノ價值ナシト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與ヘス

漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意アル場合ヲ除クノ外既ニ免許ヲ與ヘタル漁業ト相容レスト認ムルトキ亦前項ニ同シ
前項ノ規定ハ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ニ之ヲ適用セス

第十八條 漁業ノ免許ハ市、町、村、町村組合及市町村内

ノ獨立シタル區ニ之ヲ與ヘス但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ北海道、沖繩縣、並沖繩縣及島嶼町村制ヲ施行シタル島嶼ノ區又ハ町村内ノ一部ニ之ヲ適用ス

第十九條 第十七條第一項及第二項ノ規定ハ漁業權變更ノ許可ノ出願ニ之ヲ準用ス

第二十條 從來ノ慣行ニ因ル專用漁業權者ハ其ノ漁業ノ種類ヲ増加シ又ハ漁場ノ區域ヲ擴張スル變更ノ許可ヲ出願スルコトヲ得ス

第二十一條 地勢上漁業組合毎ニ其ノ地先水面ヲ區分スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ區分カ著シク困難ナルトキハ關係漁業組合ハ共同シテ其ノ地先水面ノ専用ヲ出願スルコトヲ得

第二十二條 漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ專用漁業ニ在リテハ漁場毎ニ、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場毎ニ願書二通ヲ作り之ヲ出願スヘシ

願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 専用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及名稱
二 漁獲物ノ種類

政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十七條 前二條ノ規定ハ二人以上共同シテ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利若ハ入漁權ヲ取得シタル者ニ之ヲ準用ス

第二十八條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ル代表者ハ免許ヲ受ケタル漁業權ニ付其ノ共同者ヲ代表スル者ト看做ス

第二十九條 漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 免許ノ番號
 - 二 免許ノ年月日
 - 三 漁業權者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
 - 四 漁場ノ位置
 - 五 漁業ノ種類及名稱
 - 六 漁獲物ノ種類
 - 七 漁業時期
 - 八 漁業權ノ存續期間
 - 九 免許ニ條件又ハ制限ヲ附シタルトキハ其ノ事項
- 第三十條** 漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書二通ヲ作り免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ若シ登錄シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ

三 漁業時期
四 漁業權存續期間

第二十三條 前條ノ願書ニハ漁場ノ位置及區域ヲ記載シタル漁場圖二通ヲ添附スヘシ

前項ノ記載事項ノ外定置漁業ノ漁場圖ニハ漁具ノ建設又ハ敷設ノ形狀ヲ、區劃漁業ノ漁場圖ニハ漁場ノ面積ヲ記載スヘシ

第二十四條 免許ヲ受ケムトスル漁場ノ敷地カ他人ノ所有ニ屬スルトキ又ハ水面カ他人ノ占有ニ係ルトキハ其ノ所有者又ハ占有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ漁業ノ免許ノ願書ニ添附スヘシ

第二十五條 二人以上共同シテ漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ届出テ又ハ出願ノ書面ニ記載スヘシ

前項ノ規定ニ依リ代表者ノ届出又ハ記載ナキトキハ行政官廳ハ代表者ヲ指定スヘシ

第二十六條 代表者ハ共同者全員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得
代表者ニ變更アリタルトキハ行政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
代表者ノ變更ハ前項ノ届出ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行

證スル書面ヲ、其ノ出願カ漁業權ノ分割又ハ漁場區域ノ變更ニ係ルトキハ尙其ノ分割又ハ變更スル漁場ノ漁場圖二通ヲ添附スヘシ

第二十三條ノ規定ハ前項ノ漁場圖ニ之ヲ準用ス
第三十一條 漁業權存續期間更新ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ更新期間ヲ定メ申請書二通ヲ作り存續期間満了ノ日ヨリ少クトモ三月前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ慣行ニ因リ免許ヲ受ケタル漁業權ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ヲ許可シタルトキ又ハ漁業權存續期間ノ更新ヲ免許シタルトキハ之ヲ公告スヘシ

第三十三條 漁業ノ免許ヲ取消シ、免許シタル漁業ヲ制限若ハ停止シ又ハ其ノ處分ヲ變更若ハ取消シタルトキハ當該官廳ハ之ヲ公告シ且遲滞ナク登錄シタル權利者ニ通知スヘシ但シ地方長官ノ免許シタル漁業ニ關シ農林大臣ノ爲シタル處分ノ通知ハ地方長官之ヲ爲スヘシ

第三十四條 漁業法第二十五條ノ規定ニ依リ地方長官漁業ノ免許ヲ取消サムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

爲シタル處分ノ通知ハ地方長官之ヲ爲スヘシ

第三十五條 漁業法第十條第二項ノ認可ヲ受ケムトスルト

キハ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ漁業權者カ其ノ持分ノ處分ヲ爲ストキハ他ノ共有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ、拋棄ヲ爲ストキハ登録シタル權利者ノ同意ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三十六條 免許漁業ニ付休業ノ認可ヲ受ケムトスルトキ

ハ休業期間ヲ定メ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ヲ爲スニ至リタルトキハ遲滯ナク之ヲ届出ツヘシ
休業認可ノ期間内漁業ヲ爲シタルトキハ爾後認可ノ效力ヲ失フ

第三十七條 漁業權ヲ拋棄シタルトキハ免許ヲ受ケタル行

政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
前項ノ届出ニハ登録シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第一項ノ届出アリタルトキハ行政官廳ハ之ヲ公告スヘシ

第三章 土地ノ使用

土地又ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ト漁場トヲ管轄スル地

方長官異ナルトキ又ハ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ノ爲ナルトキハ之ヲ農林大臣トス

前項但書ノ場合ニ於テハ農林大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得

第四十三條 漁業法第三十一條ノ許可ヲ受ケムトスルトキ

ハ土地又ハ支障木竹若ハ障碍物ノ所在地ヲ管轄スル警察官署ニ之ヲ出願スヘシ

第四十四條 漁業法第三十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ

立入り又ハ支障木竹ヲ伐採シ若ハ障碍物ヲ除去セムトスル者ハ當該官廳ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第四章 蕃殖保護及漁業取締

第四十五條 漁業法第三十四條ニ依ル命令ハ官廳又ハ公署

ニ於テ調査又ハ試験ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セス養殖、學術研究其ノ他特別ノ理由ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合亦同シ

第四十六條 水産動植物ヲ疲憊又ハ斃死セシムヘキ有毒物

ヲ使用シテ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス

第四十七條 漁業法第三十六條又ハ前條ノ規定ヲ犯シ採捕

シタル水産動植物ハ之ヲ所持又ハ販賣スルコトヲ得ス

第三十八條 漁業法第二十九條ノ許可ヲ受ケムトスルトキ

ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ

一 土地ノ使用ニ付テハ其ノ所在、地番、種目及面積、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的、時期及期間

二 立木竹若ハ土石ノ除去ノ制限ニ付テハ其ノ種類、存在ノ場所、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的及期間

第三十九條 前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ行政官廳ハ所

有者及占有者ニ之ヲ通知シ且公告スヘシ

第四十條 漁業權者ニ對シテ爲シタル漁業法第二十九條乃

至第三十一條ノ許可ハ其ノ承繼人及其ノ漁業權ニ依リ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ爲ニモ效力ヲ有ス

第四十一條 漁業法第三十條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ

土地ノ所在、地番、種目、面積及現況、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ

第四十二條 第三十八條及第四十一條ノ行政官廳ハ土地又

ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ヲ管轄スル地方長官トス但シ

第四十八條 遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ

地方長官ノ定ムル所ニ依リ漁道ヲ開通スヘシ

第四十九條 行政官廳ハ漁業取締ノ爲定置漁業及特別漁業

ニ付命令ヲ以テ保護區域ヲ設ケルコトヲ得

保護區域ヲ設ケルトキハ其ノ漁業ノ妨害ト爲ルヘキ漁業

ノ制限若ハ禁止ニ付規定ヲ設ケヘシ

第五十條 左ニ掲クル漁業ハ地方長官ノ許可ヲ受ケルニ非

サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 藻手繰網漁業

二 藻漕網漁業

三 藻打瀬網漁業

四 藻曳網漁業

五 潜水器漁業

六 空釣繩漁業

前項ノ漁業ノ地方名稱ハ地方長官之ヲ公示スヘシ
地方長官第一項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下附スヘシ

第五十一條 前條ノ漁業者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帶ス

ヘシ

第五十二條 地方長官禁漁區ヲ設ケタルトキハ適當ノ場所

ニ其ノ標識ヲ建設スヘシ

第五十三條 漁場標識ヲ建設シタルトキハ其ノ漁場標識タルコトヲ明示スヘシ

第五十四條 臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五章 裁 決

第五十五條 漁業法第五十六條第一項ノ裁決ヲ申請セムトスルトキハ漁業權ニ關シテハ漁業ノ免許ヲ與ヘタル行政官廳ニ、入漁權ニ關シテハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ但シ關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異ナルトキ又ハ漁業權者、入漁權者間ノ爭ニ關スルトキハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ

第五十六條 裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者及相手方ノ氏名若ハ名稱及住所
- 二 申請ノ目的及理由
- 三 立證

申請書ニハ證據書類ヲ添附スヘシ

第五十七條 申請書ニハ相手方ノ數ニ應シ前條書類ノ副本ヲ添附スヘシ

附 則

第六十三條 本則ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條 本則施行前漁業ニ關シ農商務大臣又ハ地方長官ノ發シタル命令ノ規定ニシテ漁業法又ハ本則ノ規定ニ牴觸セサルモノハ漁業法及本則ニ依リ之ヲ發シタルモト看做ス

第六十五條 本則施行前ノ漁業ニ關スル申請ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 (大正十五年六月 農林省令第一四號)

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前從前ノ規定ニ依リ郡長又ハ島司ニ對シ爲シタル出願ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

◎ 漁業共同施設獎勵規則 (大正十四年六月二十六日 農林省令第二十一號)

第一條 農林大臣ハ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ獎勵スル爲

- 本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ左ニ掲クル設備又ハ事業費ニ對シ獎勵金ヲ交付ス
- 一 水産物ノ販賣設備
- 二 水産物ノ製造、加工及處理設備
- 三 貯藏設備

第五十八條 行政官廳ニ於テ裁決ノ申請書ヲ受理シタルト

キハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第五十九條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附スヘシ裁決ノ申請ヲ却下スルトキ亦同シ

第六章 罰 則

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第四十六條又ハ第四十七條ノ規定ヲ犯シタル者
- 二 禁漁區内ニ於テ其ノ禁止シタル水産動物ヲ採捕シタル者

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第六十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 第四十八條又ハ第五十條第一項ノ規定ヲ犯シタル者
- 二 禁漁區又ハ第九條ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者

第六十二條 第五十一條ノ規定ヲ犯シタル者ハ科料ニ處ス

四 漁業用水ノ製造設備

五 漁船及漁具設備

六 水産物ノ運搬設備

七 水産物ノ養殖設備

八 漁船救難設備

九 水産物ノ共同出荷ノ爲必要ナル事業費

十 漁業用燃油配給ノ爲必要ナル事業費

第二條 獎勵金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

- 一 漁業組合又ハ漁業組合聯合會
- 二 水産會法ニ依リ設立シタル水産會
- 三 水産組合又ハ水産組合聯合會
- 四 産業組合又ハ産業組合聯合會
- 五 市町村又ハ之ニ準スヘキモノ
- 六 前各號ノ外農林大臣ニ於テ適當ト認ムル法人又ハ組合

第三條 第一條第一號乃至第七號ニ掲クル設備ニ對スル獎勵金ノ額ハ左ノ費用ノ十分ノ五以内トス

- 一 販賣設備ニ在リテハ水産物ノ共同販賣所、共同出荷所又ハ其ノ附屬設備ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ

要シタル費用

二 製造、加工又ハ處理設備ニ在リテハ水産物ノ製造場、加工場若ハ處理場又ハ水産物ノ製造、加工若ハ處理ノ爲使用スル機械器具ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要シタル費用

三 貯藏設備ニ在リテハ水産倉庫、冷藏庫、貯氷庫、燃油槽又ハ其ノ附屬設備其ノ他水産物又ハ漁業用品ノ貯藏設備ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要シタル費用

四 漁業用水ノ製造設備ニ在リテハ漁業用水ノ製造場又ハ漁業用水ノ製造ノ爲使用スル機械器具ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要シタル費用

五 漁船又ハ漁具設備ニ在リテハ漁船、漁具、副漁具、船納屋、漁具納屋又ハ染網場、網干場其ノ他ノ漁具ノ保強設備ノ新造、改設又ハ買入ニ要シタル費用

六 運搬設備ニ在リテハ水産物ノ運搬ノ用ニ供スル船、車(車庫ヲ含ム)又ハ機械器具ノ新造、改設又ハ買入ニ要シタル費用

七 養殖設備ニ在リテハ水産物ノ蕃殖場、蓄養場、種場、人工孵化場其ノ他ノ養殖設備ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要シタル費用

命スルコトアルヘシ

第五條 獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者第四條第一項各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重大ナル變更ヲ加ヘ又ハ其ノ設備ヲ讓渡セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第一條第九號又ハ第十號ニ掲グル事業費ニ對スル獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者第四條第一號及第二號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキ亦前項ニ同ジ
第十二條ノ規定ハ獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依リ讓渡ノ認可ヲ受ケタルトキハ讓受人ヲ以テ獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第六條 農林大臣ハ其ノ指定シタル検査員ヲシテ獎勵金ノ交付ヲ受クベキ設備ニ付検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條 獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者獎勵金ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ設備完成又ハ物件買入終了後精算書ヲ添ヘ請求書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第七條ノ二 第一條第九號又ハ第十號ニ掲グル事業費ニ對スル獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ費用ノ精算書及事業成績書ヲ翌年度四月三十日迄ニ農林大臣ニ提出スベシ

第一條第八號ニ掲クル設備ニ對スル獎勵金ノ額ハ漁船遭難ノ救護又ハ豫防ノ用ニ供スル救護船、救護船格納庫、標識、信號標、無線電信装置、無線電話装置其ノ他ノ設備ノ新造、改設又ハ買入ニ要シタル費用ノ十分ノ六以内トス

第一條第九號又ハ第十號ニ掲グル事業費ニ對スル獎勵金ノ額ハ其ノ事業ヲ經營スル爲要スル費用ノ十分ノ五以内トス

第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ二月末日迄ニ之ヲ農林大臣ニ提出スベシ
一 事業計畫書
二 收支豫算書
三 設備ニ對スル獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル場合ニ於テハ設備ノ設計書

獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ市町村又ハ之ニ準スヘキモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ提出スヘシ
一 規約、會則、定款又ハ寄附行爲
二 代表者ノ氏名

前二項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ

前二項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ

第八條

獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者解散シタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ合併後存続スル法人若ハ合併又ハ分割ニ因リテ設立シタル法人ニシテ獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル設備ニ付引續キ共同ノ施設ヲ行フトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 設備ニ對スル獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備ノ承繼人ハ第四條第一號ノ事業計畫書ニ定ムル目的及用途ニ從ヒ其ノ設備ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ要ス但シ其ノ使用ニ支障ナキ限り他ノ用途ニ之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得

前項ノ目的又ハ用途ヲ變更セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ設備ニ重大ナル變更ヲ加ヘ又ハ其ノ設備ヲ讓渡セムトスルトキ亦同ジ

第十條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備ノ承繼人ハ毎事業年度終了後二月内ニ其ノ共同施設事業ノ報告書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第十一條 農林大臣及地方長官必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備ノ承繼人ニ對シ何時ニテモ其ノ共同施設事業ニ關スル報告ヲ命シ書類、帳簿又ハ事務執行ノ狀況ヲ検査シ監督上必要ナル處分ヲ爲

スコトヲ得

第十二條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備ノ承繼人ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ遲滯ナク其ノ旨農林大臣ニ届出ツヘシ

- 一 名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ
- 二 規約、會則、定款又ハ寄附行爲ヲ變更シタルトキ
- 三 組合ニ在リテハ組合員ノ加入又ハ脱退アリタルトキ
- 四 代表者ヲ變更シタルトキ
- 五 設備滅失シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至リタルトキ

第十三條

前四條ノ規定ニ依ル義務ノ存續期間ハ獎勵金交付ノ日ヨリ五年ヲ超エサル範圍内ニ於テ農林大臣之ヲ定ム但シ農林大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ五年ヲ超エテ義務ノ存續期間ヲ定ムルコトヲ得

第十四條

本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ提出者ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ

第十五條

獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者若ハ其ノ設備ノ承繼人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ獎勵金交付ノ許可ヲ取消シ又ハ

ニ付テハ昭和十一年度ニ限り之ヲ昭和十一年六月十日迄トス

◎府縣制

(明治三十二年三月十六日法律第六十四號)

(抄)

第一章 總 則

第一條

府縣ハ從來ノ區域ニ依リ市町村及島嶼ヲ包括ス

第二條

府縣ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條

府縣ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣ノ境界ニ涉リテ市町村境界ノ變更アリタルトキハ府縣ノ境界モ亦自ラ變更ス所屬未定地ヲ市町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財産處分ヲ要スルトキハ内務大臣ハ關係アル府縣參事會及市町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條ノ二

府縣ハ府縣條例ヲ設クルコトヲ得
府縣ハ府縣ノ營造物ニ關シ府縣條例ヲ以テ規定スルモノノ外府縣規則ヲ設クルコトヲ得

既ニ交付シタル獎勵金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命スルコトヲ得

- 一 本則ノ規定又ハ本則ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキ
- 二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
- 三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ
- 四 支出額ガ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條中二月末日迄トアルハ大正十四年度ニ限り八月三十一日迄トス(昭和十一年農林省令第三號)

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

水産冷蔵獎勵規則ハ之ヲ廢止ス

水産冷蔵獎勵規則ニ依リ獎勵金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前水産冷蔵獎勵規則ニ依リ爲シタル申請ハ本則ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四條中二月末日迄トアルハ漁業用水ノ製造設備又ハ冷蔵庫、貯水庫ニ對スル獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ノ願書

府縣條例及府縣規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 府縣會

第二款 職務權限及處務規程

第四十一條

府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 府縣條例及府縣規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
- 二 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 三 決算報告ニ關スル事
- 四 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料府縣稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
- 五 不動産ノ處分並買受讓受ニ關スル事
- 六 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事
- 七 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
- 八 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 九 其ノ他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項

第四十二條

府縣會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十三條

府縣會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第四十四條 府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書

ヲ關係行政廳ニ呈出スルコトヲ得

第四十五條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申ス

ヘシ

府縣會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣會

招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セザルトキハ

當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ

得

第四十六條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘ

カラス

第四十七條 府縣會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉

スヘシ

議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第四十八條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代ハリ議長副

議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉

スヘシ

前項假議長ノ選舉ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理

ス年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條 府縣知事及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏

吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決

要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前條第二項但書ノ規定ニ依リ會期ヲ定メタル場合ニ於テ

ハ前項ノ告示ト同時ニ其ノ會期ヲ告示スベシ

府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第五十二條 府縣會ハ議員定員ノ半数以上出席スルニ非サ

レハ會議ヲ開クコトヲ得ズ

第五十三條 府縣會ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナ

ルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲議員トシテ議

決ニ加ハルノ權ヲ失ハス

第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟

姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スル

コトヲ得ズ但シ府縣會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席

シ發言スルコトヲ得

第五十五條 法令ニ依リ府縣會ニ於テ行フ選舉ニ付テハ第

十八條、第二十七條及第二十九條第一項ノ規定ヲ準用ス

其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣會之ヲ決定ス

前項ノ選舉ニ於テ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同ジキ

トキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

府縣會ハ議員中異議ナキトキハ第一項ノ選舉ニ付指名推

ニ加ハルコトヲ得ズ

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ

許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得

ズ

第五十條 府縣會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ三十日以内トス臨

時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限リ之ヲ開ク其ノ

會期ハ七日以内トス但シ場合ニ依リ府縣知事ハ臨時會ニ

付七日以内ニ於テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

府縣知事必要アリト認ムルトキハ通ジテ三日以内ニ於テ

府縣會ノ會期ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ府縣會ノ會期ヲ延長シタルトキハ府縣

知事ハ直ニ之ヲ告示スベシ

臨時會ニ付スヘキ事件ハ府縣知事豫メ之ヲ告示スベシ

臨時會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ第二項及前項

ノ規定ニ拘ラズ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第五十一條 府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス議員定員ノ三分

ノ一以上ヨリ會議ニ付スベキ事件ヲ示シテ臨時會招集ノ

請求アルトキハ府縣知事ハ之ヲ招集スベシ

招集ハ開會ノ日前十四日目マテニ告示スヘシ但シ急施ヲ

選ノ法ヲ用フルコトヲ得

指名推選ノ法ヲ用フル場合ニ於テハ被指名者ヲ以テ當選

者ト定ムベキヤ否ヲ會議ニ付シ議員全員ノ同意ヲ得タル

者ヲ以テ當選者トス

一ノ選舉ヲ以テ二人以上ヲ選舉スル場合ニ於テハ被指名

者ヲ區分シテ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ズ

第五十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限

ニ在ラス

一 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決

シタルトキ

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決ス

ヘシ

第五十七條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其

ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議員定員ノ半数以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ

會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カ

サルトキハ第四十八條ノ例ニ依ル

前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異

議アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依ルニ非サレハ其ノ日

ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス

第五十七條ノ二 府縣會議員ハ府縣會ノ議決スベキ事件ニ付府縣會ニ議案ヲ發スルコトヲ得但シ歲入出豫算ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル發案ハ議員三人以上ヨリ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五十八條 府縣會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ

必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第四十九條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第六十二條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十三條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ府縣會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六十四條 府縣會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

第三章 府縣參事會

第二款 職務權限及處務規程

第六十八條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 府縣會閉會中府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ輕易ナルモノヲ府縣會ニ代ハリテ議決スルコト

三 府縣會成立ゼザルトキ、召集ニ應ゼザルトキ、第五十四條ノ除斥ノ爲會議ヲ開クコト能ハザルトキ又ハ府縣知事ニ於テ府縣會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ノ權限ニ屬スル事件ヲ府縣會ニ代ハリテ議決スルコト

四 府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財產及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事

五 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 府縣ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項

前項第二號ノ規定ニ依リ府縣參事會ニ於テ議決スベキ事件ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第六十九條 府縣參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選

舉シ之ヲシテ府縣ニ係ル出納ヲ檢查セシムルコトヲ得

前項ノ檢查ニハ府縣知事又ハ其ノ指命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第七十條 第四十四條第四十五條第四十九條第五十一條第四項第五十五條第五十七條第一項第五十七條ノ二及第六十二條ノ規定ハ府縣參事會ニ之ヲ準用ス

第七十一條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ召集ス名譽職參事會員定員ノ半數以上ヨリ會議ニ付スヘキ事件ヲ示シテ府縣參事會ヲ召集ノ請求アルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ召集スヘシ

府縣參事會ノ會期ハ府縣知事之ヲ定ム

第七十二條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十三條 府縣參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

府縣參事會ノ議事ハ名譽職參事會員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

會議ノ顛末ハ之ヲ會議錄ニ記載シ議長及參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第七十四條 第五十四條ノ規定ハ議長、其ノ代理者及名譽

職參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第六十六條第三項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ關員ヲ補充スヘシ

議長及其ノ代理者共ニ除席セラレタルトキハ年長ノ會員ヲ以テ假議長ト爲スヘシ

第四章 府縣行政

第一款 府縣吏員ノ組織及任免

第七十五條

府縣ニ有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得
前項ノ府縣吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務

規程

第七十八條

府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス
府縣知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
- 二 府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事
- 三 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アル

トキハ其ノ事務ヲ監督スル事

四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

五 證書及公文書類ヲ保管スル事

六 法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ使用料手數料府縣稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事項

第七十九條 (削除)

第八十條 府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ市町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府縣ノ官吏員ニ委任シ又ハ府縣吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十一條

府縣知事ハ府縣吏員ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ府縣吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ竝給料ヲ支給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間北海道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ公職ニ就クコトヲ得ズ

第八十二條

府縣會又ハ府縣參事會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ超エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ其ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムベシ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ再議ニ付セズ又ハ再選舉ヲ行ハシメズ直ニ取消スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル府縣會又ハ府縣參事會ノ議決又ハ選舉仍其ノ權限ヲ超エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ取消スベシ

前二項ノ取消處分ニ不服アル府縣會又ハ府縣參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及第二項ノ取消處分ハ府縣會又ハ府縣參事會開會中ニ非ザルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ告示スベシ

第八十三條

府縣會又ハ府縣參事會ノ議決明ニ公益ヲ害スト認ムルトキハ府縣知事ハ其ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スベシ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ再議ニ付セズシテ直ニ內務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル府縣會又ハ府縣參事會ノ議決仍明ニ公益ヲ害スト認ムルトキハ府縣知事ハ內務大臣ノ

指揮ヲ請フベシ

府縣會又ハ府縣參事會ノ議決收支ニ關シ執行スルコト能ハザルモノアリト認ムルトキハ前二項ノ例ニ依ル左ニ掲グル費用ヲ削除シ又ハ減額シタル場合ニ於テ其ノ費用及之ニ伴フ收入ニ付亦同ジ

一 法令ニ依リ負擔スル費用、當該官廳ノ職權ニ依リ命ズル費用其ノ他ノ府縣ノ義務ニ屬スル費用

二 非常ノ災害ニ因ル應急又ハ復舊ノ施設ノ爲ニ要スル費用、傳染病豫防ノ爲ニ要スル費用其ノ他ノ緊急避クベカラザル費用

第八十四條 (削除)

第八十五條 府縣會成立セザルトキ、招集ニ應ゼザルトキ、

第五十四條ノ除斥ノ爲會議ヲ開クコト能ハザルトキ又ハ府縣知事ニ於テ府縣會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣會ノ權限ニ屬スル事件ヲ府縣參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得

府縣參事會成立セザルトキ、招集ニ應ゼザルトキ又ハ第七十四條第一項但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハザルトキハ府縣知事ハ內務大臣ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スベキ事件ヲ處分スルコトヲ得

府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スベキ事件ヲ議決セザルトキハ前項ノ例ニ依ル

府縣參事會ノ決定、裁決又ハ裁定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル府縣知事ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準ジ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前四項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ府縣知事ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ府縣會又ハ府縣參事會ニ報告スベシ

第八十六條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ府縣參事會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準ジ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十七條 府縣會及府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十八條 官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第八十九條 府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

定アルモノヲ除ク外勅令ノ定ムル所ニ依ル
府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ市町村ニ分賦スルコトヲ得

第九十條 府縣内ニ住所ヲ有スル者ハ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第九十一條 三箇月以上府縣内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第九十二條 府縣内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖府縣内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ府縣内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第九十三條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ハ合併ニ因リ消滅シタル法人ニ對シ其ノ合併前ノ事實ニ付賦課セラルヘキ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ
相續人又ハ相續財團ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ被相續人ニ對シ其ノ相續開始前ノ事實ニ付賦課セラルヘキ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第九十四條 納稅者ノ府縣外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土

第九十條 府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九十一條 委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他ノ府縣行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ所辨ス

第九十二條 府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第五章 府縣ノ財務

第一款 財產營造物及府縣稅

第九十八條 府縣ハ積立金數等ヲ設クルコトヲ得

第九十九條 府縣ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財產ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付キ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第一百條 使用料及手数料ニ關スル事項ニ付テハ府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第一百一條 府縣ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第一百二條 府縣ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令又ハ從來ノ慣例ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第一百三條 府縣稅及其ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律ニ規

地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得

住所滞在同時ニ府縣ノ内外ニ涉ル者ノ前項以外ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ各府縣ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

第一百四條 府縣ノ内外ニ涉リ營業所ヲ定メテ爲ス營業又ハ其ノ收入ニ對シ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係府縣ニ於テ營業稅附加稅所得稅附加稅又ハ鑛業稅附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其ノ歩合ヲ定ム若協議調ハサルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム
鑛區又ハ砂鑛區カ府縣ノ内外ニ涉ル場合ニ於テ鑛區稅又ハ砂鑛區稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ鑛區又ハ砂鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ本稅額ヲ分割シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

第一百五條 府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限内ニ其ノ議決ヲ爲ササルトキ若ハ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第一百六條 府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ

法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルモノヲ除ク外市町村稅ノ例ニ依ル

府縣ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ府縣稅ヲ課セサルコトヲ得

第百十一條 府縣ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ府縣ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ府縣ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百十二條 府縣ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ府縣内一部ノ市町村其ノ他公共團體若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ
夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百十三條 府縣稅ノ減免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル者ニ限り府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

使用料及手数料ノ徵收並夫役及現品ノ賦課ニ關シテモ亦第一項及第三項ノ例ニ依ル

本條ノ決定ニ關シテハ府縣知事、其ノ委任ヲ受ケタル官吏員又ハ市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十六條 府縣稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日没マテノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

府縣稅、使用料、手数料、夫役又ハ現品ニ代フル金錢、過料其ノ他ノ府縣ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

急迫ノ場合ニ於テ夫役又ハ現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ履行ヲ爲ササルトキハ更ニ之ヲ金額ニ換算シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

第二項ノ規定ニ依ル督促又ハ前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限マテニ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スヘシ

第二項及第三項ニ規定スル府縣ノ徵收金ノ先取特權ノ順

第百十四條 詐偽其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ府縣稅ヲ遁脫シタル者ニ付テハ府縣條例ヲ以テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ遁脫シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額(其ノ金額五圓未満ナルトキハ五圓)以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設ケルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除ク外使用料、手数料及府縣稅ノ賦課徵收ニ關シテハ府縣條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設ケルコトヲ得財產又ハ營造物ノ使用ニ關シ亦同シ

過料ヲ科シ及之ヲ徵收スルハ府縣知事之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十五條 府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三條第二項ノ場合ニ於テ市町村ハ府縣費ノ分賦ニ關シ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以内

位ハ國ノ徵收金ニ次クモノトス

府縣ノ收入金及支拂金ニ關スル時効ニ付テハ國ノ收入金及支拂金ノ例ニ依ル

府縣知事ノ委任ヲ受ケタル官吏員カ第四項ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ規定ニ依ル處分ニ係ル差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第百十七條 府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必

要アル場合ニ限り府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得
府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ
府縣ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二款 歳入出豫算及決算

第百十八條 府縣知事ハ每會計年度歳入出豫算ヲ調製シ年

度開始前府縣會ノ議決ヲ經ヘシ

府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ財産表

ヲ提出スヘシ

第一百九條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追

加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第二十條 府縣費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シ

テ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘ

キモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額

ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第二十一條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル

爲豫備費ヲ設クヘシ但シ府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツ

ルコトヲ得ス

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得

第二十二條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ内務大臣ニ

報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第二十三條 府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設ク

ルコトヲ得

第二十四條 決算ハ翌翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ府縣會ニ

報告スヘシ

第二十六條ノ五 前三條ノ場合ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ

經ルコトヲ要ス

第二十六條ノ六 公益上必要アル場合ニ於テハ内務大臣

ハ關係アル府縣會ノ意見ヲ徵シ府縣組合ヲ設ケ若ハ之ヲ

解キ組合規約ヲ定メ若ハ之ヲ變更シ又ハ財産處分ノ方法

ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條ノ七 府縣組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ

規定アル場合ヲ除ク外府縣ニ關スル規定ヲ準用ス但シ府

縣組合ニハ參事會ヲ置カス其ノ權限ニ屬スヘキ事項ハ組

合事務ヲ管理スル府縣知事之ヲ行フ

第六章 府縣行政ノ監督

第二十七條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第二十八條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分ヲ受ケ又

ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以

内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ

此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分ヲ受ケ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交

付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ第八

十二條第四項ノ規定ニ依リ告示ヲ爲シタル場合ニ於テハ

告示ノ日ヲ以テ處分ヲ受ケタル日ト看做ス

決算ハ之ヲ内務大臣ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第二十五條 豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關ス

ル必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第二十六條 府縣出納吏及府縣吏員ノ身元保證及賠償責

任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章ノ二 府縣組合

第二十六條ノ二 府縣ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル

爲其ノ協議ニ依リ規約ヲ定メ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣

組合ヲ設ケルコトヲ得

府縣組合ハ法人トス

第二十六條ノ三 府縣組合ノ規約ニハ其ノ名稱組合ヲ組

織スル府縣組合ノ共同事務組合會ノ組織事務ノ管理費用

ノ支辨方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

府縣組合ノ事務ハ内務大臣ノ指定シタル府縣知事之ヲ管

理ス

第二十六條ノ四 府縣組合ノ組合府縣數ヲ増減シ共同事

務ノ變更ヲ爲シ其ノ他規約ヲ變更セムトスルトキ又ハ府

縣組合ヲ解カムトスルトキハ關係府縣ノ協議ニ依リ内務

大臣ノ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財産處分ヲ要スル

トキハ關係府縣ノ協議ニ依リ之ヲ定ム

決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項

ノ期間ハ告示ノ日ヨリ起算ス

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ

依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト

認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申

立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳

ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト求ムル

トキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第二十八ノ二 異議ノ決定ハ本法中別ニ期間ヲ定メタル

モノヲ除ク外其ノ決定ニ付セラレタル日ヨリ三箇月以内

ニ之ヲ爲スヘシ

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三箇月以

内ニ之ヲ裁決スヘシ

第二十九條 内務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサ

ルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スヘシ内務大臣ハ之

カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ並

實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

内務大臣ハ府縣行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第三百三十條 (削除)

第三百三十一條 内務大臣ハ府縣會ノ解散ヲ命スルコトヲ得
府縣會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ
解散後始メテ府縣會ヲ召集スルトキハ府縣知事ハ第五十
條第二項ノ規定ニ拘ラス別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得
第五十條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ府縣會ニ之ヲ準
用ス

第三百三十二條

府縣吏員ノ服務規律ハ内務大臣之ヲ定ム

第三百三十三條

左ニ掲クル事件ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 使用料ヲ新設シ又ハ變更スルコト
- 二 繼續費ヲ定メ又ハ變更スルコト

第三百三十四條

府縣債ヲ起シ又ハ起債ノ方法利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更セムトスルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第百十七條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第三百三十五條

府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認

特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市郡部ノ經濟ヲ分別シ市郡部會郡部會市郡部參事會郡部參事會ヲ置キ其ノ他必要ナル事項ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四百一十一條

明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收法及地方稅ニ關スル從前ノ規定ハ此ノ法律ニ依リ變更シタルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルマテ其ノ效力ヲ有ス

第四百一十二條

本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ之ヲ適用ス

第四百一十三條

第四條第二項但書ノ市ニ於テハ第二章第一款中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス

第四百一十四條

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス

第四百一十五條

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域内ニ於テ市ノ設置アリタルトキ又ハ其ノ區域ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタルトキハ其ノ區域モ亦自ラ變更

ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第三百三十六條

府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ許可ヲ經スシテ處分スルコトヲ得

第七章 附 則

第三百三十七條

此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第三百三十八條

島嶼ニ關スル府縣ノ行政ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ヲ設クルコトヲ得

第三百三十九條

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ、町村吏員ニ關スル規定ハ町村吏員ニ準スヘキモノニ、町村役場ニ關スル規定ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第三百三十九條ノ二

第四十九條及第七十六條ノ規定ニ依リ府縣知事ノ職權ハ東京府ニ在リテハ警視總監亦之ヲ行フ

第四百十條

從前郡市經濟ヲ異ニシタル府縣ノ財產處分ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

シタルモノト看做ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ境界ニ涉リテ町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付其ノ町村ノ屬スヘキ區域ハ内務大臣之ヲ定ム

第四百十六條

明治十三年第十五號布告府縣會規則明治十四年第八號布告區郡部會規則明治二十二年法律第六號府縣會議員選舉規則其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第四百十七條

此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

(以下略ス)

◎府縣制施行令

(大正十五年六月二十四日 勅令第二百號)

(抄)

第四章 府縣費ノ分賦

第二十六條

府縣ハ臨時少額ノ費用ノ爲特ニ賦課徵收ヲ爲スヲ要スル場合ニ於テハ當該年度ノ府縣稅既定豫算額ノ十分ノ一ノ範圍内ニ於テ其ノ費用ヲ府縣内市町村ニ分賦スルコトヲ得

第二十七條

前條分賦ノ割合ハ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル市町村ノ直接國稅及直接府縣稅ノ賦課額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣知

事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

第二十八條 市部會及郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ市部ニ屬スル部分ニ賦課スベキ額ヲ市ニ分賦スルコトヲ得

第二十九條 第二十七條ニ規定スル直接國稅及直接府縣稅ノ種類左ノ如シ

國稅

地租 所得稅(所得稅法第三條第二種ニ係ル所得稅ヲ除ク) 營業稅 營業收益稅 鑛業稅 砂鑛區稅 取引所營業稅

府縣稅

特別地稅 戶數割 家屋稅 營業稅 雜種稅(遊興稅及觀覽稅ヲ除ク)

第五章 府縣稅ノ賦課徵收

第三十條 府縣ノ内外ニ涉リ營業所ヲ定メテ爲ス營業ニ付營業收益稅ヲ分別シテ納メザル者ニ對スル營業收益稅附加稅ノ賦課ニ關シテハ府縣制第八條第一項ノ例ニ依ル

第三十一條 市町村ハ其ノ市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ

府縣ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得タル場合ニ限り前二項ノ規定ニ依ラズ其ノ府縣ニ於テ發行スル證紙ヲ以テ府縣稅ヲ納入セシムルコトヲ得

第三十四條 徵稅傳令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ市町村ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

徵稅令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス但シ府縣知事ハ市町村吏員ヲシテ納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發セシムル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ徵收シタル府縣稅ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ稅金納入ノ義務ヲ了ス

稅金ノ拂込又ハ其ノ拂込金ノ納入ニ付郵便振替貯金ノ方法ニ依リタル場合ニ於テハ納稅人又ハ市町村ハ稅金ヲ郵便官署ニ拂込ミ又ハ納入スルニ依リテ其ノ義務ヲ了ス

第三十五條 第三十三條第二項ノ規定ニ依リ市町村吏員ヲシテ徵稅令書ヲ發セシメタル場合ニ於テハ府縣條例ノ規定スル所ニ依リ其ノ市町村ニ對シ取扱費ヲ交付スルコトヲ得

第三十六條 徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ受ケタル納稅人期限内ニ稅金ヲ完納セザルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ

府縣ハ前項徵收ノ費用トシテ地租附加稅及特別地稅ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ百分ノ七、其ノ他ノ府縣稅ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スベシ

第三十二條 市町村ハ避クベカラザル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ稅金納入義務ノ免除ヲ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

府縣知事前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スベシ、府縣參事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ之ヲ決定スベシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

府縣制第三十八條及第二百二十八條ノ規定ハ本條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 府縣稅ヲ徵收セントスルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スベシ

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ直ニ納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得

受ケタル官吏吏員ハ遅クトモ納期限後二十日迄ニ督促狀ヲ發スベシ

督促狀ニハ府縣知事ノ定メタル期間内ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スベシ

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ハ第一項ニ規定スル期限ト異リタル期限ヲ定ムルコトヲ得

第三十七條 督促狀ヲ發シタルトキハ手数料ヲ徵收ス

手数料ノ額ハ府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

市町村吏員ヲシテ督促狀ヲ發セシメタル場合ニ於ケル手数料ハ其ノ市町村ノ收入トス

府縣知事ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ガ第一項ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣制第三十八條、第二百二十八條及第二百二十八條ノ二ノ規定ハ本條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第三十九條

府縣ハ内務大臣及大藏大臣ノ指定シタル府縣稅ニ付テハ第三十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得
前項ノ府縣稅ノ徵收ニ付テハ第三十三條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第四十條

前條第一項ノ規定ニ依リ府縣稅ヲ徵收セシムル場合ニ於テハ納稅人ハ其ノ税金ヲ徵收義務者ニ拂込ムニ依リテ納稅ノ義務ヲ了ス

第四十一條

第三十九條第一項ノ規定ニ依ル徵收義務者ハ徵收スベキ府縣稅ヲ府縣知事ノ指定シタル期日迄ニ府縣金庫又ハ郵便官署ニ拂込ムベシ其ノ期日迄ニ拂込マザルトキハ府縣知事ハ相當ノ期限ヲ指定シ督促狀ヲ發スベシ
第三十一條第二項、第三十二條及第三十四條第三項、第四項並ニ市制町村制施行令第四十五條乃至第四十八條ノ規定ハ第三十九條第一項ノ規定ニ依リ府縣稅ヲ徵收セシムル場合ノ拂込金ニ之ヲ準用ス

第四十三條

府縣稅ノ徵收期ハ府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第四十四條

府縣稅ノ徵收ニ關スル細則ハ府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

發行ノ方法ニ依ラザル府縣債ヲ債券發行ノ方法ニ依ル府縣債ニ變更スルコト

第六條

府縣債ノ償還年限ヲ短縮シ又ハ其ノ償還年限ヲ延長セズ且利息ノ定率ヲ高メズシテ借替ヲ爲シ若ハ繰上償還ヲ爲スコト但シ外資ニ依リタル府縣債ノ借替又ハ外資ヲ以テスル借替ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七條

府縣債ノ償還年限ヲ延長セズシテ不均等償還ヲ元利均等償還ニ變更シ又ハ年度内ノ償還期若ハ償還期數ヲ變更スルコト

第七章

市部及郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ノ行政ニ關スル特例

第四十七條

從來市部及郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於テハ内務大臣ハ其ノ區域ニ依リ市部及郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會及市部參事會並ニ郡部會及郡部參事會ヲ設ケシムルコトヲ得

第四十八條

市部會及郡部會ハ各市部郡部ニ於テ選出シタル府縣會議員ヲ以テ之ヲ組織ス
市部又ハ郡部ニ於テ選出スベキ府縣會議員ノ數十二人ニ滿テザルトキハ府縣制第五條ノ定員ニ拘ラズ之ヲ十二人トス

第四十五條

町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル府縣稅ノ徵收ニ關シテハ本章ノ規定ヲ準用ス、其ノ準用シ難キ事項ハ府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第六章

府縣ノ監督

第四十六條

左ニ掲グル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クベシ
一 水道、電氣、瓦斯、鐵道、軌道及自動車ノ使用料ヲ新設シ又ハ變更スルコト
二 支出總額五十萬圓ヲ超ニル繼續費ヲ定メ又ハ變更(減額ヲ除ク)スルコト

第四十六條ノ二

左ニ掲グル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ
一 元本總額五十萬圓ニ達スル迄ノ府縣債ニ關スルコト
二 借入ノ翌年度ニ於テ償還スル府縣債ニ關スルコト但シ借入金ヲ以テ償還スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
三 小學校恩給基金又ハ罹災救助基金ヨリノ借入ニ係ル府縣債ニ關スルコト
四 府縣債ノ借入額ヲ減少シ又ハ利息ノ定率ヲ低減スルコト

第五條

府縣債ノ借入先ヲ變更シ又ハ債券發行ノ方法ニ依ル府縣債ヲ其ノ他ノ方法ニ依ル府縣債ニ變更シ若ハ債券

第四十九條

府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府縣會ノ議決ヲ經ベキモノト市部會又ハ郡部會ノ議決ヲ經ベキモノトノ分別ハ府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第五十條

市部會及郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ名譽職參事會員ノ定員ヲ十二人トス
市部會及郡部會ヲ設ケタル府縣ノ名譽職參事會員ハ各會ニ於テ其ノ定員ノ半數ヲ選舉ス
市部參事會及郡部參事會ハ議長及各部會ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十一條

府縣費ニ關スル市部及郡部ノ分擔及收入ノ割合ハ府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第五十二條

第四十九條及前條ノ事件ニ付テハ議員定員ノ五分ノ四以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ

第五十三條

市部及郡部ノ經濟ヲ分別スル府縣ノ行政ニ關シテハ本章ニ規定スルモノノ外府縣制ノ規定ヲ準用ス

第五十四條

市部會又ハ郡部會解散ヲ命ゼラレタルトキハ其ノ議員ハ府縣會議員ノ職ヲ失フ

第五十四條ノ二

市部會及郡部會ヲ設ケタル府縣ガ之ヲ廢シタル場合ニ於テハ其ノ際現ニ名譽職參事會員及其ノ補充員タル者ハ最近ノ改選期ニ於テ其ノ職ヲ失フ但シ各十

人ノ定員ヲ超ユル員數ニ付テハ府縣知事抽籤シテ解任スベキ者ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ名譽職參事會員ノ補充員ノ補闕順位ハ府縣知事抽籤シテ之ヲ定ム

第八章 島嶼ニ於ケル府縣ノ行政ニ關スル特例
第五十五條 島嶼ノ經濟ト所屬本地ノ經濟トハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ分別スルコトヲ得

第五十六條 東京府下伊豆七島及小笠原島ニ於ケル府稅ノ賦課及府會議員ノ選舉ニ關シテハ當分從前ノ例ニ依ル

第九章 雜 則

第五十七條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員ト看做ス

附 則

本令中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ、其ノ他ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎市制(明治四十四年四月七日法律第六十八號) (抄)

第一章 總 則

第一款 市及其ノ區域

定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關係市町村ニ交付スヘシ

第一項ノ裁定及第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條 勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財產及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ關係アル市會ノ意見ヲモ徵スヘシ

第七條 市ハ其ノ名稱ヲ變更セムトスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二款 市住民及其ノ權利義務

第八條 市内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス

市住民ハ本法ニ從ヒ市ノ財產及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第三款 市條例及市規則

第十二條 市ハ市住民ノ權利義務又ハ市ノ事務ニ關シ市條例ヲ設クルコトヲ得

市ハ市ノ營造物ニ關シ市條例ヲ以テ規定スルモノノ外市

第一條 市ハ從來ノ區域ニ依ル

第二條 市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 市ノ廢置分合ヲ爲サムトスルトキハ關係アル市町村會及府縣參事會ノ意見ヲ徵シテ内務大臣之ヲ定ム
前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第四條 市ノ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ市ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ
前項ノ場合ニ於テ財產アルトキ其ノ處分ニ關シテハ前條第二項ノ例ニ依ル

第五條 市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
市ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得第一項ノ裁

規則ヲ設クルコトヲ得

市條例及市規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 市 會

第二款 職務權限

第四十一條 市會ハ市ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十二條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 市條例及市規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
- 二 市費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第九十三條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 三 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 四 決算報告ヲ認定スル事
- 五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加入金、市稅又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
- 六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事
- 七 基本財產及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事
- 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
- 九 財產及營造物ノ營理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十 市吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一 市ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第四十三條 市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十四條 市會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ行フヘシ

第四十五條 市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

市會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ市長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十六條 市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ關係行政廳ニ提出スルコトヲ得

第四十七條 市會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

市會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ市會成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セス又ハ市會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

シ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得會議ニ付スル日前三日迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

市會ハ市長之ヲ開閉ス

第五十二條 市會ハ議員定數ノ半数以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ第五十四條ノ除斥ノ爲半数ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキ若ハ半數ニ滿ツルモ其ノ後半數ニ滿タザルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 市會ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲議員トシテ議決ニ加ヘルノ權ヲ失ハス

第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ市會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第四十八條 市會ハ議員中ヨリ議長及副議長一人ヲ選舉スヘシ

議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第四十九條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代ハリ議長及副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

前項假議長ノ選舉ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年長同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 市長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ニ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十一條 市會ハ市長之ヲ招集ス議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ニ付スベキ事件ヲ示ジテ市會招集ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

市長ハ會期ヲ定メテ市會ヲ招集スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ市長ハ更ニ期限ヲ定メ市會ノ會期ヲ延長スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日迄ニ之ヲ告知スヘシ

第五十五條 法律勅令ニ依リ市會ニ於テ行フ選舉ニ付テハ

第二十五條、第二十八條及第三十條第一項ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ効力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス前項ノ選舉ニ於テ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同ジキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

市會ハ議員中異議ナキトキハ第一項ノ選舉ニ付指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

指名推選ノ法ヲ用フル場合ニ於テハ被指名者ヲ以テ當選者ト定ムベキヤ否ヲ會議ニ付シ議員全員ノ同意ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス

一ノ選舉ヲ以テ二人以上ヲ選舉スル場合ニ於テハ被指名者ヲ區分シテ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ズ

第五十六條 市會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 市長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議員定數ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カサルトキハ第四十九條ノ例ニ依ル

前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異議アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依ルニ非サレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス

第五十七條ノ二 市會議員ハ市會ノ議決スベキ事件ニ付市會ニ議案ヲ發スルコトヲ得但シ歳入出豫算ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル發案ハ議員三人以上ヨリ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五十八條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中

第二款 職務權限

第六十七條 市參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 市會閉會中市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ輕易ナルモノヲ市會ニ代ハリテ議決スルコト

三 市會成立セザルトキ、第五十二條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハザルトキ又ハ市長ニ於テ市會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市會ニ代ハリテ議決スルコト

四 其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

前項第二號ノ規定ニ依リ市參事會ニ於テ議決スベキ事件ハ市會ノ議決ヲ經テ市長之ヲ定ム

第六十八條 市參事會ハ市長之ヲ召集ス名譽職參事會員定數ノ半數以上ヨリ會議ニ付スベキ事件ヲ示シテ市參事會召集ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ召集スヘシ

第六十九條 市參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サズ

第七十條 市參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第二項ノ除外ノ爲名譽職參事會員其ノ半數ニ滿

止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 市會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十二條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ市會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ

第六十三條 市會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 市參事會

タサルトキ、同一ノ事件ニ付召集再回ニ至ルモ仍名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ又ハ召集ニ應スルモ出席名譽職參事會員定數ヲ關キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキ若ハ半數ニ滿ツルモ其ノ後半數ニ滿タザルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

議長及參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ當ルトキハ年長ノ名譽職參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第七十一條 第四十六條第四十七條第五十條第五十一條第二項及第五項第五十三條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第六十一條並第六十二條第一項及第二項ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

第四章 市吏員

第二款 職務權限

第七十七條 市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス

市長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ

發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置

キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四 證書及公文書類ヲ保管スル事

五 法令又ハ市會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入金、

市税又ハ夫役現品ヲ賦課徴收スル事

六 其ノ他法令ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項

第八十八條 (削除)

第八十九條 市長ハ市吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行

フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

第九十條 市會又ハ市參事會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ超

エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ市長ハ其

ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之

ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムベシ但シ特別ノ事由

アリト認ムルトキハ市長ハ議決ニ付テハ之ヲ再議ニ付セ

ズシテ直ニ府縣參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル市會又ハ市參事會ノ議決仍其

ノ權限ヲ超エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキ

ハ市長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フベシ

費用、傳染病豫防ノ爲ニ要スル費用其ノ他ノ緊急避ク

ベカラサル費用

前三項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル市長、市

會又ハ市參事會ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第九十一條 市會成立セサルトキ、第五十二條但書ノ場合

ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ市長ニ於テ市

會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ市會ノ權限

ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市參事會成立セサルトキ又ハ第七十條第一項但書ノ場合

ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ市長ハ府縣知事

ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スベキ事件ヲ處分スルコトヲ得

市會又ハ市參事會ニ於テ其ノ議決スベキ事件ヲ議決セサ

ルトキハ前項ノ例ニ依ル

市會又ハ市參事會ノ決定スベキ事件ニ關シテハ前三項ノ

例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル市參事會ノ決定又ハ市長ノ處

分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起ス

ルコトヲ得

前四項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ

市會又ハ市參事會ニ報告スベシ

第九十二條 市參事會ニ於テ議決又ハ決定スベキ事件ニ關

監督官廳ハ前二項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得

第一項若ハ第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル市

長、市會又ハ市參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項又ハ第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ

提起スルコトヲ得

第九十條ノ二 市會又ハ市參事會ノ議決明ニ公益ヲ害スト

認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮

ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スベシ但シ特別ノ事由

アリト認ムルトキハ市長ハ之ヲ再議ニ付セズシテ直ニ府

縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル市會又ハ市參事會ノ議決仍明

ニ公益ヲ害スト認ムルトキハ市長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請

フベシ

市會又ハ市參事會ノ議決收支ニ關シ執行スルコト能ハザ

ルモノアリト認ムルトキハ前二項ノ例ニ依ル左ニ掲グル

費用ヲ削除シ又ハ減額シタル場合ニ於テ其ノ費用及之ニ

伴フ收入ニ付亦同ジ

一 法令ニ依リ負擔スル費用、當該官廳ノ職權ニ依リ命

ズル費用其ノ他ノ市ノ義務ニ屬スル費用

二 非常ノ災害ニ因ル應急又ハ復舊ノ施設ノ爲ニ要スル

シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會成立セサルトキ

又ハ市長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市

長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市參事會ニ報告ス

ベシ

前項ノ規定ニ依リ市長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條

ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條ノ二 市會及市參事會ノ權限ニ屬スル事項ノ一

部ハ其ノ議決ニ依リ市長ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第九十三條 市長其ノ他市吏員ハ從來法令又ハ將來法律勅

令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ

法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十四條 市長ハ其ノ事務ノ一部ヲ助役ニ分掌セシムル

コトヲ得但シ市ノ事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコ

トヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ其ノ事務ノ一部ヲ區

長ニ分掌セシムルコトヲ得

第九十五條 市參與ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ市ノ經營ニ屬

スル特別ノ事業ヲ擔任ス

第九十六條

助役ハ市長ノ事務ヲ補助ス
助役ハ市長ノ故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第九十七條

收入役ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務及第九十三條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス副收入役數人アルトキハ豫メ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス
市長ハ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ收入役ノ事務ノ一部ヲ區收入役ニ分掌セシムルコトヲ得
副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市會ハ市長ノ推薦ニ依リ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ

第九十八條

第六條ノ市ノ區長ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル市ノ事務及區ノ事務ヲ掌ル

定スルモノノ外市收入役及市副收入役ニ關スル規定ヲ準用ス

第一百條

名譽職區長ハ市長ノ命ヲ承ケ市長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助ス
名譽職區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第一百一條

委員ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ財産又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル市ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第一百二條

第八十五條ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス
第八十六條ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス
區長ハ前項ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第六章 市ノ財務

第一百九條

第一款 財産營造物及市稅
收益ノ爲ニスル市ノ財産ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ
市ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ

區長其ノ他區所屬ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ從來法令若ハ將來法律勅令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

區長故障アルトキハ區收入役及區副收入役ニ非サル區所屬ノ吏員中上席者ヨリ順次之ヲ代理ス
第一項及第二項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十九條

第六條ノ市ノ區收入役ハ市收入役ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ市及區ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌リ市收入役ノ命ヲ承ケ又ハ從來法令若ハ將來法律勅令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル

區長ハ市長ノ許可ヲ得テ區收入役ノ事務ノ一部ヲ區副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ區ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ區會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
市長ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
區副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市長ハ區收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ

區收入役及區副收入役ノ職務權限ニ關シテハ前四項ニ規

積立ツルコトヲ得

第一百十條

舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ市會ノ議決ヲ經ヘシ前項ノ財産又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第一百一條

市ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ市規則ヲ設クルコトヲ得

第一百二條

市ハ第一百十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第一百三條

市ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得
市ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第一百四條

財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ、入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百十五條

市ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又

ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第一百十六條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

市ハ其ノ財産ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第一百十七條

市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ
一 直接國稅及府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

直接國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第一百十八條 三月以上市内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ適リ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

スル收入ニ非サルモノニ對シ市稅ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百二十一條 所得稅法第十八條ニ掲クル所得ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

前四項ノ外市稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第一百二十一條ノ二 市ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市稅ヲ課セサルコトヲ得

第一百十九條

市内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖市内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、市内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百十九條ノ二

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ハ合併ニ因リ消滅シタル法人ニ對シ其ノ合併前ノ事實ニ付賦課セラルベキ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ
相續人又ハ相續財團ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ被相續人ニ對シ其ノ相續開始前ノ事實ニ付賦課セラルベキ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百二十條

納稅者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ市外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

市ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シ附加稅ヲ賦課スル場合及住所滞在市内ノ内外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生

第一百二十二條

數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得
市ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ市稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ
前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ
數人又ハ市ノ一部ヲ利スル財產ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第一百二十三條

市稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第一百二十四條

數人又ハ市ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ市ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第一百二十五條

夫役又ハ現品ハ直接市稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第二百二十六條

非常災害ノ爲必要アルトキハ市ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ市長、警察官吏又ハ監督官廳ハ市内ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

シ

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三百十條

市稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ市長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ市長ハ七日以内ニ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手數料及加入金ノ徵收並夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十七條

市稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證據ヲ携帶スヘシ

第二百二十八條

市長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ市參事會ノ議決ヲ經ヘシ

第二百二十九條

市ハ特別ノ事情アル者ニ限り市稅ヲ減免スルコトヲ得
ハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ
詐偽其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ市稅ヲ連脱シタル者ニ付テハ市條例ヲ以テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ連脱シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額（其ノ金額五圓未満ナルトキハ五圓）以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料及市稅ノ賦課徵收ニ關シテハ市條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得財產又ハ營造物ノ使用ニ關シ亦同

前三項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三百十一條

市稅、使用料、手數料、加入金、過料、過急金其ノ他ノ市ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金額ヲ納メサルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得
滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起

スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三百二十二條 市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ、市ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲メ又ハ天災事變等ノ爲メ必要アル場合ニ限り市債ヲ起スコトヲ得

市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ
市長ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲メ市參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ
第二款 歳入出豫算及決算

第三百二十三條 市長ハ毎會計年度歳入出豫算ヲ調製シ遅クトモ年度開始ノ一月前ニ市會ノ議決ヲ經ヘシ

市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
豫算ヲ市會ニ提出スルトキハ市長ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提出スヘシ

第三百三十四條 市長ハ市會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第三百三十五條 市費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シ

五選シタル參事會員二人以上ノ立會ヲ要ス

第四百十二條 市ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス
決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市長ニ提出スヘシ市長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ市會ノ認定ニ付スヘシ
決算ハ其ノ認定ニ關スル市會ノ議決ト共ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第四百十三條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第七章 市ノ一部ノ事務

第四百十四條 市ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中市ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財産又ハ營造物ノ屬スル市ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ市ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ
第四百十五條 前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アリト認ムルトキハ府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ區會ヲ設ケテ市會ノ議決スヘキ

テ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ市會ノ議決ヲ經テ其ノ年

期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得
第三百三十六條 市ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲メ豫備費ヲ設ケヘシ

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得
豫備費ハ市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第三百三十七條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第三百三十八條 市ハ特別會計ヲ設ケルコトヲ得

第三百三十九條 市會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其ノ曆本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ市長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

第四百十條 市ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第四百十一條 市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ検査シ且毎會計年度少クトモ二回臨時検査ヲ爲スヘシ

検査ハ市長之ヲ爲シ臨時検査ニハ名譽職參事會員ニ於テ

事項ヲ議決セシムルコトヲ得

第四百十六條 區會議員ハ市ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選舉權及被選舉權ニ關スル事項ハ前條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

區會議員ノ選舉ニ付テハ町村制中町村會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選舉若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選舉權ノ有無ノ決定ハ市會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百十七條 第四百十四條ノ場合ニ於テ市ノ一部府縣知事ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四百十八條 第四百十四條ノ市ノ一部ノ事務ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八章 市町村組合

第四百十九條 市町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲メ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ設ケルコトヲ得

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ前項ノ市町村組合ヲ設ケルコトヲ得
市町村組合ハ法人トス

第二百五十條 市町村組合ニシテ其ノ組合市町村ノ數ヲ増減

シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ組合市町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 市町村組合ヲ設クルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ組合規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

第五十二條 組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル市町村、組合ノ共同事務、組合役場ノ位置、組合會ノ組織及組合會議員ノ選舉、組合吏員ノ組織及選任並組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クヘシ

第五十三條 市町村組合ヲ解カムトスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市町村組合ヲ解

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十六條 市町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ニ關スル規定ヲ準用ス

第九章 市ノ監督

第五十七條 市ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第五十八條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ノ監督ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル市ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五十九條 本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六十條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法行政訴訟ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ

クコトヲ得

第五十四條 第二百五十條第一項及前條第一項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係市町村ノ協議ニ依リ之ヲ定ム

第二百五十條第二項及前條第二項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第五十五條 第四百九條第一項第五十條第一項第五百一十一條第一項第五百十三條第一項及前條第二項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村又ハ市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

組合費ノ分賦ニ關シ違法又ハ錯誤アリト認ムル市町村ハ其ノ告知アリタル日ヨリ三月以内ニ組合ノ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ組合ノ管理者ハ七日以内ニ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ組合ノ管理者ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第六十條ノ二 異議ノ決定ハ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノヲ除クノ外其ノ決定ニ付セラレタル日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スヘシ

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ裁決スヘシ

第六十一條 監督官廳ハ市ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徵シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

監督官廳ハ市ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第六百六十二條 內務大臣ハ市會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

市會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第六百六十三條 市ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ

職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサトキハ府縣知事ハ

理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

市長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキ

ハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員之ヲ執行ス

ルコトヲ得但シ其ノ費用ハ市ノ負擔トス

前二項ノ處分ニ不服アル市又ハ市長其ノ他ノ吏員ハ行政

裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六百六十四條 市長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障ア

ルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣

シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタ

ル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ市費ヲ以テ辨償セシムヘシ

臨時代理者ハ有給ノ市吏員トシ其ノ給料額旅費額等ハ監

督官廳之ヲ定ム

第六百六十五條 (削除)

第六百六十六條 (削除)

第六百六十七條 左ニ掲グル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クベ

シ但シ第一號、第四號、第六號及第十一號ニ揚グル事件

ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノハ其ノ定ムル所ニ依リ主
務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一 市條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

二 基本財産及特別基本財産ノ處分ニ關スルコト

三 第一百十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更シ又ハ廢止スルコト

四 使用料ヲ新設シ又ハ變更スルコト

五 均一ノ稅率ニ依ラズシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ

賦課スルコト

六 特別稅ヲ新設シ又ハ變更スルコト

七 第二百二十二條第一項、第二項及第四項ノ規定ニ依リ

數人又ハ市ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムルコト

八 第二百二十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ

數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコト

九 第二百二十五條ノ準率ニ依ラズシテ夫役現品ヲ賦課ス

ルコト但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限

ニ在ラス

十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スルコト

十一 市價ヲ起シ或ニ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ

方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルコト但シ第三百三十二條第

三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第六百六十八條

監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督

官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更

正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第六百六十九條

監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令

ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任

シ又ハ輕易ナル事件ニ限り許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第七十條

府縣知事ハ市長、市參與、助役、收入役、副

收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ市吏員ニ對シ

懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下

ノ過怠金及解職トス但シ市長、市參與、助役、收入役、

副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ニ對

スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

懲戒審査會ハ內務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣

名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員

トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代

理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補闕及任期

並懲戒審査會ノ招集及會議ニ付テハ府縣制中名譽職參事

會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之

ヲ設クルノ限ニ在ラス

解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ內務

大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ市長、市參與、助役、收入役、副收入役及第

六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ノ解職ヲ行ハムト

スル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ

停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間北海道府縣、市町

村其ノ他之ニ準ズベキモノノ公職ニ就クコトヲ得ズ

第七十一條

市吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證及

事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以

下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十章 雜 則

第七十二條 府縣知事又ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事

件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ內務大臣ハ關係府

縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事又ハ

府縣參事會ヲ指定スヘシ

第七十三條

本法ニ規定スルモノノ外第六條ノ市ノ有給

吏員ノ組織任用分限及其ノ區ニ關シ必要ナル事項ハ勅令

ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條 第十三條ノ人口ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依

ル

第七十五條 本法ニ於ケル直接税及間接税ノ種類ハ内務

大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第七十六條 市又ハ市町村組合ノ廢置分合又ハ境界變更

アリタル場合ニ於テ市ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ

規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十七條 本法中府縣、府縣制、府縣知事、府縣參事

會、府縣名譽職參事會、府縣高等官、所屬府縣ノ官吏

若ハ有給吏員、府縣税又ハ直接府縣税ニ關スル規定ハ北

海道ニ付テハ各地方費、道會法、道廳長官、道參事會、

道名譽職參事會、道廳高等官、道廳ノ官吏若ハ地方費

ノ有給吏員、北海道地方税又ハ直接北海道地方税ニ、町

村又ハ町村會ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各町村又ハ

町村會ニ該當スルモノニ關シ之ヲ適用ス

第七十七條ノ二 本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ

之ヲ適用ス

附 則

第七十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明

治四十四年九月勅令第二百三十八號ヲ以テ同年十月一日

ヨリ施行)

第八十一條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之

ヲ定ム

◎町村制 (明治四十四年四月七日 法律第六十九號)

第一章 總 則

第一款 町村及其ノ區域

第一條 町村ハ從來ノ區域ニ依ル

第二條 町村ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於

テ其ノ公共事務竝從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅

令ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ爲サムトスルトキ

ハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會

ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ

町村ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ハ關係アル市

町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之

ヲ定ム

第一項ノ場合ニ於テ市ノ廢置分合ヲ伴フトキハ市制第三

條ノ規定ニ依ル

第四條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス

其ノ裁定ニ不服アル町村ハ行政裁判所ニ出訴スルトコトヲ得

町村ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキ

ハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不

服アル町村ハ行政裁判所ニ出訴スルトコトヲ得

第一項ノ裁定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理

由ヲ附シ之ヲ關係町村ニ交付スヘシ

第一項ノ裁定及第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴

訟ヲ提起スルトコトヲ得

第五條 町村ノ名稱ヲ變更セムトスルトキ、村ヲ町ト爲シ

若ハ町ヲ村ト爲サムトスルトキ又ハ町村役場ノ位置ヲ定

メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ町村ハ府縣知事ノ許可

ヲ受クヘシ

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第六條 町村内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ町村住民トス

町村住民ハ本法ニ從ヒ町村ノ財產及營造物ヲ共用スル權

利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第三款 町村條例及町村規則

第十條 町村ハ町村住民ノ權利義務又ハ町村ノ事務ニ關シ

町村條例ヲ設クルコトヲ得

町村ハ町村ノ營造物ニ關シ町村條例ヲ以テ規定スルモノ

ノ外町村規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及町村規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 町村會

第二款 職務權限

第三十九條 町村會ハ町村ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ

其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十條 町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 町村條例及町村規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事

二 町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第七十

七條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在

ラス

三 歳入出豫算ヲ定ムル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加入

金、町村税又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事

七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ

負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ

規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十 町村吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第四十一條 町村會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選

舉ヲ行フヘシ

第四十二條

町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ

檢閲シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行

及出納ヲ検査スルコトヲ得

町村會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ町村長又ハ其ノ指名シ

タル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項町村會ノ權限ニ屬スル

事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十三條

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書

ヲ關係行政廳ニ提出スルコトヲ得

第四十四條

町村會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申

スヘシ

町村會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ町村會

成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セス又ハ町村會

ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ

俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

メ町村會ノ會期ヲ延長スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日目迄ニ之ヲ告知スヘ

シ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

町村會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ町村長ハ直ニ

之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得會議ニ付スル日前三日目

迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第四十八條

町村會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サ

レハ會議ヲ開クコトヲ得但シ第五十條ノ除外ノ爲半數

ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半

數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ關

キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキ若ハ半

數ニ滿ツルモ其ノ後半數ニ滿タザルニ至リタルトキハ此

ノ限ニ在ラス

第四十九條

町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナ

ルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議長ハ其職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲議員トシテ議決

ニ加ハルノ權ヲ失ハス

第五十條

議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、

兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與

第四十五條 町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス町村長故障ア

ルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス町村長及其ノ代

理者共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉

スヘシ

前項假議長ノ選舉ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理

ス年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

特別ノ事情アル町村ニ於テハ第一項ノ規定ニ拘ラス町村

條例ヲ以テ町村會ノ選舉ニ依ル議長及其ノ代理者一人ヲ

置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市制第四十八條及第四十

九條ノ規定ヲ準用ス

第四十六條

町村長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會

議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ決議ニ加ハル

コトヲ得ス

前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スハ

シ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十七條

町村會ハ町村長之ヲ招集ス議員定數ノ三分ノ

一以上ヨリ會議ニ付スベキ事件ヲ示シテ町村會招集ノ請

求アルトキハ町村長ハ之ヲ招集スヘシ

町村長ハ會期ヲ定メテ町村會ヲ招集スルコトヲ得此ノ場

合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ町村長ハ更ニ期限ヲ定

スルコトヲ得但シ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ

出席シ發言スルコトヲ得

第五十一條

法律勅令ニ依リ町村會ニ於テ行フ選舉ニ付テ

ハ第二十二條、第二十五條及第二十七條第一項ノ規定ヲ

準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ町村會之ヲ

決定ス

前項ノ選舉ニ於テ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同ジキ

トキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

町村會ハ議員中異議ナキトキハ第一項ノ選舉ニ付指名推

選ノ法ヲ用フルコトヲ得

指名推選ノ法ヲ用フル場合ニ於テハ被指名者ヲ以テ當選

者ト定ムベキヤ否ヲ會議ニ付シ議員全員ノ同意ヲ得タル

者ヲ以テ當選者トス

一ノ選舉ヲ以テ二人以上ヲ選舉スル場合ニ於テハ被指名

者ヲ區分シテ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ズ

第五十二條

町村會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限

ニ在ラス

一 議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁止シタルトキ

二 議員二人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルト

キ

前項議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決スヘシ
第四十五條第三項ノ町村ニ於ケル町村會ノ會議ニ付テハ
前二項ノ規定ニ拘ラス市制第五十六條ノ規定ヲ準用ス

第五十三條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日
ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス
議員定數ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ
會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カ
サルトキハ第四十五條ノ例ニ依ル

前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異
議アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依ルニ非サレハ其ノ日
ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス

第五十三條ノ二 町村會議員ハ町村會ノ議決スベキ事件ニ
付町村會ニ議案ヲ發スルコトヲ得但シ歳入出豫算ニ付テ
ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル發案ハ議員三人以上ヨリ文書ヲ以テ之
ヲ爲スコトヲ要ス

第五十四條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス
議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論
スルコトヲ得ス

第五十五條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ
市制第六十二條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十九條 町村會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘ
シ
會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ町
村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クル
コトヲ得

第三章 町村吏員
第二款 職務權限

第七十二條 町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス
町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其
ノ議決ヲ執行スル事

二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置
キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四 證書及公文書類ヲ保管スル事

五 法令又ハ町村會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入
金、町村税又ハ夫役現品ヲ賦課徴收スル事

六 其ノ他法令ニ依リ町村長ノ職權ニ屬スル事項
第七十三條 町村長ハ町村吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒

秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ
取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言
ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ
警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中
止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第五十六條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他
會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサル
トキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ
處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ
必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 町村會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處
理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十八條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末
及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ
會議録ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其
ノ議員ハ町村會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十五條第三項ノ町村ニ於ケル町村會ノ會議ニ付テハ
ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金
トス

第七十四條 町村會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ超エ又ハ法
令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見
ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議
ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ但シ特別ノ事由アリト
認ムルトキハ町村長ハ議決ニ付テハ之ヲ再議ニ付セズシ
テ直ニ府縣參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル町村會ノ議決仍其ノ權限ヲ超
エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ
府縣參事會ノ裁決ヲ請フベシ

監督官廳ハ前二項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得

第一項若ハ第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル町村
長又ハ町村會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項又ハ第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ
提起スルコトヲ得

第七十四條ノ二 町村會ノ議決明ニ公益ヲ害スト認ムルト
キハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ
理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スベシ但シ特別ノ事由アリト
認ムルトキハ町村長ハ之ヲ再議ニ付セズシテ直ニ府縣知

事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル町村會ノ議決仍明ニ公益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請フベシ
町村會ノ議決收支ニ關シ執行スルコト能ハザルモノアリト認ムルトキハ前二項ノ例ニ依ル左ニ掲グル費用ヲ削除シ又ハ減額シタル場合ニ於テ其ノ費用及之ニ伴フ收入ニ付亦同ジ

一 法令ニ依リ負擔スル費用、當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用其ノ他ノ町村ノ義務ニ屬スル費用
二 非常ノ災害ニ因ル應急又ハ復舊ノ施設ノ爲ニ要スル費用、傳染病豫防ノ爲ニ要スル費用其ノ他ノ緊急避クベカラザル費用

前三項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七十五條 町村會成立セサルトキ又ハ第四十八條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ町村長ハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ町村會ノ議決スヘキ事件ヲ處置スルコトヲ得

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第七十九條 助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ町村長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第八十條 收入役ハ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務及第七十七條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村會ハ町村長ノ推薦ニ依リ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ但シ副收入役ヲ置キタル町村ハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス

町村長ハ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八十一條 區長ハ町村長ノ命ヲ承ケ町村長ノ事務ニシテ

町村會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル町村長ノ處置ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第七十六條 町村會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ町村會成立セサルトキ又ハ町村長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ町村長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ町村長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七十六條ノ二 町村會ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ハ其ノ議決ニ依リ町村長ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第七十七條 町村長其ノ他町村吏員ハ從來法令又ハ將來法律勅令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ町村ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 町村長ハ其ノ事務ノ一部ヲ助役又ハ區長ニ分

區内ニ關スルモノヲ補助ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第八十二條 委員ハ町村長ノ指揮監督ヲ承ケ財産又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル町村ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第八十三條 第七十一條ノ吏員ハ町村長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第五章 町村ノ財務

第一款 財産營造物及町村稅

第八十九條 收益ノ爲ニスル町村ノ財産ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ

町村ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第九十條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財産又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ町村ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第九十一條 町村ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ

町村規則ヲ設クルコトヲ得

第九十二條 町村ハ第九十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ

徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第九十三條 町村ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコ

トヲ得

町村ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スル

コトヲ得

第九十四條 財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ

他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルト

キ、入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又

ハ又ハ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條 町村ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附

又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第九十六條 町村ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又

ハ將來法律勅令ニ依リ町村ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

町村ハ其ノ財産ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、

若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル町村

稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第九十九條ノ二 合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立

シタル法人ハ合併ニ因リ消滅シタル法人ニ對シ其ノ合併前ノ事實ニ付賦課セラレベキ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

相續人又ハ相續財團ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ被相續人ニ對シ其ノ相續開始前ノ事實ニ付賦課セラレベキ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百條 納稅者ノ町村外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地

家屋物件若ハ其ノ收入又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得

町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對

シ附加稅ヲ賦課スル場合及住所滞在町村ノ内外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨ

リ生スル收入ニ非サルモノニ對シ町村稅ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百一條 所得稅法第十八條ニ掲クル所得ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得

過意金其ノ他法令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第九十七條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ

如シ

- 一 直接國稅及府縣稅ノ附加稅
- 二 特別稅

直接國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第四百十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第九十八條 三月以上町村内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ廻リ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第九十九條 町村内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖町村内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ

若ハ占有シ、町村内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ町村内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ町村

稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ

此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ

有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得

前四項ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第一百一條ノ二 町村ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ町村稅ヲ課セサルコトヲ得

第一百二條 數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

町村ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ町村稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔

セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ

數人又ハ町村ノ一部ヲ利スル財産ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第三百三條

町村税及其ノ賦課徴收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三百四條

數人又ハ町村ノ一部ニ對シテ利益アル事件ニ關シテハ町村ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第三百五條

夫役又ハ現品ハ直接町村税ヲ準率ト爲シ直接町村税ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接國税ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第四百十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得
夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證據ヲ携帶スヘシ

第三百八條

町村長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ハ特別ノ事情アル者ニ限り町村税ヲ減免スルコトヲ得

第三百九條

使用料手数料及特別税ニ關スル事項ニ付テハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ
詐僞其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ町村税ヲ逋脱シタル者ニ付テハ町村條例ヲ以テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ逋脱シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額(其ノ金額五圓未満ナルトキハ五圓)以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料及町村税ノ賦課徴收ニ關シテハ町村條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得財産又ハ營造物ノ使用ニ關シ亦同シ
過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第三百六條

非常災害ノ爲必要アルトキハ町村ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ町村長、警察官吏又ハ監督官廳ハ町村内ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第三百七條

町村税ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲

參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三百十條

町村税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ町村長ハ七日以内ニ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手数料及加入金ノ徵收並夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス
前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前三項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一百十一條 町村税、使用料、手数料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ
夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金銭ヲ納メサルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ徴收スルコトヲ得

滞納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徴收金ハ府縣ノ徴收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徴還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執

行ヲ停止ス

第一百十二條 町村ハ其ノ負擔ヲ償還スル爲、町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限り町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ
町村ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款 歳入出豫算及決算

第一百十三條 町村長ハ每會計年度歳入出豫算ヲ調製シ遅クトモ年度開始ノ一月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提出スヘシ

第一百十四條 町村長ハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第一百十五條 町村費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第一百十六條 町村ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得

第一百十七條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第一百十八條 町村ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第一百十九條 町村會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ町村長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

前二項ノ規定ハ收入役ノ事務ヲ兼掌シタル町村長又ハ助役ニ之ヲ準用ス

第一百二十條 町村ノ支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第一百二十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ検査シ且毎會計年度少クトモ二回臨時検査ヲ爲スヘシ
検査ハ町村長之ヲ爲シ臨時検査ニハ町村會ニ於テ選舉シ

タル議員二人以上ノ立會ヲ要ス

第一百二十二條 町村ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ町村會ノ認定ニ付スヘシ

第六十七條第五項ノ場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル但シ町村長ニ於テ兼掌シタルトキハ直ニ町村會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル町村會ノ議決ト共ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ町村長及助役共ニ議長ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第一百二十三條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第六章 町村ノ一部ノ事務

第一百二十四條 町村ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中町村ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ

依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラ

ス
前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財産
又ハ營造物ノ屬スル町村ノ一部ノ負擔トス
前二項ノ場合ニ於テハ町村ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘ

第二百二十五條

前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アリト認
ムルトキハ府縣知事ハ町村會ノ意見ヲ徵シテ町村條例ヲ
設定シ區會又ハ區總會ヲ設ケテ町村會ノ議決スヘキ事項
ヲ議決セシムルコトヲ得

第二百二十六條

區會議員ハ町村ノ名譽職トス其ノ定數、任
期、選舉權及被選舉權ニ關スル事項ハ前條ノ町村條例中
ニ之ヲ規定スヘシ區總會ノ組織ニ關スル事項ニ付亦同シ
區會議員ノ選舉ニ付テハ町村會議員ニ關スル規定ヲ準用
ス但シ選舉若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選舉
權ノ有無ノ決定ハ町村會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二百二十七條

區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス
知事ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ
得

ムトスルトキハ組合會ノ議決ニ依リ其ノ組合町村ノ數ヲ
增加セムトスルトキハ其ノ町村組合ト新ニ加ハラムトス
ル町村トノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會
又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ組合町
村ノ數ヲ増減シ又ハ一部事務ノ爲設クル組合ノ共同事務
ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第二百三十一條

町村組合ヲ設クルトキハ關係町村ノ協議ニ
依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
組合規約ヲ變更セムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設クル
組合ニ在リテハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設
クル組合ニ在リテハ組合會ノ議決ヲ經テ府縣知事ノ許可ヲ
受クヘシ

第二百三十二條

組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル
町村、組合ノ共同事務及組合役場ノ位置ヲ定ムヘシ
一部事務ノ爲ニ設クル組合ノ組合規約ニハ前項ノ外組合
會ノ組織及組合會議員ノ選舉、組合吏員ノ組織及選任並

第二百二十八條 第二百二十四條ノ町村ノ一部ノ事務ニ關シテ
ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 町村組合

第二百二十九條

町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其
ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコ
トヲ得此ノ場合ニ於テ組合内各町村ノ町村會又ハ町村吏
員ノ職務ニ屬スル事項ナキニ至リタルトキハ其ノ町村會
又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

町村ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ府縣
知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル爲町村
組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合内各町村ノ
町村會及町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會
ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ前二項ノ町村組合
ヲ設クルコトヲ得

第二百三十條

前條第一項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ
數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關
係町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
前條第二項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ減少セ

第二百三十三條

町村組合ヲ解カムトスルトキハ一部事務ノ
爲ニ設クル組合ニ於テハ關係町村ノ協議ニ依リ、全部事
務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知
事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會
又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ町村組
合ヲ解クコトヲ得

第二百三十四條

第三百三十條第一項第二項及前條第一項ノ場
合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係町村ノ協議、關
係町村ト組合トノ協議又ハ組合會ノ議決ニ依リ之ヲ定ム
第三百三十條第三項及前條第二項ノ場合ニ於テ財産ノ處分
ニ關スル事項ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ
府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第二百三十五條

第二百二十九條第一項及第二項第三百三十條第
一項及第二項第三百三十一條第一項及第二項第三百三十三條
第一項並前條第二項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服
アル町村又ハ町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得
組合費ノ分賦ニ關シ違法又ハ錯誤アリト認ムル町村ハ其
ノ告知アリタル日ヨリ三月以内ニ組合ノ管理者ニ異議ノ

申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ組合ノ管理者ハ七日以内ニ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル町村ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ決定及裁決ニ付テハ組合ノ管理者ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三百三十六條 町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外町村ニ關スル規定ヲ準用ス

第八章 町村ノ監督

第三百三十七條 町村ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第三百三十八條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外町村ノ監督ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル町村ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第三百三十九條 本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第三百四十條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁

第四百十一條

監督官廳ハ町村ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

監督官廳ハ町村ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村ノ監督ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第四百十二條

内務大臣ハ町村會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第四百十三條

町村ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

町村長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ町村ノ負擔トス

前二項ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四百十四條

町村長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シ

決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス
行政訴訟ノ提起ハ處分決定裁定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ之ヲ起算ス
異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴訟法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第四百十條ノ二 異議ノ決定ハ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノヲ除クノ外其ノ決定ニ付セラレタル日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スヘシ

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ裁決スヘシ

タル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ町村費ヲ以テ辨償セシムヘシ

臨時代理者ハ有給ノ町村吏員トシ其ノ給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

第四百十五條 (削除)

第四百十六條 (削除)

第四百十七條 左ニ掲グル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ但シ第一號、第四號、第六號及第十一號ニ掲グル事件ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノハ其ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

- 一 町村條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
- 二 基本財産及特別基本財産並ニ林野ノ處分ニ關スルコト
- 三 第九十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更シ又ハ廢止スルコト

- 四 使用料ヲ新設シ又ハ變更スルコト
- 五 均一ノ稅率ニ依ラズシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スルコト

- 六 特別稅ヲ新設シ又ハ變更スルコト
- 七 第二百二條第一項、第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ町村ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムルコト

八 第四百四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコト

九 第四百五條ノ準率ニ依ラズシテ夫役現品ヲ賦課スルコト但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スルコト

十一 町村債ヲ起シ竝ニ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルコト但シ第四百十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラズ

第四百四十八條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第四百四十九條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限リ許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第四百五十條 府縣知事ハ町村長、助役、收入役、副收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ町村吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ町村長、助役、收入役及副收入役ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ行フ

懲戒審査會ハ内務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補闕及任期並懲戒審査會ノ招集及會議ニ付テハ府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス

解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ町村長、助役、收入役及副收入役ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間北海道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ公職ニ就クコトヲ得ズ

第四百五十一條 町村吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九章 雜 則

第七編 雜

第五百五十二條 (削除)

第五百五十三條 府縣知事又ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ内務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事又ハ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第五百五十四條 第十一條ノ人口ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五百五十五條 本法ニ於ケル直接税及間接税ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第五百五十六條 町村又ハ町村組合ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ町村ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五百五十六條ノ二 本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ之ヲ適用ス

第五百五十七條 本法ハ北海道其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セス

前項ノ地域ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ本法ニ代ハルヘキ制ヲ定ムルコトヲ得

附 則

第五百五十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明

市制町村制施行令 (大正十五年六月二十四日) (抄)

第一章 總 則

治四十四年九月勅令第二百三十八號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行

第六十一條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第一條 市町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ市町村長ノ臨時代理者又ハ職務管掌ノ官吏ハ歳入歳出豫算ガ市町村會ノ議決ヲ經テ成立スルニ至ル迄ノ間必要ナル收支ニ付豫算ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ

第二條 市町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ府縣知事ハ必要ナル事項ニ付市町村條例ノ設定施行セララルニ至ル迄ノ間從來其ノ地域ニ施行セラレタル市町村條例ヲ市町村ノ條例トシテ當該地域ニ引續キ施行スルコトヲ得

第三條 市町村ノ廢置分合アリタル場合ニ於テハ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村其ノ事務ヲ承繼ス、其ノ地域ニ依リ難キトキハ府縣知事ハ事務ノ分界ヲ定メ又ハ承繼スベキ市町村ヲ指定ス

前項ノ場合ニ於テ消滅シタル市町村ノ收支ハ消滅ノ日ヲ

以テ打切り其ノ市町村長(又ハ市町村長ノ職務ヲ行フ者)タリシ者之ヲ決算ス

前項ノ決算ハ事務ヲ承繼シタル各市町村ノ市町村長之ヲ

市町村會ノ認定ニ付スベシ

市制第四百二十二條第三項又ハ町村制第二百二十二條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 市町村ノ境界變更アリタル爲事務ノ分割ヲ要スルトキハ其ノ事務ノ承繼ニ付テハ府縣知事之ヲ定ム

第五條 市制第八十二條第三項ノ市ニ於テ新ニ區ヲ劃シ又ハ其ノ區域ヲ變更セントスルトキハ市ハ内務大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ耕地整理若ハ區劃整理ノ爲區ノ區域ヲ變更セントスルトキ又ハ第六十條第一號若ハ第二號ノ場合ニ於テ區ノ區域ヲ變更セントスルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六章 市町村稅ノ賦課徵收

第三十九條ノ二 地租法第六十五條及第六十六條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除セラレタル土地ニ對シテハ其ノ年度分ノ市町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

第三十九條ノ三 免租年期地ニ對シ市町村稅ヲ賦課スベキ場合ニ於テ市町村ノ全部又ハ一部ニ互ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ニ付納稅義務者ノ申請

アリタルトキハ前條ノ例ニ依ル

第四十條 市町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メザル者ニ對シ附加稅ヲ賦課セントスルトキハ市町村長ハ關係市長又ハ町村長(町村長ニ準ズベキ者ヲ含ム)ト協議ノ上其ノ本稅額ノ歩合ヲ定ムベシ

前項ノ協議調ハザルトキハ府縣知事之ヲ定メ其ノ數府縣ニ涉ルモノハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ムベシ

第一項ノ場合ニ於テ直接ニ收入ヲ生ズルコトナキ營業所アルトキハ他ノ營業所ト收入ヲ共通スルモノト認メ前二項ノ規定ニ依リ本稅額ノ歩合ヲ定ムベシ

府縣ニ於テ數府縣ニ涉ル營業又ハ其ノ收入ニ對シ營業稅附加稅、營業收益稅附加稅又ハ所得稅附加稅賦課ノ歩合ヲ定メタルモノアルトキハ其ノ歩合ニ依ル本稅額ヲ以テ其ノ府縣ニ於ケル本稅額ト看做ス

第四十一條 鑛區(砂鑛區域ヲ含ム以下之ニ同ジ)ガ市町村ノ内外ニ涉ル場合ニ於テ鑛區稅(砂鑛區稅ヲ含ム)ノ附加稅ヲ賦課セントスルトキハ鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ其ノ本稅額ヲ分割シ其ノ一部ニノミ賦課スベシ

市町村ノ内外ニ於テ鑛業ニ關スル事務所其ノ他ノ營業所

ニ督促狀ヲ發スベシ

督促狀ニハ市町村條例ヲ以テ定メタル期間内ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スベシ

特別ノ事情アル市町村ニ於テハ市町村條例ヲ以テ第一項ニ規定スル期限ト異リタル期限ヲ定ムルコトヲ得

第四十五條 督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ一日ニ付稅金額ノ萬分ノ四以内ニ於テ市町村ノ定ムル割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ稅金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滯納ニ付市町村長ニ於テ酌量スベキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 令書一通ノ稅金額五圓未滿ナルトキ

二 納期ヲ繰上ゲ徵收ヲ爲ストキ

三 納稅者ノ住所及居所ガ帝國内ニ在ラザル爲又ハ共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ命令又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ノ指定期限迄ニ稅金及督促手数料ヲ完納シタルトキハ延滞金ハ之ヲ徵收セズ

第四十六條 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ徵稅令書ヲ交付シタル市町村稅ニ限り納期前ト雖モ之ヲ徵收スルコ

ト設ケタル場合ニ於テ鑛產稅ノ附加稅ヲ賦課セントスルトキハ前條ノ例ニ依ル、鑛區ガ營業所所在ノ市町村ノ内外ニ涉ル場合亦同ジ

第四十二條 住所滯在ガ市町村ノ内外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生ズル收入ニ非ザルモノニ對シ市町村稅ヲ賦課セントスルトキハ其ノ收入ヲ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スベシ

前項ノ住所又ハ滯在ガ其ノ時ヲ異ニシタルトキハ納稅義務ノ發生シタル翌月ノ初メヨリ其ノ消滅シタル月ノ終迄月割ヲ以テ賦課スベシ但シ賦課後納稅義務者ノ住所又ハ滯在ニ異動ヲ生ズルモ賦課額ハ變更セズ其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滯在スル市町村ニ於テハ賦課ナキ部分ニノミ賦課スベシ

住所滯在ガ同一府縣内ノ市町村ノ内外ニ涉ル者其ノ住所又ハ滯在ノ時ヲ異ニシタル場合ニ於テ其ノ者ニ對シ戶數割附加稅ヲ賦課セントスルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 市町村稅ヲ徵收セントスルトキハ市町村長ハ徵稅令書ヲ納稅人ニ交付スベシ

第四十四條 徵稅令書ヲ受ケタル納稅人納期内ニ稅金ヲ完納セザルトキハ市町村長ハ遅クトモ納期限後二十日目迄

アリタルトキハ前條ノ例ニ依ル

第四十條 市町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メザル者ニ對シ附加稅ヲ賦課セントスルトキハ市町村長ハ關係市長又ハ町村長(町村長ニ準ズベキ者ヲ含ム)ト協議ノ上其ノ本稅額ノ歩合ヲ定ムベシ

前項ノ協議調ハザルトキハ府縣知事之ヲ定メ其ノ數府縣ニ涉ルモノハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ムベシ

第一項ノ場合ニ於テ直接ニ收入ヲ生ズルコトナキ營業所アルトキハ他ノ營業所ト收入ヲ共通スルモノト認メ前二項ノ規定ニ依リ本稅額ノ歩合ヲ定ムベシ

府縣ニ於テ數府縣ニ涉ル營業又ハ其ノ收入ニ對シ營業稅附加稅、營業收益稅附加稅又ハ所得稅附加稅賦課ノ歩合ヲ定メタルモノアルトキハ其ノ歩合ニ依ル本稅額ヲ以テ其ノ府縣ニ於ケル本稅額ト看做ス

第四十一條 鑛區(砂鑛區域ヲ含ム以下之ニ同ジ)ガ市町村ノ内外ニ涉ル場合ニ於テ鑛區稅(砂鑛區稅ヲ含ム)ノ附加稅ヲ賦課セントスルトキハ鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ其ノ本稅額ヲ分割シ其ノ一部ニノミ賦課スベシ

市町村ノ内外ニ於テ鑛業ニ關スル事務所其ノ他ノ營業所

ニ督促狀ヲ發スベシ

督促狀ニハ市町村條例ヲ以テ定メタル期間内ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スベシ

特別ノ事情アル市町村ニ於テハ市町村條例ヲ以テ第一項ニ規定スル期限ト異リタル期限ヲ定ムルコトヲ得

第四十五條 督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ一日ニ付稅金額ノ萬分ノ四以内ニ於テ市町村ノ定ムル割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ稅金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滯納ニ付市町村長ニ於テ酌量スベキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 令書一通ノ稅金額五圓未滿ナルトキ

二 納期ヲ繰上ゲ徵收ヲ爲ストキ

三 納稅者ノ住所及居所ガ帝國内ニ在ラザル爲又ハ共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ命令又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ノ指定期限迄ニ稅金及督促手数料ヲ完納シタルトキハ延滞金ハ之ヲ徵收セズ

第四十六條 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ徵稅令書ヲ交付シタル市町村稅ニ限り納期前ト雖モ之ヲ徵收スルコ

ト設ケタル場合ニ於テ鑛產稅ノ附加稅ヲ賦課セントスルトキハ前條ノ例ニ依ル、鑛區ガ營業所所在ノ市町村ノ内外ニ涉ル場合亦同ジ

第四十二條 住所滯在ガ市町村ノ内外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生ズル收入ニ非ザルモノニ對シ市町村稅ヲ賦課セントスルトキハ其ノ收入ヲ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スベシ

前項ノ住所又ハ滯在ガ其ノ時ヲ異ニシタルトキハ納稅義務ノ發生シタル翌月ノ初メヨリ其ノ消滅シタル月ノ終迄月割ヲ以テ賦課スベシ但シ賦課後納稅義務者ノ住所又ハ滯在ニ異動ヲ生ズルモ賦課額ハ變更セズ其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滯在スル市町村ニ於テハ賦課ナキ部分ニノミ賦課スベシ

住所滯在ガ同一府縣内ノ市町村ノ内外ニ涉ル者其ノ住所又ハ滯在ノ時ヲ異ニシタル場合ニ於テ其ノ者ニ對シ戶數割附加稅ヲ賦課セントスルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

トヲ得

- 一 國稅徵收法ニ依ル滯納處分ヲ受クルトキ
- 二 強制執行ヲ受クルトキ
- 三 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 四 競賣ノ開始アリタルトキ
- 五 法人ガ解散ヲ爲シタルトキ
- 六 納稅人脱稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ行爲アリト認ムルトキ

第四十六條ノ二 督促狀ノ指定期限迄ニ税金及督促手數料ヲ完納セザルトキハ市町村長ハ市町村條例ヲ以テ定メタル期間内ニ滯納處分ニ著手スベシ

第四十六條ノ三 相續人又ハ相續財團ハ被相續人ニ對シ相續開始前ノ事實ニ付賦課セラルベキ市町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ但シ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人モ亦之ヲ納ムル義務ヲ負フ

國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財產ヲ限度トシテ前項ノ義務ヲ負フ

第四十七條 相續開始ヲ場合ニ於テハ市町村稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收スベシ但シ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得

名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人ガ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス

納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第五十二條 書類ノ送達ヲ受クベキ者ガ其ノ住所若ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ其ノ者ノ住所及居所ガ帝國內ニ在ラザルトキ若ハ其ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第五十三條 市町村ハ内務大臣及大藏大臣ノ指定シタル市町村稅ニ付テハ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得

前項ノ市町村稅ノ徵收ニ付テハ第四十三條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第五十四條 前條第一項ノ規定ニ依リ市町村稅ヲ徵收セシムル場合ニ於テハ納稅人ハ其ノ税金ヲ徵收義務者ニ拂込ムニ依リテ納稅ノ義務ヲ了ス

第五十五條 第五十三條第一項ノ規定ニ依ル徵收義務者ハ徵收スベキ市町村稅ヲ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ市

國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財產ヲ限度トシテ市町村稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス

法人合併ノ場合ニ於テハ合併ニ因リ消滅シタル法人ノ納付スベキ市町村稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ヨリ之ヲ徵收スベシ

第四十八條 共有物、共同事業、共同事業ニ因リ生ジタル物件又ハ共同行爲ニ係ル市町村稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス

第四十九條 同一年度ノ市町村稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スベキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得

地租附加稅ト特別地稅又ハ其ノ附加稅ハ之ヲ同一稅目ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第五十條 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ市町村長ニ申告スベシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第五十一條 徵稅令書、督促狀及滯納處分ニ關スル書類ハ

町村ニ拂込ムベシ、其ノ期日迄ニ拂込マザルトキハ市町村長ハ相當ノ期限ヲ指定シ督促狀ヲ發スベシ

第五十六條 市町村ハ前條ノ徵收ノ費用トシテ拂込金額ノ百分ノ四ヲ徵收義務者ニ交付スベシ

第五十七條 第五十三條第一項ノ規定ニ依ル徵收義務者避クベカラザル災害ニ依リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ税金拂込義務ノ免除ヲ市町村長ニ申請スルコトヲ得

市町村長前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ七日以内ニ市參事會又ハ町村會ノ決定ニ付スベシ市參事會又ハ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ之ヲ決定スベシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二項ノ決定ニ付テハ市町村長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ市町村長又ハ府縣知事ヨリモ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ裁決スベシ

市制第六十條第一項乃至第三項又ハ町村制第四十條

第一項乃至第三項ノ規定ハ第三項乃至第五項ノ訴願ニ之ヲ準用ス

第二項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スベシ

第五十八條

第四十五條乃至第四十八條ノ規定ハ第五十三條第一項ノ規定ニ依リ市町村稅ヲ徵收セシムル場合ノ拂込金ニ之ヲ準用ス

第七節 市町村ノ監督

第五十九條

左ニ掲グル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一 市町村會議員ノ定數増減ニ關スル條例(著シク人口ノ増減アリタルニ因ル市町村會議員ノ定數増減ニ關スル條例ヲ除ク)ヲ設ケ又ハ改正スルコト

二 市會議員選舉區ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト

三 町村制第四十五條第三項ノ規定ニ依リ議長及其ノ代理者ヲ置クコトニ關スル條例ヲ設ケルコト

四 名譽職市長又ハ市參與ヲ置クコトニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト

第五十九條ノ二

左ニ掲グル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

又ハ償還方法ノ變更

四 市町村債又ハ市町村債ノ起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還方法ノ變更ニシテ内務大臣及大藏大臣ノ指定スルモノ

第六十條

左ニ掲グル事件ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一 耕地整理又ハ區劃整理ノ爲市町村又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ境界ヲ變更スルコト但シ關係アル市町村會

又ハ區會ニ於テ意見ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラズ
二 所屬未定地ヲ市町村又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區域ニ編入スルコト但シ關係アル市町村會又ハ區會ニ於テ意見ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三 公告式、印鑑、書類送達、諸證明、市町村ノ一部ノ區會又ハ區總會ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
四 公會堂、公園、水族館、動物園、植物園、鑛泉、浴場、共同宿泊所、消毒所、產婆、袍衣及產穢物焼却場、幼兒哺育場、商品陳列所、勸業館、農業倉庫、殺蛹乾燥場、種畜、牛馬種付所、斃獸解剖場、獸醫、上屋、荷揚場、貯木場、土砂採取場、石材採取場、農具ノ管理及使用竝ニ使用料ニ關スル條例ヲ設ケ又

一 水道(大正十年勅令第三百三十一號第一號ニ該當スルモノヲ除ク)電氣、瓦斯、鐵道、軌道及自動車竝ニ中央卸賣市場法ニ依ル市場ノ使用料ニ關スルコト
二 特別稅段別割ヲ除クノ外特別稅ヲ新設シ又ハ變更スルコト
三 据置期間ヲ通ジ償還期限二年度ヲ超ユル市町村債及借入ノ翌年度ニ於テ借入金ヲ以テ償還スル市町村債ニ關スルコト
四 前號ニ掲グル費用ニ充ツル爲借入ル市町村債ヲ除クノ外据置期間ヲ通ジ償還期限二年度ヲ超ユル市町村債及借入ノ翌年度ニ於テ借入金ヲ以テ償還スル市町村債ニ關スルコト

前項第三號ニ掲グル事件ト雖モ左ニ掲グルモノニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ
一 傳染病豫防費又ハ急施ヲ要スル災害復舊工事費ニ充ツル爲借入ル市町村債
二 小學校舎ノ建築、増築、改築其ノ他小學校設備ノ費用ニ充ツル爲借入ル市町村債ニシテ据置期間ヲ通ジ償還期限十年度ヲ超エザルモノ

三 前二號ニ掲グル市町村債ノ起債ノ方法、利息ノ定率
ハ改廢スルコト
五 手數料、加入金、延滞金及積立金數等ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
六 府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受クル市ニ於テ特別稅特別地稅又ハ大正十五年勅令第三百三十九號第十七條第一項ニ掲グル種類ト同種類ノ特別稅ノ賦課ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト但シ特別稅特別地稅ニ付テハ大正十五年勅令第四百三十三號ニ依リ府縣知事ニ於テ許可スル課稅ノ限度ヲ超ユルモノ及新ニ漁業ニ對シ特別稅ヲ賦課シ又ハ其ノ賦課率若ハ賦課方法ヲ變更スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
七 特別稅戶數割ヲ新設シ又ハ變更スルコト及之ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト
八 使用料、特別稅又ハ委員ニ關スル條例ヲ廢止スルコト
九 三年度ヲ超エザル繼續費ヲ定メ又ハ其ノ年期内ニ於テ之ヲ變更スルコト
十 繼續費ヲ減額スルコト
十一 市町村債ノ借入額ヲ減少シ又ハ利息ノ定率ヲ低減スルコト

十二 市町村債ノ借入先ヲ變更シ又ハ債券發行ノ方法ニ依ル市町村債ヲ其ノ他ノ方法ニ依ル市町村債ニ變更シ若ハ債券發行ノ方法ニ依ラザル市町村債ヲ債券發行ノ方法ニ依ル市町村債ニ變更スルコト

十三 市町村債ノ償還年限ヲ短縮シ又ハ其ノ償還年限ヲ延長セズ且利息ノ定率ヲ高メズシテ借替ヲ爲シ若ハ繰上償還ヲ爲スコト但シ外資ニ依リタル市町村債ノ借替又ハ外資ヲ以テスル借替ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

十四 市町村債ノ償還年限ヲ延長セズシテ不均等償還ヲ元利均等償還ニ變更シ又ハ年度内ノ償還期若ハ償還期數ヲ變更スルコト

十五 府縣ノ基金若ハ資金又ハ市町村ニ轉貸ノ爲主務大臣ノ許可ヲ得テ借入レタル府縣債ノ收入金ヨリ借入ル市町村債ヲ起シ及其ノ起債ノ方法、利息ノ定率又ハ償還方法ヲ變更スルコト

十六 市町村債ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

第八章 市制第六條ノ市ノ區

第六十一條 府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ新ニ區會ヲ設クルコトヲ得

第六十七條 區會ノ職務權限ニ關シテハ市會ノ職務權限ニ

第七十一條 前數條ニ定ムルモノノ外區ニ關シテハ市制第一百十四條、第一百十五條、第三十條第二項乃至第六項、第三十一條第一項、第二項、第四項乃至第八項及第三百三十三條乃至第四百三十三條並ニ本令第一條乃至第四條ノ規定ヲ準用ス但シ第三百三十條第三項中市參事會トアルハ區會、第四百四十一條第二項中名譽職參事會員トアルハ區會議員トス

前項ノ規定ニ依リ市制第三百三十一條第一項ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ市ハ區會ノ意見ヲ徵シ市條例ヲ定メ區ヲシテ手数料ヲ徵收セシムルコトヲ得

第七十二條 區ノ監督ニ付テハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十三條 市町村組合又ハ町村組合ニ關シテハ第一條乃至第四條ノ規定ニ拘ラズ組合規約ニ於テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十四條 本令中府縣、府縣知事又ハ府縣參事會ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各北海道、北海道廳長官又ハ北海道參事會ニ、本令第一章中町村長又ハ町村條例ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各町村長又ハ町村條例ニ準ズベ

關スル規定ヲ準用ス
區長ト區會トノ關係ニ付テハ市長ト市會トノ關係ニ關スル規定及市制第九十二條ノ規定ヲ準用ス

第六十八條 區會ヲ設ケザル區ニ於テハ區會ノ職務ハ市會之ヲ行フ

第六十九條 市ハ區會ノ意見ヲ徵シ區ノ營造物ニ關シ市條例又ハ市規則ヲ設クルコトヲ得
市制第二百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
區ハ前二項ノ市條例ノ定ムル所ニ依リ區ノ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ過料ヲ科スルコトヲ得

第七十條 區ハ其ノ財産及營造物ニ關シ必要ナル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ
前項ノ支出ハ區ノ財産ヨリ生ズル收入、使用料其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル收入ヲ以テ之ニ充テ仍不足アルトキハ市ハ其ノ區ニ於テ特ニ賦課徵收スル市稅ヲ以テ之ニ充ツベシ

前項ノ市稅ニ付市會ノ議決スベキ事項ハ區會之ヲ議決ス但シ市ノ定メタル制限ヲ超ユルコトヲ得ズ
市制第九十八條第四項ノ規定ニ依リ市ノ負擔スル費用ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

モノニ之ヲ適用ス

北海道二級町村ノ區域ノ境界ニ涉リ市ノ設置又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ新ニ市ノ區域ニ屬シタル地域ニ關シ必要ナル選舉人名簿ハ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市ノ市長之ヲ調製スベシ

前項ノ選舉人名簿ニ關シ市制第二十一條乃至第二十一條ノ五ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ北海道廳長官ニ於テ其ノ期日又ハ期間ヲ定ムベシ但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス

前項ノ規定ニ依リ期日又ハ期間ヲ定メタルトキハ北海道廳長官ハ直ニ之ヲ告示スベシ
市ノ區域ノ境界ニ涉リ北海道二級町村ノ設置又ハ境界變更アリタル場合ニ於テハ市長ハ其ノ市ニ於ケル選舉人名簿中新ニ町村ノ區域ニ屬シタル地域ニ係ル部分ヲ抹消スベシ

附 則

本令中公民權及議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ、其ノ他ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
(以下略ス)

◎行政裁判法(明治二十三年六月三
十日法律第四十八號)

第一章 行政裁判所組織

第一條 行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條 行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 長官ハ親任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ任命セララルモノトス

書記ハ長官之ヲ判任ス

第四條 長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 公然政事ニ關係スルコト
- 二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員タルコト
- 三 兼官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト
- 四 商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ

營ムコト

第五條 第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告

又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セララルコトナシ

行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス

懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ内閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得

第七條 長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス

長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先ナル者之ヲ代理ス

第八條 長官ハ自ら裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得

部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但シ列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺

席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク

議決ハ過半数ニ依ル

第十條 長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加

ハルコトヲ得ス

- 一 裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姊妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ
- 二 裁判スヘキ事件一私人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外ノ地位ニ於テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ
- 三 裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關スルトキ

第十一條 前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ疏明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十二條 忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評

定官カ法律ニ依リ評議及議決ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條 行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政訴訟ノ辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辯護士ニ限ル

第二章 行政裁判所權限

第十五條 行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十六條 行政裁判所ハ損害賠償ノ訴訟ヲ受理セス

第十七條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十八條 行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付キ關係ノ行政廳ヲ羈束ス

第十九條 行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十條 行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス
行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權
限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第二十一條 行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託
スルコトヲ得

第三章 行政訴訟手續

第二十二條 行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書
ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スヘシ
六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但
シ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル
日限ノ計算竝ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテ
ハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

第二十三條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ
除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セス但シ行政
廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要
ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ
得

第二十四條 行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘ
シ

サシムヘシ

答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フヘ
シ

第二十九條 行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限
ヲ指定シテ原告被告交互ニ辯駁書及再度ノ答辯書ヲ差出
サシムヘシ

第三十條 行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ
原告被告交互ニ送付スル代リニ所内ニ於テ之ヲ閱覽セシ
ムルコトヲ得

第三十一條 行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係
アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ又ハ第三者ノ願ニ依リ訴
訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテ
モ亦其效力ヲ有ス

第三十二條 行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣
ヨリ命シタル委員ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムルコトヲ得
代理者ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ

第三十三條 行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告
被告及第三者ヲ召喚シテ審廷ヲ開キ口頭審問ヲ爲スヘシ
原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟
ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一 原告ノ身分、職業、住所、年齢

二 被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告

三 要求ノ事件及其理由

四 立證

五 年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書竝ニ證據書類ヲ
添フヘシ

第二十六條 訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副
本ヲ添フヘシ

第二十七條 行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法
律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又
ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタ
ル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

其訴狀ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲
メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第二十八條 行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其
副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出

旨ヲ申立タル場合ニ於テハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直ニ
判決ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辯明ヲ聽ク
ヘシ
審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘ
シ

原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ點ニ就キ文書ニ盡
ササル所ヲ補足シ又ハ誤謬ヲ更正シ若クハ新ニ證據ヲ提
出シ及證書ヲ提示スルコトヲ得

第三十五條 主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ
辯護スル爲メ委員ヲ命シ審廷ニ差出スコトヲ得
行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシ
ムヘシ

第三十六條 行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス
安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求ア
ルトキハ行政裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコ
トヲ得

第三十七條 公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ
退カシムルノ前之ヲ言渡ス

第三十八條 行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命シ

竝ニ必要ト認ムル證憑ヲ徵シ證人及鑑定人ヲ召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得
證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡ササル場合ニ於テ處分スヘキ科罰ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ舉證ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁判所又ハ行政廳ニ囑託シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條 行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得

第四十條 審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

第四十一條 召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三者出廷セサルコトアルモ行政裁判所ハ其審判ヲ中止セス原告被告及第三者共ニ出廷セサルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 裁判宣言書ハ理由ヲ附シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原

付行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

- 一 海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

◎**訴願法** (明治二十三年十月十日 法律第五號)

第一條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

- 一 租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官民有區分ニ關スル事件
- 六 地方警察ニ關スル事件

其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條 訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

告被告及第三者ニ交付スヘシ
行政訴訟ノ文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルヲ要セス
第四十三條 行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

第四章 附 則

第四十四條 此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス (四一年勅二五四號樺太(施行))

第四十五條 第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス

裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條 従前ノ法令ニシテ此法律ト牴觸スルモノハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍従前ノ成規ニ依リ處分スヘシ

◎**行政廳ノ違法處分ニ由リ行政裁判所ニ出訴シ得ヘキ事件** (明治二十三年十月十日 法律第六號)

法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ

訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ
國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテ訴願セントスル者ハ其處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ

第三條 各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘシ

第四條 裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

第五條 訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ侮辱誹毀ニ涉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條 訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齢ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ
訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ竝下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

第七條 多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業住所年齢ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正

當ナルコトヲ證明スヘシ
法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提
起スルコトヲ得

第八條 行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ
其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三
十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコト
ヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經
過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條 法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナル
カ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス
其訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還
付スヘシ

第十條 訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得
郵便遞送ノ數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス

第十一條 第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レ
ル行政廳ハ訴願書ヲ受取りタル日ヨリ十日以内ニ辯明書
及必要文書ヲ添へ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ
第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳

ハ訴願書ヲ受取りタル日ヨリ三日以内ニ上級行政廳ニ之
ヲ發送スヘシ

第二條第三項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二
項ノ例ニ依ルヘシ

第十二條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外
行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ
訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止
スルコトヲ得

第十三條 訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決
ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲
スコトヲ得

第十四條 訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付ス
ヘシ訴願ヲ却下スルトキ亦同シ

第十五條 訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由
シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ訴願書ヲ却下スルトキ亦同
シ

第十六條 上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ
羈束ス

第十七條 訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程ア
ルモノハ各其規程ニ依ル

附 則

第十八條 明治十五年^{十二月}第五十八號布告請願規則ハ此法
律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條 此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願
ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處分ス

請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スル
ヲ得ヘキ場合ニ於テ更ニ訴願セントスルトキハ此法律ニ
從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

第二十條 第八條ノ訴願期限ハ此法律施行ノ前行政處分ヲ
受ケ又ハ請願規則ニ依リ指令ヲ受ケタル事件ニシテ其處
分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ
對シテハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニ
在ラス

◎請願令(大正六年四月五日
勅令第三十七號)

第一條 請願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外
本令ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二條 請願ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
請願書ニハ侮辱誹毀ニ涉リ又ハ秩序風俗ヲ紊ル文辭ヲ用

ウルコトヲ得ス

第三條 請願書ノ文字ハ端正鮮明ナルコトヲ要ス

第四條 請願書ニハ請願ノ要旨、理由、年月日、請願者ノ
族稱、職業、住所、年齢ヲ記載シ請願者各自之ニ署名捺
印スヘシ

第五條 法人請願者ナルトキハ其ノ名稱及住所ヲ記載シ法
定ノ代表者各自請願書ニ署名捺印スヘシ

第六條 法人ハ其ノ目的ノ遂行ニ關係アル事項ニ非サレハ
請願ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 未成年者及禁治產者ノ請願ハ其ノ法定代理人ニ於
テモ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ請願書ニ代理ノ事由及法定代理人ノ
族稱、職業、住所、年齢ヲ記載シ法定代理人之ニ署名捺
印スヘシ

第八條 署名スルコト能ハサル者ハ他人ヲシテ代署セシム
ルコトヲ得此場合ニ於テハ代署者請願書ニ其ノ事由ヲ附
記シ且其ノ族稱、職業、住所、年齢ヲ記載シ之ニ署名捺
印スヘシ

第九條 請願ハ第七條ノ場合ヲ除クノ外代理人ニ依リテ之
ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 天皇ニ奉呈スル請願書ハ封皮ニ請願ノ二字ヲ朱書

シ内大臣府ニ宛テ其ノ他ノ請願書ハ請願ノ事項ニ付職權ヲ有スル官公署ニ宛テ郵便ヲ以テ差出スヘシ

第十一條 左ニ掲クル事項ニ付テハ請願ヲ爲スコトヲ得ス
一 皇室典範及帝國憲法ノ變更ニ關スル事項
二 裁判ニ干預スル事項

第十二條 相當ノ敬禮ヲ守ラス又ハ本令ノ規定ニ違反スル請願書ハ之ヲ却下ス但シ官公署ニ對スル請願書ハ第三條乃至第五條、第七條第二項又ハ第八條ノ規定ニ違反スルモ之ヲ却下セサルコトヲ得

第十三條 請願ニ對シテハ指令ヲ與ヘス

第十四條 天皇ニ奉呈スル請願書ハ内大臣奏聞シ旨ヲ奉シテ之ヲ處理ス

第十五條 請願ニ關シ官公署ノ職員ニ強テ面接ヲ求メタル者ハ二月以下ノ禁錮若ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
二人以上共ニ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 行幸ノ際沿道又ハ行幸地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス行啓ノ際沿道又ハ行啓

第三條 當該行政官廳ハ密賣淫犯者若ハ其ノ前科者ニシテ尙密賣淫ノ常習アル者ニ對シ其ノ健康ヲ診斷シ若ハ指定シタル醫師ノ檢診ヲ受ケシメ傳染性疾患ニ罹リ必要アリト認ムルトキハ病院ニ入ラシメ又ハ指定シタル醫師ノ治療ヲ受ケシメ治療ニ至ル迄指定シタル場所ニ居住セシメ其外出ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ療養ノ費用ハ本人又ハ媒合者ノ負擔トス但シ本人又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ資力ナシト認ムルトキハ廳府縣警察費ヲ以テ支辨スヘシ

風俗上ノ取締ヲ要スル業ヲ爲ス者ノ居住其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 當該行政官廳ハ天災、事變ニ際シ又ハ勅令ノ規定アル場合ニ於テ危害豫防若ハ衛生ノ爲必要ト認ムルトキハ土地、物件ヲ使用、處分シ又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第五條 當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基ツキテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ヲ強制スル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
一 自ら義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコト

地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者亦同シ

第十七條 請願ヲ爲サシムル爲他人ヲ誘惑若ハ煽動シ又ハ名義ノ何タルヲ問ハス請願ニ關スル運動ノ爲金錢其ノ他ノ利益ヲ收受シ、要求シ若ハ其ノ收受ヲ約束シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

◎行政執行法(明治三十三年六月二日 法律第八十四號)

第一條 當該行政官廳ハ泥醉者、癡癲者、自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ戒器、兇器其ノ他危險ノ虞アル物件ノ假領置ヲ爲スコトヲ得暴行、鬭爭其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル爲必要ナルトキ亦同シ

前項ノ檢束ハ翌日ノ日没後ニ至ルコトヲ得ス又假領置ハ三十日以内ニ於テ其ノ期間ヲ定ムヘシ

第二條 當該行政官廳ハ日出前、日没後ニ於テハ生命身體又ハ財產ニ對シ危害切迫セリト認ムルトキ又ハ博奕、密賣淫ノ現行アリト認ムルトキニ非サレハ現居住者ノ意ニ反シテ邸宅ニ入ルコトヲ得ス但シ旅店、割烹店其ノ他夜間ト雖衆人ノ出入スル場所ニ於テ其ノ公開時間内ハ此ノ限ニ在ラス

二 強制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ強制スヘキトキハ命令ノ規定ニ依リ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス行政官廳ハ第一項ノ處分ニ依リ行爲又ハ不行爲ヲ強制スルコト能ハスト認ムルトキ又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非サレハ直接強制ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 第三條及第五條ノ費用及第五條ノ過料ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス第一項ノ費用及過料ニ關スル練替支辨、收入ノ所屬其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 認可又ハ許可ヲ受クルニ非サレハ所有スルコトヲ得サル物件行政官廳ノ保管ニ歸シタル場合ニ於テ其ノ所有ヲ認許スヘカラサルトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス假領置ヲ爲シタル物件ニシテ一箇年以内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキ亦同シ

◎行政執行法施行令(明治三十三年六月二日 勅令第二百五十三號)

第一條 廳府縣長官ハ行政執行法第三條ノ健康診斷ヲ行フカ爲必要ナル設備ヲ爲スヘシ
前項設備ニ用スル費用ハ廳府縣警察費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第二條 生命、身體若ハ財産ニ對シ危害切迫セリト認メ又ハ水陸ノ交通ニ危害ヲ及ホスノ虞アリト認メタルトキハ當該行政官廳ハ行政執行法第四條ニ依リ必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得

左ノ各號ニ掲グル土地、物件ニ關シテハ法令ノ規定ニ違反シ因テ危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

- 一 崩塌又ハ人ヲ陷落セシムルノ虞アル場所
- 二 家屋其ノ他ノ工作物
- 三 船車其ノ他交通ノ用ニ供スル器具又ハ裝置
- 四 汽關、汽機及其ノ附屬裝置
- 五 前各號ニ掲ケタルモノノ外主務大臣ノ定メタル土地物件

第三條 危害豫防ノ爲又ハ衛生上必要ト認ムル物品ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ必要ナル分量ヲ試驗ノ用ニ供スルコトヲ得

強制スル爲豫メ戒告ヲ爲ストキ、自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ若クハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルトキ又ハ行政處分ヲ強制スル爲過料ニ處スルトキハ第五條、第六條及第七條第一項ノ規定ヲ準用ス

第四條 行政執行法第五條ノ過料ハ處分ヲ爲ス行政官廳ノ區別ニ從ヒ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 各省大臣 二十五圓
- 二 廳府縣長官 十圓
- 三 其ノ他ノ行政官廳 二圓

第五條 行政執行法第五條ノ戒告ハ履行期間ヲ定メ且書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六條 行政執行法第五條ノ費用ノ徵收ハ現ニ要シタル費用及其ノ納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

過料ノ處分ハ其ノ金額及納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

第七條 行政執行法第五條ノ費用ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ヨリ之ヲ支出シ其ノ徵收金及過料ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ニ收入スヘシ
前項ノ規定ハ行政執行法第三條ノ費用ニ付之ヲ準用ス但シ本人又ハ媒合者ヲシテ病院ニ辨償セシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 他ノ法令ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ行政處分ヲ附 則

夜間檢疫信號ヲ定メ晝間ハ萬國船舶信號ニ依ル…………… 186

ユ 輸、郵

輸出菓子糖菓原料砂糖戻税法…………… 263

輸出菓子糖菓原料砂糖戻税法施行規則…………… 264

輸出スル植物ニシテ検査證明ヲ必要トスルモノノ種類…………… 215

輸出入植物取締法…………… 208

輸出入植物取締法施行規則…………… 211

輸出入植物取締法ニ依リ検査ヲ行フ海港指定ノ件…………… 214

輸出蜜蜂検査規則…………… 216

郵便ニ依リ外國ヨリ輸入シタル物品ノ内國稅ニ關スル件…………… 261

ヨ 要、横

要港部令…………… 34

要港地帯法…………… 277

要塞地帯法施行規則(陸)… 280

要塞地帯法施行規則(海)… 283

横須賀軍港ノ境域…………… 311

横濱、神戸、長崎港ニ開港港則實施ノ件…………… 138

横濱税關棧橋及繫船岸壁使用料ニ關スル件…………… 111

横濱税關ニ屬スル電燈使用料…………… 117

リ 陸、臨

陸軍運輸部令…………… 35

陸軍運輸部出張所ノ名稱及位置…………… 35

陸軍軍用動物檢疫規則…………… 335

陸軍所轄船舶檢疫規則…………… 332

陸軍省官制…………… 34

陸軍防禦營造物ノ地帯並ニ區域ノ件…………… 286

臨時開廳貨物積卸其他特許手數料…………… 264

臨時海港檢疫所官制…………… 47

臨時海事法令調査會規則 …… 38

臨時内閣ニ東北局ヲ設置スルノ件…………… 3

臨時陸軍檢疫所官制…………… 35

臨時陸軍檢疫所官制ノ所定ニ基ク臨時陸軍檢疫所…………… 36

レ 練

練習驅逐艦、同掃海艇、潛水艦、特務艇及雜役船ノ定繫區域港…………… 330

漁業法第四十四條 (第三項乃出第五項)

漁業組合聯合會ハ第四十三條ノ二第一項第三號若ハ第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合又ハ漁業漁合聯合會ヲ以テ之ヲ構成ス

漁業組合聯合會ノ組織ハ有限責任及保證責任ノ二種トス

第四十三條第三項、第四十三條ノ二、第四十三條ノ三第二項乃至第四項、第四十三條ノ四、第四十三條ノ五第二項、第四十三條ノ六、第四十三條ノ七及前條ノ規定ハ漁業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第四十三條ノ二中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トス

同法第四十九條ノ二 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ役員何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス組合若ハ聯合會ノ事業ノ範圍外ニ於テ貸付ヲ爲シ又ハ投機取引ノ爲ニ組合若ハ聯合會ノ財産ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セズ

補遺

朝鮮臺灣又ハ關東州ニ船籍港
ヲ定ムル船舶ニシテ戰時陸
海軍ノ使用ニ供セラルルモ
ノハ内地不開場ニ寄港スル
ヲ得ルノ件…………… 482

朝鮮又ハ臺灣ヨリ移出シタル
物品ノ内地又ハ樺太ニ於ケ
ル取締ニ關スル件…………… 262

朝鮮ヨリ移入スル牛ノ家畜傳
染病檢疫ニ關スル件…………… 201

賃取橋及渡船場設置ニ關スル
件…………… 500

鎮守府令…………… 33

ツ 通、敦

通航料徵收規程…………… 355

敦賀鐵道棧橋使用規則…………… 113

テ 遞、帝、鐵、傳、電

遞信局官制…………… 38

遞信省官制…………… 36

遞信省管船局船舶試驗所支所
名稱位置…………… 38

遞信省分課規程…………… 36

帝國ト關東州トノ間ニ通航ス
ル船舶ノ件…………… 239

鐵道營業法…………… 519

鐵道會議官制…………… 45

鐵道局官制…………… 44

鐵道國有法…………… 512

鐵道省官制…………… 42

鐵道省分課規程…………… 43

鐵道船舶郵便法…………… 550

鐵道敷設法…………… 512

傳染病豫防法…………… 187

傳染病豫防法施行規則…………… 188

電信法…………… 552

電報規則…………… 552

ト 都、土、燈、東、痘、道、噸

都市計畫法…………… 574

土地收用法…………… 585

土地收用法施行令…………… 597

土木會議官制…………… 14

土木工事起業者保證金
納付方…………… 99

土木費官費廢止ノ件…………… 103

土木費舊慣施行ノ件…………… 102

土木費負擔所屬區分
方ノ件…………… 102

燈臺局官制…………… 41

燈標私設禁止ノ件…………… 449

東北振興調查會官制…………… 3

痘瘡豫防ノ爲輸入
禁止ノ物件…………… 189

道路橋梁河川港灣等通行錢徵
收ノ件…………… 107

道路橋梁河川港灣等通行錢徵
收ニ關スル命令書下附ノ
件…………… 108

道路法…………… 486

道路法施行令…………… 496

道路法第七條ノ規定ニヨル同
法ノ規定ノ準用ノ件…………… 500

噸稅法…………… 258

噸稅法施行規則…………… 259

ナ 内

内海水道航行規則…………… 479

内閣調查局官制…………… 1

内地臺灣及樺太ト朝鮮トノ間
ニ出入スル船舶及物件ノ檢
疫及取締ニ關スル件…………… 185

内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト
南洋群島間ニ於ケル船舶及
貨物ノ出入ニ關シ關稅法等
免除ニ關スル件…………… 238

內務省官制…………… 5

內務省所管國有財產取扱規程…
內務省土木試驗所設置ノ件…11

內務省土木試驗所事務ニ關ス
ル件…………… 11

內務省土木出張所名稱及分掌
區域…………… 9

內務省土木出張所處務規程…10

內務省分課規程…………… 6

內務部內臨時職員設置制…………… 7

ニ 日

日没後檢疫ヲ受ケントスル船
舶汽笛發聲方…………… 186

日滿郵便規則…………… 552

ノ 農

農林省官制…………… 31

農林省分課規程…………… 32

フ 府

府縣災害土木費國庫補助ニ關
スル件…………… 103

府縣制…………… 627

府縣制施行令…………… 641

府縣ニ於ケル費用ノ府縣負擔
ニ關スル件…………… 102

ホ 保、防、北

保稅工場法…………… 251

保稅工場法施行規則…………… 254

保稅工場法第五條但書ニ依リ
輸入稅ヲ徵收セラルベキ外
國貨物…………… 257

保稅倉庫法…………… 239

保稅倉庫法施行規則…………… 243

保稅倉庫法第四條
ニ依ル通路…………… 249

防疫職員官制…………… 8

防禦營造物ノ地帶並ニ區域ノ
件…………… 286

防禦海面令…………… 331

北海道移住民渡航船舶取締規
則…………… 477

北海道地方費法…………… 102

北海道廳官制…………… 46

マ 舞

舞鶴要港境域…………… 317

ミ 水、民

水先人法…………… 430

水先人法施行細則…………… 434

民事訴訟ニ付國ヲ代表スルノ
件…………… 11

ム 陸

陸奧國大湊ヲ要港トス…………… 319

メ 明

明治三十年法律第三十七號施
行ニ關スル件…………… 100

モ 門

門司港ニ開港港則
實施ノ件…………… 138

ヤ 夜

私築燈標ノ燈費取立ニ關スル件…………… 450
 資源局官制…………… 1
 資源審議會官制…………… 2
 資源調査法…………… 139
 資源調査令…………… 140
 資源調査令別表ニ基ク港灣指定ノ件…………… 141
 支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル件… 378
 支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル法律ノ施行ニ關スル件…………… 378
 史蹟名勝天然紀念物保存法…………… 581
 自動車交通事業法…………… 501
 自動車交通事業法施行令… 511
 地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷處分ノ件…………… 118
 酒精、酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金ニ關スル件…………… 263
 酒造税法…………… 261
 酒造税法施行規則…………… 261
 重要港灣選定ノ件…………… 51
 省線ト朝鮮及滿洲間發着、荷物通關取扱規程…………… 268
 消毒方法又ハ鼠族驅除ヲ爲スヘキ地方指定…………… 186
 樟腦、樟腦油輸出又ハ輸送ヲナス港灣指定ノ件…………… 275
 食肉輸移出入取締規則…………… 217
 食肉輸移出入取締規則第二條

ニ依ル海港指定…………… 218
 信號所設置…………… 455
 震災ニ因ル府縣災害土木費國庫補助規程…………… 107
 ス 水
 水上警察旗製式…………… 139
 水難救護法…………… 472
 水路告示中緊急ヲ要スル事項等ヲ無線電信ニ依リ放送スル件…………… 457
 水路誌改正ニ付報告要目ヲ定ム…………… 471
 水路部令…………… 33
 セ 請、稅、船、專、潛
 請願令…………… 701
 稅關貨物取扱人法…………… 266
 稅關貨物取扱人法施行細則…………… 267
 稅關官制…………… 17
 稅關官制第一條ノ事務ヲ掌ル稅關官署…………… 28
 稅關管轄區域…………… 21
 稅關管轄區域制定ニ付沿海開港外警察官署所轄稅關ニ通報スヘキ場合ノ件…………… 22
 稅關監視署ノ名稱及位置…………… 26
 稅關經費ニ屬スル物件ノ借入又ハ賣却ニ關スル契約締結方…………… 31
 稅關棧橋及繫船岸壁使用規則…………… 110
 稅關支署ノ名稱、位置及管轄區域…………… 22

稅關出張所又ハ稅關支署出張所設置…………… 25
 稅關所屬船旗章…………… 265
 稅關ニ於ケル內國稅賦課徵收ニ關スル件…………… 261
 稅關分課規程…………… 20
 船員最低年齡法…………… 418
 船員最低年齡法施行令…………… 420
 船員職業紹介法…………… 420
 船員法…………… 394
 船員法施行細則…………… 403
 船鑑札規則…………… 374
 船舶安全法…………… 385
 船舶安全法施行令…………… 391
 船舶職員法…………… 421
 船舶職員法準用ノ件…………… 424
 船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト外國政府間取極ノ件…………… 383
 船舶積量測度法…………… 379
 船舶通航信號、潮流信號ノ件…………… 454
 船舶通報規則…………… 450
 船舶通報事務取扱燈臺…………… 453
 船舶ノ運航ニ關スル取締規則制定改廢報告方…………… 482
 船舶ノ鼠族、昆蟲等ノ驅除施行方依リアリタル場合取扱ノ件…………… 186
 船舶法…………… 356
 船舶法施行細則…………… 360
 專用鐵道規定…………… 532
 潛水艦作業中衝突等ノ危害豫

防ノタメ船舶注意方…………… 469
 ソ 訴、粗、倉
 訴頭法…………… 699
 粗製樟腦專賣法…………… 275
 倉庫業法…………… 599
 倉庫業法施行規則…………… 601
 タ 大、拓、煙
 大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件…………… 262
 大正十五年遞信省令第十三號第二條ノ規定ニ依ル施設場所及受持局所…………… 554
 拓殖及森林事務ニ從事セシムル爲北海道廳ニ臨時職員増置等ノ件…………… 46
 煙草專賣法、鹽專賣法、粗製樟腦、樟腦油專賣法違反事件ニ關スル件…………… 30
 チ 地、畜、町、朝、賃、鎮
 地方海員審判所ノ名稱、位置及管轄區域ニ關スル件…………… 41
 地方官官制…………… 45
 地方官官制ニ依リ府縣ニ土木部設置…………… 45
 地方鐵道法…………… 524
 地方土木職員制…………… 46
 地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷處分ノ件…………… 118
 畜牛結核病豫防法…………… 201
 畜牛結核病豫防法施行規則…………… 203
 町村制…………… 666
 朝鮮移出植物檢査規程…………… 215

海港檢疫並輸入獸類檢疫及
 検査上管轄外ニ於ケル地方
 長官ノ職權ニ關スル件……48
 海港檢疫法……………177
 海港檢疫法施行規則……180
 海港檢疫法ニ依リ船舶消毒ニ
 關スル件……………185
 海事代願人取締規則……392
 海事ニ關スル遞信局ノ管轄區
 域並遞信局海事部同海事部
 出張所名稱、位置及管轄區
 域……………39
 海上衝突豫防法……………459
 海難其ノ他ノ事實届出方…417
 外國郵便規則……………551
 各省官制通則……………4
 各要塞地ニ於ケル禁止制限解
 除ノ事項及其區域…………285
 官設保税倉庫敷料規則……250
 管海官廳ノ事務ヲ行フ市町村
 長等……………415
 關稅法……………219
 關稅法施行規則……………229
 關稅法第三十九條ノ二ニ依ル
 通路指定……………237
 關稅法施行規則第七十七條ニ
 依ル稅關所屬ノ土地建設物
 ノ使用料……………116
 關稅法施行規則ニ依ル稅關曳
 船使用料……………117
 關稅法施行規則ニ依ル稅關起
 重機使用料……………115
 關稅法施行規則ニ依ル收容貨

物ノ敷料……………238
 艦船ノ定繫港區域……………330
 含鹽礦物輸入移入規則……275
 岸壁又ハ棧橋ニ繫留スル船舶
 ト陸上トノ間ノ電話連絡ニ
 關スル件……………553
キ 軌、漁、行
 軌道法……………534
 漁業共同施設獎勵規則……623
 漁業法……………605
 漁業法施行規則……………615
 漁港ノ位置設計調査決定ニ關
 スル件……………14
 行政裁判法……………694
 行政執行法……………702
 行政執行法施行令……………703
 行政廳ノ違法處分ニ關スル行
 政裁判ノ件……………698
ク 國、吳、軍
 國ニ於テ施行スル内國貿易設
 備ニ關スル港灣工事ニ因リ
 生スル土地又ハ工作物ノ下
 付又ハ貸付及使用料ノ徵收
 ニ關スル件……………117
 吳軍港境域……………313
 軍港要港規則……………308
 軍港要港規則違反者
 處分ノ件……………311
 軍港要港ニ關スル件……………308
ケ 繫、警、健
 繫船浮標使用料ニ關
 スル規程……………110
 警視廳官制……………47

健全證書交付手續……………187
コ 港、公、航、神、國、石
 港灣區域決定ノ件……………56
 港灣經營ヲ内務省ニ於テ統一
 施行スルノ件……………11
 港灣經營ヲ内務省ニ於テ統一
 施行スルノ件中開港ニ關ス
 ル工事ノ手續ノ件……………13
 港灣資源調査規則……………142
 港灣指定ノ件……………52
 公共團體ニ對スル工事補助費
 繰越使用ニ關スル件……107
 公共團體ノ管理スル公共用土
 地物件ノ使用ニ關スル件 101
 公設航路標識業務規則……447
 公有水面埋立及港灣工事施行
 協議方ニ關スル件……………95
 公有水面埋立及使用免許取扱
 方……………101
 公有水面埋立法……………79
 公有水面埋立法施行
 期日ノ件……………86
 公有水面埋立法施行令……………86
 航空機作業、掃海作業、曳船
 作業及測量作業ニ從事中帝
 國海軍艦船ニ掲揚スル信號
 ノ形式……………470
 航空法……………538
 航空法施行規則……………548
 航路統制委員會官制……………38
 航路統制法……………482
 航路統制法施行令……………483
 航路標識條例……………447

航路標識ノ位置變更廢停具申
 及報告方……………449
 神戸鐵道棧橋使用規則……112
 國庫ヨリ補助スル公共團體ノ
 事業ニ關スル件……………99
 國有財産法……………557
 國有財産法施行規則……567
 國有財産法施行令……………560
 國立公園法……………578
 石數船改測規則……………382
サ 佐、砂、災
 佐世保軍港境域……………315
 砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵
 收ニ關スル件……………259
 災害土木費國庫補助規程…103
 災害土木費國庫補助規程施行
 細則……………104
 災害土木費國庫補助規程ニ依
 リ國庫補助ヲ受ケ又ハ國庫
 補助ヲ受クヘキ災害工事ニ
 關スル件……………106
シ 市、私、資、支、史、自、
 地、酒、重、省、消、樟、
 食、信、震
 市街地建築物法……………582
 市制……………646
 市制町村制施行令……………685
 私設航路標識取締條規……449
 私設保税倉庫營業ノ特許等
 關シ特許手数料ヲ徵收ノ件
 ニ……………251
 私設保税倉庫營業ノ特許等ニ
 關スル特許手数料……………251

法令索引

件名配列順序ハ頭字ヲ大別シ五十音順ニ倣フ但シ二音
ハ一音例ヘバ「クワ」ハ「カ」ニ扱ヒ又清音ヲ先ニス

法令索引

ウ 宇、運		家畜傳染病檢疫規則…………… 198
宇品港域軍事取締法…………… 321		家畜傳染病豫防法…………… 190
宇品港域軍事取締法		家畜傳染病豫防法
施行規則…………… 323		施行規則…………… 196
運河法…………… 337		家畜傳染病豫防法ニ依リ當分
運河法施行規則…………… 339		ノ内支那、西伯利ヨリ又ハ
エ 營、沿、遠		之ヲ經テ生牛輸入停止… 200
營繕管財局官制…………… 16		開港及開港ニ於テ輸出スヘキ
沿海工事施行ノ際協議方ニ關		貨物ノ指定ニ關スル件…………… 55
スル件…………… 95		開港區域ニ於ケル水面埋立其
遠洋航路補助法…………… 484		他土木工事施行ニ關シ所管
オ 小、大、織		稅關ニ協議方ノ件…………… 94
小樽臨時海港檢疫所出張所開		開港港則ヲ大阪港ニ
設期間…………… 185		施行ノ件…………… 138
大藏省官制…………… 15		開港港則…………… 118
大藏省分課規程…………… 16		開港港則施行規則…………… 124
大湊ヲ要港トス…………… 319		開港閉鎖ノ規定ノ適用ニ關ス
織物消費稅法…………… 264		ル件…………… 56
カ 河、家、開、海、外、各、		海員懲戒法…………… 425
官、管、關、艦、含、岸、		海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル癩
河港等級廢止…………… 79		患者ノ取扱ニ關スル件… 190
河港道路修築規則…………… 78		海軍建築部令…………… 34
河川行政監督令…………… 354		海軍港務部條例…………… 33
河川法ヲ施行若ハ準用セサル		海軍省官制…………… 32
河川又ハ港灣ニ關スル件… 93		海軍省處務規程…………… 33
河川法…………… 343		海軍防禦營造物ノ地帶並ニ區
河川法施行規程…………… 352		域ノ件…………… 286
河川法準用令…………… 354		海港檢疫施行地…………… 184

内務省土木局港灣課

昭和十二年三月二十七日 印刷
昭和十二年三月三十一日 發行

印刷者 杉田彌太郎
東京市麴町區麴町五丁目二番地

印刷所 杉田屋印刷所
東京市麴町區麴町五丁目二番地
電話九段(33) 一〇七二四番





